Japonismes 2018

響きあう魂

ジャポニスム 2018
事業報告書

JAPANFOUNDATION
独立行政法人国際交流基金
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1
Tel. 03-5369-6060
https://japonismes.org/

響きあう魂

異文化と自らの文化を響きあわせ
融合させることで生み出されてきた日本の美意識が
いま一度、フランスと出会い、響き、共鳴する
その共鳴の和は世界に広がっていきます

ごあいさつ

「ジャポニスム2018：響きあう魂」は、日本政府としてこれまで類を見ない規模で文化の発信を行う一大事業として、2018年7月～2019年2月の8か月にわたり、フランスのパリを中心に開催されました。

フランスは、言うまでもなく世界に名だたる文化･芸術の国であり、日本に多大な影響を与えてきたと同時に、19世紀のジャポニスムから始まり日本の文化に深い関心と理解を示してきた国でもあります。ジャポニスム2018は、日仏友好160年を記念し、両国が協力して日本の文化をフランスで大規模に紹介するとともに、両国の感性を共鳴させる場として、2016年5月の日仏首脳会談により開催が決定されました。

国際交流基金はジャポニスム2018の事務局として、事業の企画･運営にあたってまいりましたが、開催まで2年という大変短い準備期間の中、多種多様な日本の文化･芸術事業を実施できたのは、日仏両政府の全面的な協力体制のもと、民間の皆様からの多大なご協力･ご支援、事業に携わった日仏の関係機関･関係者の皆様のご尽力によるものであり、ここにあらためて感謝いたします。

おかげさまで、ジャポニスム2018は、350万人を超える来場者を集め、フランスにおいて大きな反響を呼びました。日本文化の美意識、多様性に初めて触れていただいたり、あらためて関心をもっていただく機会となり、日本ファンを増やすとともに、日仏のさらなる交流、友好関係の強化にも繋がったものと考えております。

ジャポニスム2018によりあらためて確認･強化された両国の絆が、今後もさらに強くなっていくよう、文化交流事業を通じて貢献していきたいと考えておりますので、これからもご協力･ご支援をよろしくお願い申し上げます。

国際交流基金理事長
（ジャポニスム事務局事務総長）
安藤 裕康

目次

第1章 ジャポニスム2018とは 006

開催概要……008
コンセプト……009
体制……010
開催までの経緯……012
皇太子殿下ご訪仏……014
安倍総理大臣訪仏……015
公式企画・特別企画一覧……016
会場マップ……018

第2章 寄稿 ジャポニスム 2018 を振り返る 022

木寺昌人……024
ジャック・ラング……025
高階秀爾……026
藤井慎太郎……027
安藤紘平……028
アレクサンドル・ドゥセーニュ=バリエール…029
富永典子……030
片川喜代治……031
グザヴィエ・シロン……032

第3章 プログラム 034

公式企画

展覧会……036
舞台公演……048
映像……069
生活文化ほか……074
在外公館事業……090
特別企画……091
参加企画……092

第4章 反響・成果 098

数字で見るジャポニスム 2018…100
ジャポニスム 2018 の意義・成果…102
省庁連携・地方連携……104
現代演劇シリーズ　シンポジウム…106
関係者の声……108
高校生の声……110
来場者の声……112

第5章 広報・PR 114

広報活動総括……116
広報大使……117
報道実績……118
公式ウェブサイト・SNS……120
広告・広報協力……121
広報グッズ……122
ジャポニスム 2018 情報センター…123

オフィシャルパートナー・オフィシャルサポーター等 124

第1章

ジャポニスム2018とは

日本とフランス両国の協力のもと開催されたジャポニスム2018
その開催までの道のりと、事業の概略を俯瞰します

開催概要……008
コンセプト……009
体制……010
開催までの経緯……012
皇太子殿下ご訪仏……014
安倍総理大臣訪仏……015
公式企画・特別企画一覧……016
会場マップ……018

開催概要・コンセプト

開催概要

「ジャポニスム2018：響きあう魂」では、パリ及び地方都市の100以上の会場において、展覧会や舞台公演に加え、さまざまな文化芸術を2018年7月から2019年2月の8か月間にわたって紹介しました。

日本文化の原点とも言うべき縄文から琳派、伊藤若冲、そして最新のメディア・アート、アニメ、マンガ、映画さらには歌舞伎から現代演劇や初音ミクまで、日本文化の多様性に富んだ魅力をフランスで紹介しました。同時に、食や祭り等日本人の日常生活に根ざした文化をテーマにした交流イベントも開催しました。
また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成や訪日外国人観光客の拡大等を見据えて、日本各地の魅力をパリに向け、またパリを通して世界に向けて発信しました。さらに日本国内における広報活動を通じて、日本文化を再発見できる機会も提供しました。

背景

「ジャポニスム2018：響きあう魂」は、2016年5月に安倍晋三総理大臣とフランスのフランソワ・オランド大統領（当時）の合意により、日仏友好160年を記念して、日本文化の素晴らしさを世界へ発信する取組として、実施が決定しました。世界的に文化大国として知られ、また以前から日本文化の最もよき理解者でもあるフランスでの開催を実現するため、日仏両国が共同で取り組みました。
日本国内においては、ジャポニスム2018を成功させるべく、「ジャポニスム2018総合推進会議」が設置され、同会議のもと、外務省を中心とする関係府省が連携して準備を行いました。また、ジャポニスム2018の企画立案と運営は国際交流基金に設置されたジャポニスム事務局が担当しました。

プログラム

ジャポニスム2018の事業には、「公式企画」、「特別企画」、「参加企画」の3プログラムがあります。
「ジャポニスム2018 公式企画」は、日本政府主導のもと、さまざまな日本の芸術と文化を幅広く紹介するプログラムです。展覧会、舞台公演、映像、さらには生活文化まで、会期を通じて100を超える企画（在外公館事業を含む）を実施しました。
また、姉妹都市である東京都とパリ市が中心となって実施した文化交流事業「パリ東京文化タンデム2018」のうちの4事業が、「ジャポニスム2018 特別企画」として位置づけられました。
「ジャポニスム2018 参加企画」は、ジャポニスム2018の趣旨にご賛同くださった方々が自主的に企画した日本関連の催しにより構成されたプログラムです。ジャポニスム事務局が参加企画に認定した催しは200を超え、フランス国内の60以上の市町村で多くの方々にジャポニスム2018を盛り上げていただきました。

コンセプト

タイトルである「ジャポニスム2018：響きあう魂」には、2つの意味が込められています。1つは、過去から現代までさまざまな日本文化の根底に存在する、自然を敬い、異なる価値観の調和を尊ぶ「美意識」です。日本人は、常に外部から異文化を取り入れ、自らの文化と響きあわせ融合させることで、新しい文化を創造してきました。多様な価値が調和し、共存するところにこそ、善悪を超えた「美」があると考えるのが日本文化ならではの「美意識」です。この美意識を世界に紹介することがタイトルに込められた1つ目の意味です。
2つ目は、日本とフランスの感性の共鳴です。文化芸術を通して日本とフランスが感性を共鳴させ、協働すること、さらには共鳴の輪を世界中に広げていくことで、21世紀の国際社会が直面しているさまざまな課題が解決に向かうことを期待し、ジャポニスム2018を開催しました。

ロゴマークについて

ジャポニスム2018のロゴマークは、日本の文化が堂々と海を渡って外へ出ていく、その旗印となるようにデザインしました。富士山、太陽、波は、古くから日本の文様等によく描かれるモチーフです。これらの要素を、シャープで現代的な造形と、海の深い青・太陽の赤・波の白の鮮やかなコントラストの色彩で表現しました。

制作者　グラフィックデザイナー　服部一成（はっとり かずなり）

Japonismes 2018

体 制

「日本の美」総合プロジェクト懇談会

「我が国の文化芸術の振興及び次世代への保存継承を図るとともに、文化芸術と日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与する」という施策の検討に資するため、2015年10月、内閣総理大臣のもとで「日本の美」総合プロジェクト懇談会を開催することが決定しました。
2016年4月までの3回にわたる懇談会（座長：故・津川雅彦氏）での議論の中で、日本のもつ文化芸術の力を結集し、さまざまな角度から日本文化を紹介する「日本博」を、2018年に海外の主要都市で実施する、という方向性が示されました。

「日本の美」総合プロジェクト懇談会構成員

- 内永　ゆか子：NPO法人J-Win理事長
- 串田　和美：俳優・演出家
- 幸田　真音：作家
- 小林　忠：美術史学者（江戸時代絵画史）、岡田美術館長
- 千　玄室：茶道裏千家 前家元
- （座長）故・津川　雅彦：俳優・演出家
- 林　真理子：作家
- 森口　邦彦：染色家、友禅作家

第1回「日本の美」総合プロジェクト懇談会
出典：首相官邸ウェブサイト
（https://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/actions/201510/13nihonnobi.html）

2016年5月の日仏首脳会談
出典：首相官邸ウェブサイト
（https://www.kantei.go.jp/jp/97_abe/actions/201605/02italy_france.html）

2019年2月の日仏合同委員会
写真提供：外務省

ジャポニスム2018総合推進会議

ジャポニスム2018の開催準備等に関する関係府省連絡会議

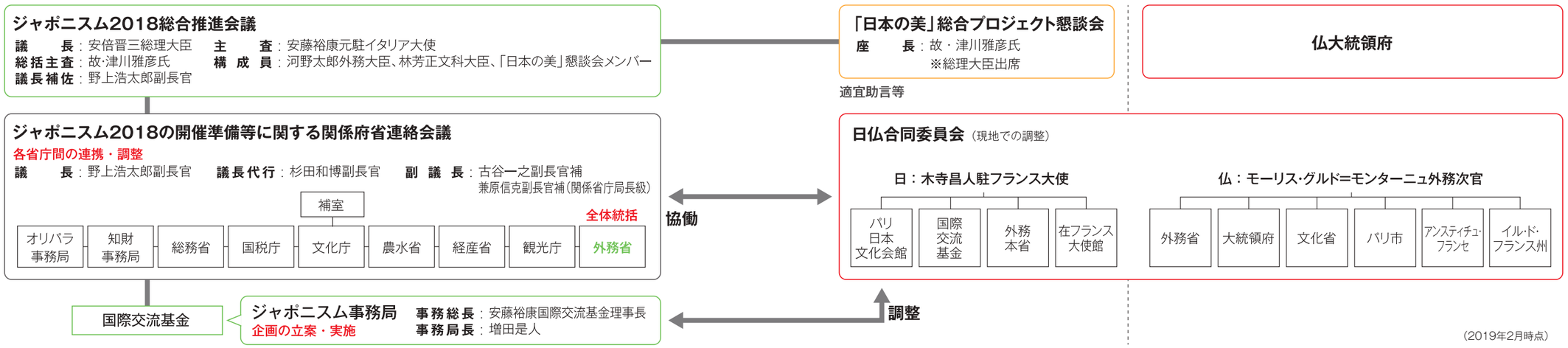
2018年は日仏修好通商条約締結160周年にあたり、「日本の美」総合プロジェクト懇談会での議論も踏まえ、2016年5月の日仏首脳会談において、パリを中心に今世紀最大規模の日本文化発信事業を実施することを安倍総理大臣からオランド大統領（当時）に提案し、賛同を受けました。
両国首脳の合意により実施することとなったジャポニスム2018の具体化、開催準備、その後の展開等について、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成や訪日外国人観光客の拡大等も見据えつつ審議を行うため、安倍総理大臣を議長としてジャポニスム2018総合推進会議を開催することが決定しました。
2016年11月以降、「日本の美」総合プロジェクト懇談会と共催する形で、2019年4月までに4回の会議が開催され、ジャポニスム2018の企画検討状況・実施状況、2019年以降の展開等についての報告・審議が行われました。
また、ジャポニスム2018の準備・実施にあたり、関係府省の緊密な連携を図りながら政府全体の総合調整を行うため、ジャポニスム2018の開催準備等に関する関係府省連絡会議も3回にわたって開催されました。

各会議の詳細は、
「日本の美」総合プロジェクト懇談会
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/nihon_bi_sogoproject/
ジャポニスム2018 総合推進会議
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/japonism2018/
ジャポニスム2018の開催準備等に関する関係府省連絡会議
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/japonism2018_junbi/

日仏合同委員会

ジャポニスム2018のフランスでの実施に関し、日仏両政府が協力してさまざまな検討・調整・意見交換を行うため、日本側は駐フランス大使、フランス側は外務次官をトップとして、2016年5月から2019年2月まで12回にわたり、日仏合同委員会を開催しました。

ジャポニスム2018実施体制



開催までの経緯

記者発表会

2017年11月、東京及びパリにおいて、「ジャポニスム2018：響きあう魂」の開催記者発表会を行いました。それぞれの発表会には日仏両国の大使や著名なゲストが出席し、ロゴマークの発表や主な企画の見どころ等を紹介しました。公式企画関係者を招いてのトークやプレゼンテーションも行われ、翌年のオープニングに向けて期待感を高めました。

東京での記者発表 概要

日　　時：2017年11月22日（水）15:30～
会　　場：観世能楽堂（GINZA SIX内）
司　　会：宮本亜門、渡辺真理
登壇者（敬称略）：野村萬斎、寺島しのぶ、ローラン・ピック（駐日大使）
クリストフ・ルリボー（パリ市立プティ・パレ美術館館長）

パリでの記者発表 概要

日　　時：2017年11月28日（火）10:30～（現地時間）
会　　場：パリ日本文化会館　小ホール
司　　会：ローラン・グマール（ジャーナリスト、ラジオ・プロデューサー）
登壇者（敬称略）：木寺昌人（駐フランス大使）
モーリス・グルド＝モンターニュ（外務次官）
クリストフ・ルリボー（パリ市立プティ・パレ美術館館長）
ディディエ・フュジリエ（ラ・ヴィレット総裁）
ディディエ・デシャン（国立シャイヨー劇場館長）
ローラン・ベイル（フィルハーモニー・ド・パリ館長）
ジャン＝フランソワ・ロジェ（シネマテーク・フランセーズ企画部長）
ベルトラン・ジュレス（フェット・エ・フ代表）
パトリック・ジョリー（ル・グラン・フ・サン＝クルー プロデューサー）

©Mickael Bougouin

©Mickael Bougouin

出陣祝賀会

正式な開幕を間近に控えた2018年7月初めに、事業の成功を祈念し参加者を激励する出陣祝賀会を開催しました。公式企画の参加者のほか、政府関係者や国会議員、スポンサー企業等270名が出席しました。
安倍総理大臣、ピック駐日大使による挨拶に続き、広報大使に就任した香取慎吾さんには安倍総理大臣から特製の法被が手渡されました。企画の代表者が意気込みを語ったほか、公式企画に出演予定のセーラー戦士によるパフォーマンスも行われ、多くの参加者を得ての華やかな会となりました。
メディアによる報道も数多くなされ、ジャポニスム2018の知名度を高める役割も果たしました。

日　　時：2018年7月2日（月）17:40～
会　　場：アークヒルズクラブ
参 加 者：270名及び取材メディア97名
メディア露出：テレビ3番組、新聞36紙、雑誌3誌、ウェブ262件

ジャポニスム2018開会式

2018年7月12日（木）、豪雨災害への対応により安倍総理大臣の出席は急遽中止となりましたが、河野太郎外務大臣及びフランソワーズ・ニッセン文化大臣（当時）出席のもと、ジャポニスム2018開会式がパリで実施され、両大臣がジャポニスム2018の開催に祝辞を述べました。両大臣は式典に先立ち、会場のラ・ヴィレットにて開催中の「teamLab：Au-delà des limites（境界のない世界）」展や日仏青少年のサッカー交流の視察を行いました。式典においては、フランスで開発された文化・芸術作品の鑑賞アプリ「ミクロフォリー」を用いてジャポニスム2018での展示・上演予定作品等が紹介され、両大臣も日仏の子どもたちとともに鑑賞しました。また、和太鼓集団DRUM TAOによるパフォーマンスも式典に華を添えました。開会式後のレセプションでは、日本食とともに、日本酒や泡盛、日本産ワイン等の日本産酒も提供されました。
また、同日には、河瀬直美監督『Vision』の海外初となる特別上映会が、河野外務大臣出席のもと、監督ご本人や主演のジュリエット・ビノシュ氏を迎えてシネマテーク・フランセーズで行われました。

日　　時：2018年7月12日（木）18:00～（現地時間）
会　　場：ラ・ヴィレット
主な登壇者：河野太郎外務大臣、フランソワーズ・ニッセン文化大臣（当時）

写真提供：外務省

皇太子殿下ご訪仏・安倍総理大臣訪仏

皇太子殿下ご訪仏

日仏友好160年を機に、皇太子殿下が2018年9月7日（金）～15日（土）のご日程にてフランスを公式訪問されました。12日には、「宮本亜門演出 能×3D映像『YUGEN 幽玄』」がヴェルサイユ宮殿オペラ劇場において実施されました。殿下はエマニュエル・マクロン大統領とともにご鑑賞になり、その後は同宮殿において行われたマクロン大統領ご夫妻主催の晩餐会に臨まれました。翌13日には、パリ市立プティ・パレ美術館にて「若冲―〈動植綵絵〉を中心に」展をご視察後、裏千家による呈茶に臨まれ、同日夜には国立シャイヨー劇場にて「松竹大歌舞伎」の『色彩間苅豆（いろもようちょっとかりまめ）かさね』と『鳴神』を鑑賞されました。演目の幕間には、殿下ご臨席のもと、「エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔 日本の光を纏う>」の点灯式が行われました。

ご日程（ジャポニスム2018関連）

2018年9月12日（水）
- 「宮本亜門演出 能×3D映像『YUGEN 幽玄』」ご鑑賞（会場：ヴェルサイユ宮殿オペラ劇場）

2018年9月13日（木）
- 「若冲―〈動植綵絵〉を中心に」展 ご視察（会場：パリ市立プティ・パレ美術館）
- 裏千家による呈茶（会場：パリ市立プティ・パレ美術館）
- 「松竹大歌舞伎」ご鑑賞（会場：国立シャイヨー劇場）
- 「エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔 日本の光を纏う>」（会場：国立シャイヨー劇場）

若冲展ご視察のご様子 ©Pierre Grosbois 2018

裏千家による呈茶でのご様子 ©Pierre Grosbois 2018

エッフェル塔特別ライトアップ点灯式 ©Yas

安倍総理大臣訪仏

安倍総理大臣は、2018年10月17日（水）～18日（木）の日程にてフランスを訪問しました。17日にはジャポニスム2018に尽力するフランス側関係者との夕食会が開かれ、安倍総理大臣はフランス側の協力に対して謝意を表明したうえで、「日本とフランスの文化が互いに高め合い、新たな文化を創造していく大きな弾みとなることを期待」する旨述べました。夕食会では、ジャポニスム2018がフランスにおいて大きな反響を呼んでいる旨の発言がフランス側の出席者から出るとともに、ジャポニスム2018の成功を弾みとした日仏間の文化交流等について活発な議論が交わされました。翌18日には、「縄文―日本における美の誕生」展をパリ日本文化会館で視察し、キュレーターの案内のもと、日本の美の原点である縄文の美と、それを生み出した縄文人たちの豊かな精神文化が表現された火焔型土器・土偶等、国宝を含む各展示物を鑑賞しました。

日程

2018年10月17日（水）
- ジャポニスム2018 フランス側関係者との夕食会（会場：獺祭ジョエル・ロブション）

2018年10月18日（木）
- 「縄文―日本における美の誕生」展 視察（会場：パリ日本文化会館）

<深鉢形土器>
縄文時代(後期)・前2000～前1000年
千葉県市川市　堀之内貝塚出土
©Hiroyuki Sawada

ジャポニスム2018関係者との夕食会
写真提供：内閣広報室

公式企画・特別企画一覧

展覧会 17企画

	名称	期間	会場
1	teamLab : Au-delà des limites（境界のない世界）	2018年5月15日(火)～9月9日(日)	ラ・ヴィレット
2	池田亮司 | continuum	2018年6月15日(金)～8月27日(月)	ポンピドゥ・センター
3	Enfance / こども時代	2018年6月22日(金)～9月9日(日)	パレ・ド・トーキョー
4	ルーブル美術館ピラミッド内 特別展示 名和晃平 彫刻作品“Throne”	2018年7月13日(金)～2019年2月18日(月)	ルーブル美術館・ピラミッド内
5	深みへ―日本の美意識を求めて―	2018年7月14日(土)～8月21日(火)	ロスチャイルド館
6	井上有一 1916-1985 ―書の解放―	①2018年7月14日(土)～9月15日(土) ②2018年9月29日(土)～12月17日(月)	①パリ日本文化会館 ②トゥールーズ・ロートレック美術館
7	若冲―（動植綵絵）を中心に	2018年9月15日(土)～10月14日(日)	パリ市立プティ・パレ美術館
8	香取慎吾 NAKAMA des ARTS	2018年9月19日(水)～10月3日(水)	カルーゼル デュ ルーブル シャルル5世ホール
9	安藤忠雄―挑戦	2018年10月10日(水)～12月31日(月)	ポンピドゥ・センター
10	縄文―日本における美の誕生	2018年10月17日(水)～12月8日(土)	パリ日本文化会館
11	明治	2018年10月17日(水)～2019年1月14日(月)	ギメ東洋美術館
12	京都の宝―琳派300年の創造	2018年10月26日(金)～ 2019年1月27日(日)	パリ市立チェルヌスキ美術館
13	ジャポニスムの150年	2018年11月15日(木)～2019年3月3日(日)	装飾美術館
14	MANGA⇔TOKYO	2018年11月29日(木)～12月30日(日)	ラ・ヴィレット
15	藤田嗣治：生涯の作品（1886-1968）	2019年1月16日(水)～3月16日(土)	パリ日本文化会館
16	古都奈良の祈り	2019年1月23日(水)～3月18日(月)	ギメ東洋美術館
17	BEYOND EAST & WEST 日本の伝統美が鮮やかに蘇る	2019年2月19日(火)～23日(土)	パリ日本文化会館

舞台公演 36企画

1	邦楽ライブ 和太鼓×津軽三味線	2018年7月5日(木)～6日(金)	ジャパン・エキスポ
2	和太鼓 DRUM TAO『DRUM HEART』	2018年7月13日(金)、15日(日)	ラ・セーヌ・ミュージカル
3	【2.5次元ミュージカル】ミュージカル『刀剣乱舞』 ～阿津賀志山異聞2018 巴里～	2018年7月15日(日)	パレ・デ・コングレ・ド・パリ大劇場
4	雅楽 宮内庁式部職楽部	①パリ公演 2018年9月3日(月) ②ストラスブール公演 2018年9月6日(木)	①フィルハーモニー・ド・パリ ②コンセルバトワール・ド・ストラスブール
5	宮本亜門演出 能×3D映像『YUGEN 幽玄』	2018年9月12日(水)	ヴェルサイユ宮殿オペラ劇場
6	松竹大歌舞伎	2018年9月13日(木)～19日(水)	国立シャイヨー劇場
7	日仏ダンス共同制作 トリプルビル	2018年9月18日(火)～11月14日(水)	国立シャイヨー劇場、リヨン・ダンスビエンナーレほか
8	野村万作・萬斎・裕基×杉本博司『ディヴァイン・ダンス 三番叟』	2018年9月19日(水)～25日(火)	パリ市立劇場 エスパス・カルダン
9	現代演劇シリーズ―タニノクロウ演出『ダークマスター』	2018年9月20日(木)～24日(月)	国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
10	現代演劇シリーズ―タニノクロウ演出『地獄谷温泉 無明ノ宿』	2018年9月25日(火)～29日(土)	国立演劇センター ジュヌビリエ劇場ほか
11	現代演劇シリーズ―リーディング 飴屋法水作『ブルーシート』	2018年9月22日(土)	パリ市立劇場 エスパス・カルダン
12	現代演劇シリーズ―リーディング 前川知大作『散歩する侵略者』	2018年9月22日(土)	パリ市立劇場 エスパス・カルダン
13	ジャポニスム2018 テクノ・イベント TOKYO HIT vol.3 クラブ・イベント feat.石野卓球	2018年9月28日(金)	ルトラベンド
14	ジャポニスム2018 テクノ・イベント テクノ・コンサート	2018年9月28日(金)	ポンピドゥ・センター
15	野田秀樹演出『贋作 桜の森の満開の下』	2018年9月28日(金)～10月3日(水)	国立シャイヨー劇場
16	ファブリック・シャイヨー／島地保武 ダンス創作のためのレジデンス・プログラム	2018年9月～11月	国立シャイヨー劇場
17	コンテンポラリーダンス―川口隆夫『大野一雄について』	2018年10月2日(火)～5日(金)	パリ市立劇場 エスパス・カルダン
18	JINSEI TSUJI CONCERT	2018年10月4日(木)	パリ日本文化会館
19	現代演劇シリーズ―松井周演出『自慢の息子』	2018年10月5日(金)～8日(月)	国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
20	文楽	2018年10月12日(金)～13日(土)	シテ・ド・ラ・ミュージック
21	伶楽舎 × 森山開次	2018年10月13日(土)	フィルハーモニー・ド・パリ
22	太鼓 林英哲と英哲風雲の会	2018年10月14日(日)	フィルハーモニー・ド・パリ
23	日本舞踊	2018年10月14日(日)～15日(月)	シテ・ド・ラ・ミュージック
24	現代演劇シリーズ―岡田利規演出『三月の5日間』リクリエーション	2018年10月17日(水)～20日(土)	ポンピドゥ・センター
25	現代演劇シリーズ―岡田利規演出『プラータナー：憑依のポートレート』	2018年12月13日(木)～16日(日)	ポンピドゥ・センター
26	現代演劇シリーズ―木ノ下裕一監修・補綴 杉原邦生演出・美術 木ノ下歌舞伎『勧進帳』	2018年11月1日(木)～3日(土)	ポンピドゥ・センター
27	【2.5次元ミュージカル】"Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live	2018年11月3日(土)～4日(日)	パレ・デ・コングレ・ド・パリ大劇場
28	宮城聰演出『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』	2018年11月19日(月)～25日(日)	ラ・ヴィレット
29	現代演劇シリーズ―藤田貴大演出『書を捨てよ町へ出よう』	2018年11月21日(水)～24日(土)	パリ日本文化会館
30	現代演劇シリーズ―岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』	2018年11月22日(木)～12月3日(月)	国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
31	HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE	2018年12月1日(土)	ラ・セーヌ・ミュージカル
32	ジャズ 小曽根真 featuring No Name Horses	2018年12月5日(水)～6日(木)	パリ日本文化会館
33	コンテンポラリーダンス―伊藤郁女×森山未來『Is it worth to save us? 』	2018年12月18日(火)～20日(木)	メゾン・デ・ザールド・クレテイユ
34	能楽	2019年2月6日(水)～10日(日)	シテ・ド・ラ・ミュージック
35	蜷川幸雄演出『海辺のカフカ』	2019年2月15日(金)～23日(土)	国立コリーヌ劇場
36	2018ジャポン×フランス プロジェクト （日本の障害者による舞台芸術の発信／瑞宝太鼓 in フランス）	①ナント公演 2019年2月23日(土)～24日(日) ②パリ公演 2019年2月27日(水)～28日(木)	①フランス国立現代芸術センター リュー・ユニック ②パリ日本文化会館

映像 7企画

1	河瀬直美監督　新作『Vision』特別上映	2018年7月12日(木)	シネマテーク・フランセーズ
2	テレビ日本特集	①テレビ放映 2018年9月1日(土)～7日(金) ②特別上映 2019年1月5日(土)	①ARTE（放映テレビ局） ②パリ日本文化会館
3	日本映画の100年	①第1部 2018年9月26日(水)～10月21日(日) ②第2部-I 2018年11月21日(水)～12月21日(金) ③第2部-II 2019年1月23日(水)～3月18日(月) ④第3部 2019年2月6日(水)～3月19日(火) ⑤地方巡回 2018年9月28日(金)～2019年2月12日(火)	①シネマテーク・フランセーズ ②パリ日本文化会館 ③シネマテーク・フランセーズ ④シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館 ①～⑤シネマテーク・ド・トゥールーズ、アンスティテュ・リュミエール、シネマテーク・ウニース、シネマ・マジェスティク（ヴズール国際アジア映画祭）
4	『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』特別上映会	2018年11月9日(金)～10日(土)	パリ日本文化会館
5	河瀬直美監督特集 特別展・特集上映	2018年11月23日(金)～2019年1月7日(月)	ポンピドゥ・センター
6	KINOTAYO現代日本映画祭	①パリ 2019年1月17日(木)～2月11日(月) ②パリ以外 2019年1月12日(土)～4月1日(月)	①パリ日本文化会館、クラブ・ドゥ・レトワール ②ルイーズ・ワイス高校、シネマ・ルコンティ、ユーロパコープ・シネマ、ピザロ高校、オーヴェル城、シネマ・リュミエール、シネマ・ヴァンドーム、シネマ・メリエス、シネマ・サンテグジュペリ、ル・ヴォパン2、シネマ・アストレ、シネマ・シネトワール・ロッシュビル、シネマ・オランピア、シネマ・シネプラネット、シネマ・マルリマージュ、シネマ・ユートピア
7	『FOUJITA』特別上映会	2019年1月18日(金)～ 27日(日)	パリ日本文化会館、映画館ラルルカン

生活文化ほか 27企画

	名称	期間	会場
1	「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ　日本食アトリエ<子ども向け>	2018年7月18日(水)、10月13日(土)、 2019年2月23日(土)	パリ日本文化会館
2	「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ　日本食アトリエ <調理師学校・シェフ向け>	2018年9月27日(木)、10月16日(火)、 11月19日(月)、12月7日(金)、 2019年1月22日(火)、1月31日(木)	ジャン・ドルアン調理師職業リセ、ルネ・オフレイ調理師職業リセ、ギィヨーム・ティレル調理師職業リセ、トゥール大学食文化食物史欧州研究所、オクシタニー調理師職業リセ、アレクサンドル・デュマ調理師職業リセ
3	「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ　酒巡り in Paris	2018年9月29日(土)～10月5日(金)	パリ市内のレストラン、バー、カフェ 計20軒
4	「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ　日本のお酒試飲の夕べ	2018年11月6日(火)・12日(月)・21日(水)、 2019年1月24日(木)、2月11日(月)・18日(月)	パリ市内のワインバー、ワインカーブ 計6軒
5	「日本の食と文化を考える」シリーズ　Pompidou Extra Festival! 「亡霊の饗宴」	2018年9月8日(土)	ポンピドゥ・センター
6	「日本の食と文化を考える」シリーズ 日本へのクリエイティブな旅展「日本のガストロノミー：地方の食文化を中心に」	2018年10月15日(月)～19日(金)	国際連合教育科学文化機関（UNESCO）本部
7	「日本の食と文化を考える」シリーズ　食文化シンポジウム	2019年2月4日(月)～5日(火)	ソルボンヌ大学
	「日本の食と文化を学ぶ/楽しむ/考える」シリーズ　日本茶の世界		
8	日本茶アトリエ	2018年11月19日(月)	ル・コルドン・ブルー
9	日本茶月間	2018年12月～2019年1月	パリ市内のカフェ、バー 計14軒、ほか1軒
10	日本茶講演会	2018年12月15日(土)	パリ日本文化会館
11	エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔 日本の光を纏う>	2018年9月13日(木)～14日(金) 20時30分～翌1時	エッフェル塔
12	伝統工芸シリーズ① TEWAZA	2018年9月15日(土)～22日(土)	パリ日本文化会館、エスパス・デンサン（Maison WA内）
13	伝統工芸シリーズ② 日本の木で繋ぐ「和」の空間	2018年11月9日(金)～12日(月)、 17日(土)～24日(土)	パルク・エクスポ/ヴァッケン（ストラスブール・サロン・レゾナンス）、エスパス・デンサン（Maison WA内）
14	伝統工芸シリーズ③ 伝統と先端と―日本の地方の底力	2019年2月5日(火)～16日(土)、20日(水)～24日(日)	パリ日本文化会館、ナント・コスモポリス
15	日仏ダイアローグ① 講演会「クローデルの『繻子の靴』」	2018年9月25日(火)	パリ日本文化会館
16	日仏ダイアローグ② 講演会「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」	2018年11月22日(木)	パリ日本文化会館
17	日仏ダイアローグ③ シンポジウム「グローバル・プレイヤーとしての日仏協力：日仏協力の現実と未来」	2018年12月6日(木)～8日(土)	パリ日本文化会館、笹川日仏財団
18	日仏ダイアローグ④ シンポジウム「日本人が見たフランス、フランス人が見た日本」	2019年1月11日(金)～12日(土)	パリ日本文化会館
19	日仏ダイアローグ⑤ シンポジウム「日仏文学の今」	2019年1月18日(金)	オテル・ベッドフォード
20	日仏ダイアローグ⑥ 俳句討論会「クローデルの日本―『百扇帖』をめぐって」	2019年2月5日(火)	パリ日本文化会館
21	禅文化週間	①坐禅会ほか 2018年10月2日(火)～6日(土) ②特別講演 2018年10月7日(日)	①パリ日本文化会館 ②パリ市立劇場 エスパス・カルダン
22	「地方の魅力」―祭りと文化	①祭り/踊り 2018年10月20日(土)～22日(月) ②地方文化 2018年10月17日(水)～19日(金)、 23日(火)～27日(土)	①アクリマタシオン庭園 ②パリ日本文化会館
23	柔道　ジャポニスム2018 JITA-KYOEI PROJECT	①特別講習会 2018年12月7日(金)～9日(日) ②展示 2019年1月15日(火)～26日(土) ③鏡開き 2019年1月19日(土) ④展示・デモンストレーション 2019年2月9日(土)～10日(日)	①アンスティテュ・デュ・柔道、ル・グラン・ドーム、トゥールーズ市スポーツ資源・専門技術・競技力向上センター（CREPS） ②パリ日本文化会館 ③アンスティテュ・デュ・柔道 ④アコーホテルズ・アリーナ
24	いけばな	2019年1月30日(水)～2月2日(土)	パリ日本文化会館
25	茶の湯	2019年2月23日(土)～24日(日)	パリ市立プティ・パレ美術館
26	高校生ニッポン文化大使	2018年11月17日(土)	パリ日本文化会館
27	高校生プレゼンテーション発表会	2019年2月9日(土)	パリ日本文化会館

在外公館事業 14企画

1	ジャポニスム2018広報を兼ねた茶道・日本茶レクチャー	2018年6月25日(月)	メゾン・ビエール・エルメ・パリ
2	ジャパン・エキスポにおける日本文化紹介事業	2018年7月5日(木)	ジャパン・エキスポ
3	ヌヴィル・シュル・ソーヌ市日本祭	2018年9月14日(金)～16日(日)	エスパス・ジャン・ヴィラールほか
4	和太鼓を通じた日仏友好関係発信事業	2018年10月10日(水)～12日(金)	オーケークスブルク城、ヴェッサーラン公園、ルトゥルフ劇場、フランシュ・コンテ現代美術館
5	着物着付けレクチャー・デモンストレーション	2018年11月10日(土)～12日(月)	ストラスブール・サロン・レゾナンス、コルマール国際観光博、ストラスブール総領事公邸
6	繭が紡いだ日仏交流	2018年11月17日(土)、19日(月)	ソワリボネ製糸工場、サンテティエンヌ市芸術産業博物館
7	講演会「村上春樹の世界」	2018年12月3日(月)	パリ日本文化会館
8	ジャポニスム2018記念座談会「フランスにおけるマンガの30年」	2018年12月11日(火)	パリ日本文化会館
9	講演会「香」	2018年12月12日(水)	パリ日本文化会館
10	スポーツ交流／子ども空手ワークショップ	2019年1月30日(水)	アンスティテュ・デュ・柔道
11	日本食レクチャー・デモンストレーション	2019年2月4日(月)	レストラン協会運営料理家育成校、 ストラスブール総領事公邸
12	日本映画に関する講演会	2019年2月8日(金)	ヴズール国際アジア映画祭
13	ジャポニスム2018記念講演会「日仏文化関係の歴史」	2019年2月21日(木)	パリ日本文化会館
14	日本の飴細工の伝統・職人文化	2019年2月28日(木)	パリ日本文化会館

特別企画 4企画

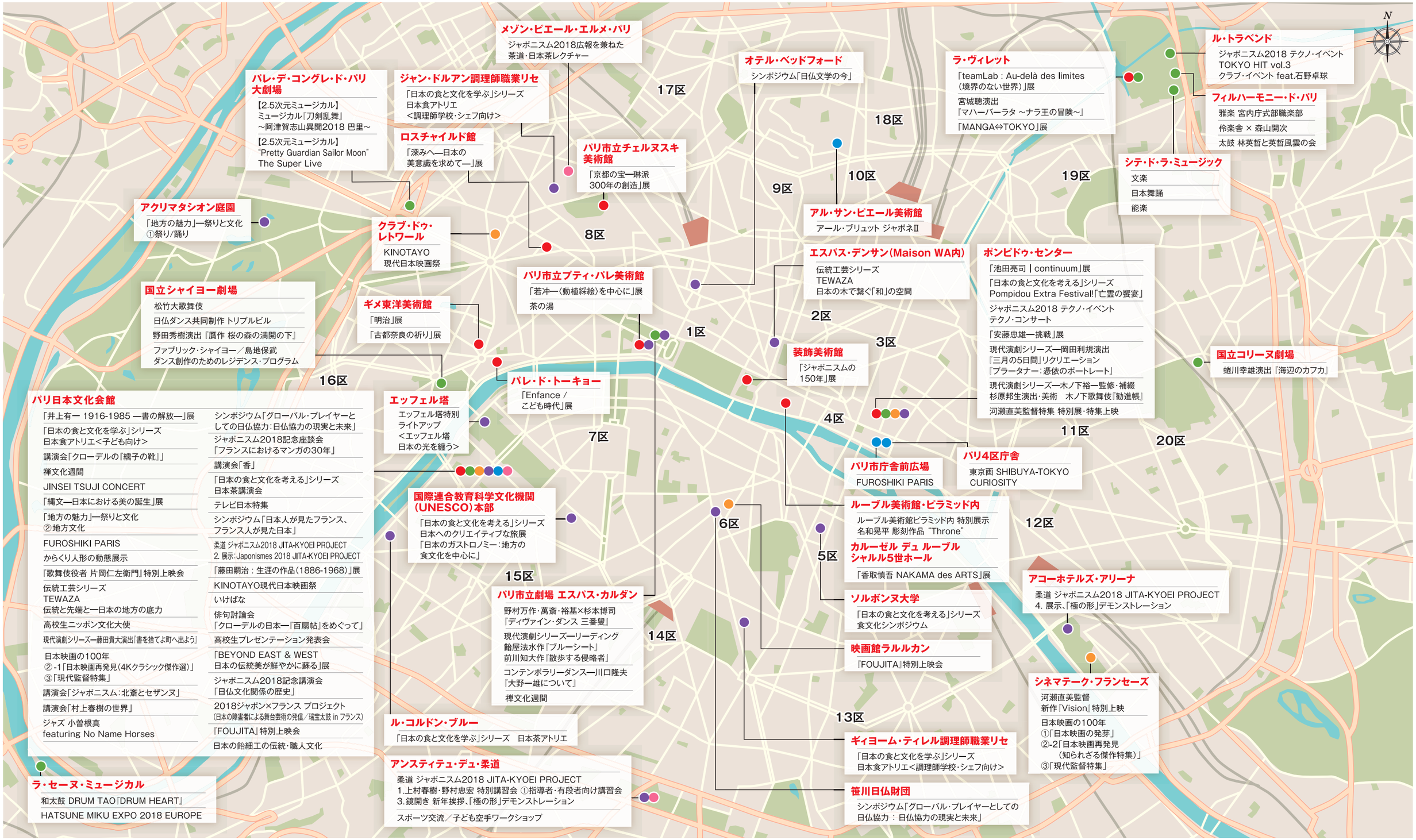
1	アール・ブリュット ジャポネⅡ	2018年9月8日(土)～ 2019年3月10日(日)	アル・サン・ピエール美術館
2	東京圏 SHIBUYA-TOKYO CURIOSITY	2018年10月19日(金)～11月17日(土)	パリ4区庁舎
3	FUROSHIKI PARIS	①2018年11月1日(木)～6日(火) ②2018年11月2日(金) ほか	①パリ市庁舎前広場 ②パリ日本文化会館
4	からくり人形の動態展示	2018年11月2日(金)～3日(土)	パリ日本文化会館

会場マップ

各施設ジャンル： 展覧会　舞台公演　映像　生活文化ほか　特別企画　在外公館事業

パリ市街

©Shinji Abe / CREA Traveller

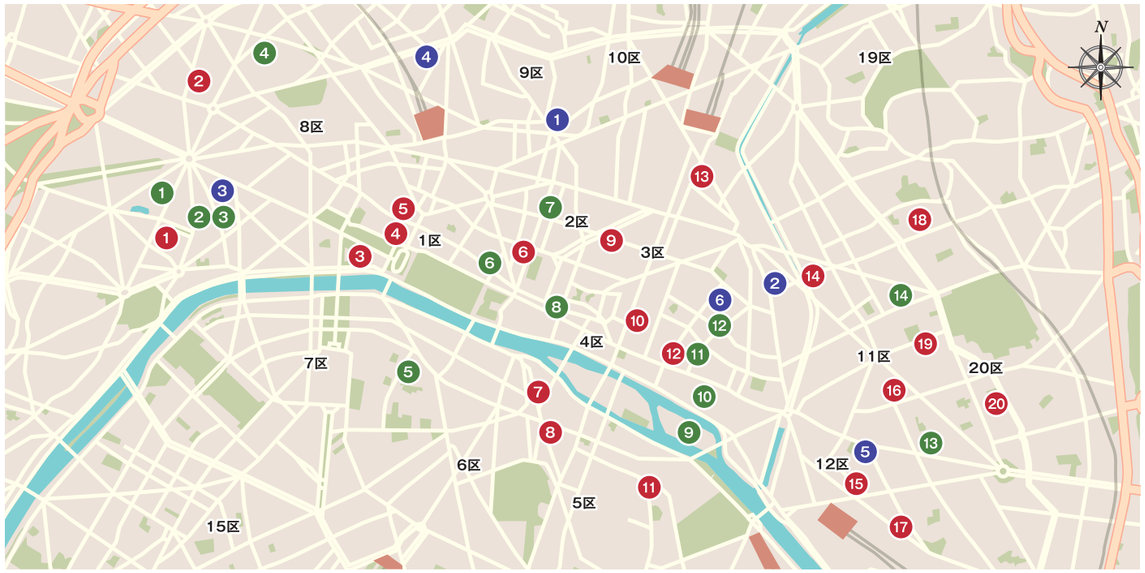


会 場 マ ッ プ

パリ市街/「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ

パリ市内のレストラン･カフェ･バー等で日本の食、お酒、お茶を味わい楽しむ企画を実施しました。

©Shinji Abe / CREA Traveller



酒巡り in Paris

1. Etude エチュード
2. L'huîtrier リュイトゥリエ
3. Pavillon Ledoyen パヴィヨン･ルドワイヤン
4. Buddha-Bar Restaurant ブッダ･バー･レストラン
5. Lucas Carton ルカ･カルトン
6. Enyaa エンヤ
7. Semilla セミーヤ
8. Breizh Café Odéon ブレーズカフェ･オデオン
9. Breizh Café Montorgueil ブレーズカフェ･モントルグイユ
10. Grand Cœur グラン･クール
11. Bonvivant ボンヴィヴァン
12. Jaja ジャジャ
13. Le Bar d'Espace Japon ル･バー･デスパス･ジャポン
14. Botanique restaurant ボタニック･レストラン
15. Maguey マゲイ
16. Automne オートンヌ
17. Ground Control グラウンド･コントロール
18. An di an di アン･ディ･アン･ディ
19. Tempilenti テンピレンティ
20. Le sot l'y laisse ル･ソ･リ･レス

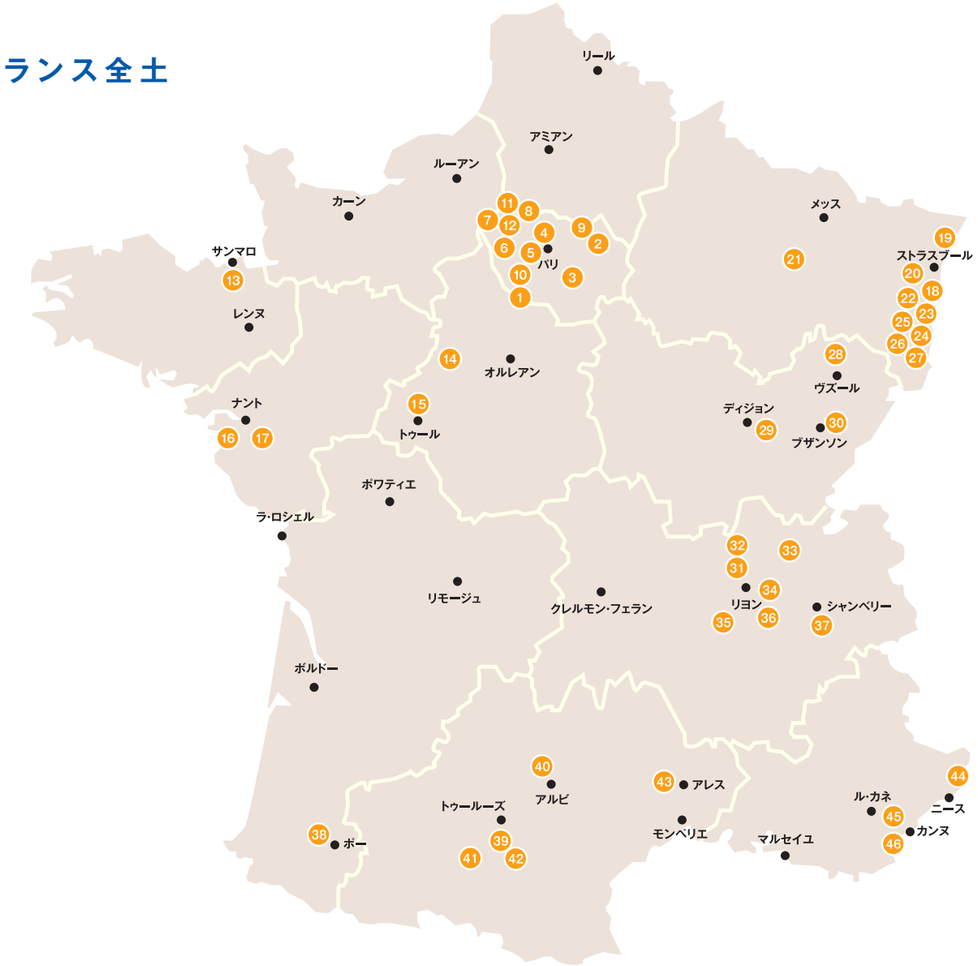
日本のお酒試飲の夕べ

1. Le rouge et le verre ル･ルージュ･エ･ル･ヴェール
2. Goguette ゴゲット
3. 116 pages サン･セーズ･パージュ
4. Le Rouge et le Verre à Turin ル･ルージュ･エ･ル･ヴェール･ア･テュラン
5. Virtus ヴィルテュス
6. Cave « Soif d'ailleurs » カーヴ･ソワフ･ダイユー

日本茶月間

1. Alan Geaam アラン･ギアム
2. Pages パージュ
3. 116 pages サン･セーズ･パージュ
4. La table du caviste Bio ル･ターブル･デュ･キャヴィスト･ビオ
5. Restaurant ES レストランES
6. Soën 1738 宗円1738
7. Accents アクサン
8. La Dame de Pic ル･ダム･ドゥ･ピック
9. L'embrasser ランブラセ
10. Vingt Vins d'Art ヴァン･ヴァン･ダール
11. Jaja ジャジャ
12. Sôma ソーマ
13. Le 6 Paul Bert ル･シス･ポール･ベール
14. La Poudrière ラ･プードゥリエール

フランス全土



1. ル･グラン･ドーム
2. ジャパン･エキスポ
3. メゾン･デ･ザール･ド･クレテイユ
4. 国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
5. ルネ･オフレイ調理師職業リセ
6. ルイーズ･ワイス高校
7. ピサロ高校
8. シネマ･ル･コンティ
9. ユーロッパコープ･シネマ
10. ヴェルサイユ宮殿オペラ劇場
11. オーヴェル城
12. シネマ･ユートピア
13. ル･ヴォバン2
14. シネマ･ヴァンドーム
15. トゥール大学食文化食物史欧州研究所
16. ナント･コスモポリス
17. フランス国立現代芸術センター リュー･ユニック
18. バルク･エクスポ/ヴァッケン(ストラスブール･サロン･レゾナンス)
19. コンセルバトワール･ド･ストラスブール
20. シネマ･サンテグジュペリ
21. シネマ･マルリマージュ
22. アレクサンドル･デュマ調理師職業リセ
23. レストラン協会運営料理家育成校
24. コルマール国際観光博
25. オーケニクスブルク城
26. ヴェッサーラン公園
27. ル･トゥルフ劇場
28. シネマ･マジェスティク(ヴズール国際アジア映画祭)
29. Akatsuki アカツキ
30. フランシュ･コンテ現代美術館
31. ル･ラディアン･ベルヴュ(リヨン･ダンスビエンナーレ)
32. エスパス･ジャン･ヴィラー
33. ソワリボネ製糸工場
34. シネマ･リュミエール
35. サンテティエンヌ市芸術産業博物館
36. アンスティテュ･リュミエール
37. シネマ･アストレ
38. シネマ･メリエス
39. シネマテーク･ドゥ･トゥールーズ
40. トゥールーズ･ロートレック美術館
41. オクシタニー調理師職業リセ
42. トゥールーズ市 スポーツ資源･専門技術･競技力向上センター
43. シネマ･シネプラネット
44. シネマテーク･ドゥ･ニース
45. シネマ･シネトワール･ロッシュビル
46. シネマ･オランピア

第2章

寄稿
ジャポニスム2018を振り返る

日本とフランス両国において、ジャポニスム2018はどう見られたのか
各界の専門家や関係者がその思いを寄せてくださいました

木寺昌人……024
ジャック・ラング……025
高階秀爾……026
藤井慎太郎……027
安藤紘平……028
アレクサンドル・ドゥセーニュ=バリエール…029
富永典子……030
片川喜代治……031
グザヴィエ・シロン……032

寄稿　ジャポニスム2018を振り返る

ジャポニスム2018閉幕に寄せて

駐フランス日本国特命全権大使
木寺昌人

日仏友好160年を記念しフランスで開催された「ジャポニスム2018：響きあう魂」が終わりを迎えました。2018年7月から2019年2月までの8か月の間に、あわせて100以上の公式企画及び200以上の参加企画が実施され、フランスにおいて縄文の古の美から現代日本の最新技術を駆使したアートまで、多様な日本文化を紹介しました。

これだけ多くの展覧会や公演が一度に開催されたことはこれまでフランスにおいてありませんでした。2018年7月のオープニング式典に先立ちラ･ヴィレットにおいて開催された「teamLab：Au-delà des limites（境界のない世界）」展は、30万2,000人もの来場者を集めました。縄文土器から現代アートまであわせて展示し、ジャポニスム2018の目次展としての位置づけであった「深みへ―日本の美意識を求めて―」展は、夏休み期間中だったにもかかわらず、3万6,000人以上の来客を得ました。プティ･パレ美術館において開催された「若冲―〈動植綵絵〉を中心に」展はわずか1か月という開催期間ながら7万5,000人もの来場者を記録しました。宮内庁式部職楽部の「雅楽」は、フィルハーモニー･ド･パリの2,400人収容のホールを満席にしました。そして、アクリマタシオン庭園において開催した「『地方の魅力』―祭りと文化」では3日間で6万人もの来客が日本の地方の祭りを楽しみました。5つの流派の家元･次期家元が集まった「いけばな」の展示は4日間で3,600人以上の来場者を得ましたが、パリ日本文化会館において4日間でこれだけの来場者数を記録するのは初めてだったということです。ここには到底書き切れないほどのさまざまな成功が積み重なり、ジャポニスム2018はでき上がりました。公式企画は200万人超、特別企画･参加企画もあわせると350万人超もの方々にジャポニスム2018を楽しんでいただきました。
このジャポニスム2018の成功は、日本文化をよく知り、いつも高く評価してくださっているフランスの皆様のおかげです。各企画に足を運んでくださったフランスの皆様に、あらためて御礼を申し上げます。

2018年7月にラ･ヴィレットにおいて開催された開会式には、河野外務大臣とニッセン文化大臣（当時）が出席し、ともに「teamLab：Au-delà des limites（境界のない世界）」展を楽しみました。また、9月には皇太子殿下が訪仏され、ヴェルサイユ宮殿においてマクロン大統領とともに「宮本亜門演出 能×3D映像『YUGEN 幽玄』」を堪能されました。皇太子殿下は、翌日には、「若冲―〈動植綵絵〉を中心に」展を視察されるとともに、国立シャイヨー劇場にて「松竹大歌舞伎」をご覧になり、「エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔日本の光を纏う>」の点灯式も行われました。そして、10月には安倍総理大臣夫妻が訪仏し、パリ日本文化会館にて「縄文―日本における美の誕生」展を視察しました。8か月の間にこんなに多くの要人が来訪することは珍しいことです。ジャポニスム2018をきっかけとして、日仏両国民の相互理解が一層進み、両国民間の信頼･友情が一層強固なものになったと考えております。

私は、駐フランス日本国大使として、「日本文化を最もよく理解しているのはフランス人であり、フランス文化を最もよく理解しているのは日本人である」と常々申し上げています。今回のジャポニスム2018を通じて、フランスの皆様には新しい日本を発見していただけたのではないかと考えております。19世紀にフランスに紹介された日本文化が「ジャポニスム」としてフランスの芸術家たちの創造力を掻き立てたように、今回のジャポニスム2018もフランスの皆様に大きな衝撃と印象を残すことができたものと確信しております。今回のジャポニスム2018を経て、日本とフランスの関係は新たな段階に入ったと言えるでしょう。
日本では、2019年にラグビーワールドカップ、2020年に東京2020オリンピック･パラリンピック競技大会が開催されます。それぞれの大会は、2023年のフランスにおけるラグビーワールドカップ、2024年のパリ･オリンピック･パラリンピックと、日本からフランスへ引き継がれます。フランスの皆様には、これをきっかけに是非、日本を訪れていただきたいと思いますし、この機会に日仏両国民の往来がより一層活発になることが想定されます。ジャポニスム2018をきっかけに深化した両国の関係が、さらに発展することを祈念いたします。

最後に、ジャポニスム2018の実施のために尽力していただいた日仏両国の全ての関係者の皆様に感謝を申し上げます。特に、フランスにおいてジャポニスム2018の公式企画の開催を受け入れてくださった各美術館･劇場等に感謝申し上げます。これら施設の協力なくしては、ジャポニスム2018の成功は有り得ませんでした。
そして、2年間にわたり、ジャポニスム2018日仏合同委員会を開催し、ジャポニスム2018の成功のために協力してくださったフランス外務省、文化省、アンスティチュ･フランセ、イル･ド･フランス州、パリ市に感謝を申し上げます。

木寺昌人
1976年 外務省入省。1997年 在タイ日本国大使館公使。2000年 大臣官房会計課長。2001年 在フランス日本国大使館公使。2002年 在ジュネーヴ国際機関日本政府代表部公使。2005年 大臣官房審議官兼経済局。2006年 大臣官房審議官兼総合外交政策局 大使。2008年 中東アフリカ局アフリカ審議官。2008年 国際協力局長。2010年 大臣官房長。2012年 内閣官房副長官補。2012年 特命全権大使中華人民共和国駐箚。2016年より現職。

ジャポニスム2018

アラブ世界研究所所長
ジャック・ラング

安倍総理大臣は我が国に素晴らしいプレゼントをしてくださいました―ジャポニスム2018です。他に類を見ないこの催しは、日仏友好160年を熱く盛大に祝福しました。100以上の公式企画が祝祭の進行を彩りました。日出る国は、我々をその文化への素晴らしい旅へと誘ってくれたのです― 歌舞伎、和太鼓、映画、ビジュアル･アートとデジタル･アート、さまざまな展覧会、いくつものコンサート、マンガのアート、いけばな、美食のトレンド、ポップ･カルチャー。そうして、我々は日本の豊かさを発見あるいは再発見する喜びを味わいました。余りあるその美しさに感嘆し、言葉を失い、熱狂し、驚愕しました。このような日本に対する強い興味を、フランス人は遠い過去から抱いてきました。今でも、多くのアーティストが幾重ものインスピレーションの源を日本の美に求めています。伝統的な価値観に根づいていながら、常に新しいもの･現代性を追求する姿勢、それが日本の文化の力であり魅力だと思います。こうして8か月の間、フランスの日常は、幸せなことに、日本を中心に動いていました。まさに我々全員が憑りつかれていたのです。ジャポニスム2018によって、我々はステレオタイプとは程遠い日本を目にすることができました。これ以上にない程の創造性と独創性に富み、豊かな遺産と伝統を大切にし、これらをさらに活かして自らを再生し高めることに成功した国、それが日本なのです。今日、日本の文化は最も洗練されたもののひとつであり、最も刺激的なもののひとつであり、最も陶酔させるもののひとつです。ずいぶん昔から、その力と美しさで世界を潤してきました。フランスと日本は知と美が影響し合う中、同じ波長で共鳴し合っています。そして、お互いに相手国にどれだけ魅力を感じているかを裏づけているのが、これらの数々の素晴らしいイベントの開催です。フランスと日本の互いへの敬服の想いについてこれ以上言及するならば、この想いは両国間の活気に満ちた素晴らしい外交関係と文化交流の証でもあることを、この場を借りて申し上げたいと思います。

ジャック･ラング
1939年生まれ。パリ政治学院卒業。法学博士。ナンシー大学にて公法学教授、法学部長を歴任。1977年のパリ議会議員選出を皮切りに政治家として歩み始める。1981年にミッテランが大統領に当選すると文化大臣に任命され、1986年まで務める。次いで1988年から1993年まで文化相再任。2000年から2002年まで国民教育大臣として再入閣。2013年にはオランド大統領にアラブ世界研究所所長に任命される。著書及び執筆論文多数。

内容豊かな文化交流

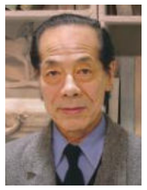
東京大学名誉教授・大原美術館館長
高階秀爾

フランスにおいて大きな反響を呼んだ今回のジャポニスム2018事業は、何よりもその視野の広さと内容の多様性において文字どおり画期的であり、そのことがきわめて幅広いフランスの公衆の関心を呼びさましたのが大きな成果である。例えば、これまで紹介されることのなかった宗達の《風神雷神図屏風》や若冲の《動植綵絵》全30幅と《釈迦三尊像》がフランスの美術愛好家を喜ばせたと同時に、音、光、データによる池田亮司のインスタレーションや、特に最新のテクノロジーを多用したチームラボの壮大な「teamLab : Au-delà des limites（境界のない世界）」展が若い観衆の間に大きな反響を惹き起こした。
また、古代縄文時代の火焔型土器や遮光器土偶の新鮮な美的表現と並んで、現代の彫刻家名和晃平の金色に輝く巨大なモニュメント「浮遊する玉座」がルーブル美術館入り口のガラスのピラミッド内に設置されて、人々を驚かせた。舞台公演事業においても、古くから伝わる伝統的な雅楽や能楽、歌舞伎をあらためて紹介するとともに、人気オンラインゲームに基づくミュージカル『刀剣乱舞』や、最新テクノロジーによるバーチャル・シンガー初音ミクのコンサートが評判を呼んだ。さらに、坐禅会や写禅語の体験等観客の参加を加えた禅文化の紹介、その禅とも関係の深い茶の湯の美学を伝える茶会の催し、また最近とみに人気の高い和食文化を実際に楽しみながらその文化的意味を考えるシリーズの開催、作品展示とあわせて職人による製作実演やワークショップを含めた工芸展事業、日本の各地の地域に根ざした民俗芸能公演や多彩な祭り、踊りを紹介する「『地方の魅力』―祭りと文化」等が、それぞれ関心のある観客を惹き寄せ、その結果、従来のジャンルの区別や、あるいは「伝統」と「革新」（イノヴェーション）の垣根を越えた総体としての日本の文化の力――近年しばしば用いられる用語を借りるなら政治力や経済力とは別の「ソフト・パワー」としての文化力――を広く発信する成果を挙げたと言ってよいであろう。

文化の重要性に対するこのような認識は、明治初年のいわゆる文明開化の時期に指導的役割を演じた先覚者福沢諭吉の思想と見事に重なり合う。当時誰よりもよく西洋事情に通じていた福沢諭吉は、西欧先進諸国の優れた技術や政治制度を学び、それを取り入れることが急務だという積極的な西欧化論を唱えたが、それと同時に、明治15年に発表した『帝室論』において、皇室は政治や社会の外に立って国民全体の心の拠りどころ、その精神的支えとなるものだと説き、その役割としては、学問や諸芸術の保存、庇護を期待すると論じた。つまり学問・芸術のパトロンとしての役割である。それと言うのも、福沢の言う「諸芸術」とは、長い歴史の間に培われてきた「日本固有の技芸」であり、さらに言えば「日本固有の文明」にほかならないからである。その具体的内容は、眼配りのよい実際家の福沢にふさわしく、きわめて広い。すなわち、書画、彫刻、工芸（蒔絵塗物、織物染物、陶器銅器、刀剣鍛冶）はもとより、音楽、能楽、挿花、茶の湯、薫香、それに「諸礼式」を加えた各種芸道、剣槍術、馬術、弓術、柔術、相撲、水泳等の武術、さらには大工左官、盆栽植木、料理割烹から囲碁将棋に至るまで、あらゆる分野にわたっている。

その内容は、今回のジャポニスム2018のそれと驚くほど近い。福沢諭吉は、これらさまざまの芸術が日本固有の文明の所産であると述べたが、それが日本人の生き方（art de vivre）に支えられた人間的感動が生み出したものである以上、その感動を知る者は誰でも共有すること、さらには共感することができる。日本文化のよき理解者であったフランスの偉大な詩人ポール・クローデルが、日本のさまざまな芸術をあれほどまで深く理解し、愛好したのは、彼自身が優れた芸術家であったからにほかならない。ジャポニスム2018がまたそのクローデルの言葉を借りて「響きあう魂」と題したのはそのためである。とすれば、今回のジャポニスム2018事業は、一方的な文化宣伝の場ではなく、それぞれ豊かな文化芸術の伝統をもつ2つの国の内容豊かな文化交流の舞台でもあったと言ってよいであろう。参加芸術家、関係者の全てに祝意を送りたい。

高階秀爾
1932年東京生まれ、東京大学名誉教授・大原美術館館長・日本芸術院会員。東京大学教養学部卒業、東京大学教授、国立西洋美術館長等を経て現職。2000年紫綬褒章、2001年仏レジオン・ドヌール シュヴァリエ勲章、2012年文化勲章。主な著書に『世紀末芸術』、『日本人にとって美しさとは何か』（ともに筑摩書房）ほか。



ジャポニスム2018 舞台芸術を振り返って

早稲田大学文学学術院教授
藤井慎太郎

ジャポニスム2018の舞台芸術プログラム（演劇・舞踊・音楽）は36企画を数えた。その中心を占める演劇についていえば、雅楽、能・狂言、歌舞伎・文楽・日本舞踊といった（音楽・舞踊の側面も備える）古典芸能から、蜷川幸雄、野田秀樹、宮城聰ら、大きな劇場空間を巧みに操る演出家の作品、そして松井周、岡田利規、岩井秀人、タニノクロウ、木ノ下裕一、藤田貴大らによる、より小規模で濃密な空間で上演される作品、さらには2.5次元ミュージカル作品に至るまで、言い換えれば大劇場から小劇場まで、商業的なものから先鋭的なものまで、歴史と伝統に立脚するものからまさに「今」を感じさせるものまで、全体としてバランスがとれ、目配りの利いた、充実したプログラムが組まれた。
そうした作品をフランス側のパートナーとして受け入れたのは、パリ日本文化会館はもちろん、国立シャイヨー劇場、国立コリーヌ劇場、ポンピドゥ・センター、ラ・ヴィレット、フィルハーモニー・ド・パリ（以上国立文化施設）、パリ市立劇場、ジュヌビリエ劇場（国立演劇センター）等、パリ圏にあって高い知名度と可視性をもつ公共劇場・文化施設である。パリの「芸術の秋」の代名詞であり、1978年以来、10年ごとに日本特集を組んできたフェスティバル・ドートンヌには36企画中10企画が参加した。
しかも、それらの上演作品には、劇場にとっても観客にとってもある意味「挑戦的」といえる作品が多かったのも特徴である。川口隆夫『大野一雄について』、岡田利規『三月の5日間』リクリエーション、木ノ下歌舞伎『勧進帳』（『勧進帳』はさらに能『安宅』をもとにしている）、藤田貴大『書を捨てよ町へ出よう』（原作は寺山修司）等、「本歌取り」的というか、もとになった別作品との距離を測りつつ見るハイコンテクストな作品が多かった（それをいえば、坂口安吾の小説を下敷きにした野田秀樹『贋作 桜の森の満開の下』も、同名だが異なる作品が多く存在する岩井秀人『ワレワレのモロモロ』にもそうした側面は指摘できよう）。にもかかわらず、批評家や観客の反応が総じて肯定的であったのは、そうした文脈を必ずしも知らなくとも単独で観客にアピールし得る力を作品が備えていたということであろう。
国際交流基金と劇場・フェスティバルによる広報の努力の甲斐あって、メディアとの関係も良好であったといえる。参加作品には新聞・雑誌・インターネットを通じて多くの劇評が寄せられた。上演回数こそ少なかったリーディング公演もラジオ局フランス・キュルチュールによって放送され、今でも同局のウェブサイト上で世界中からアクセスすることができる。私自身も、芸術的／学術的に日本現代演劇を俯瞰する視点を提供すべく、クリストフ・トリオー（パリ・ナンテール大学教授）とともに責任編集者として、演劇専門誌『アルテルナティヴ・テアトラル』の特別号« Scène contemporaine japonaise（日本現代演劇）»の刊行に関わった。

そうしたこと全てがあってこそ、舞台芸術におけるのべ観客数6万人（閉幕を迎える前の2019年1月の段階の仮集計の数字）という目に見える成果に結びついたのだといえる。もちろん、30万人を動員したチームラボを筆頭に、17企画に対して（やはり1月の時点で）100万人の来場者があったという美術に比べると、この数字は地味に見えるかもしれない。だが、動員数については、劇場の着席定員（×公演回数）以上の来場者はありえない舞台芸術はもともときわめて不利であって、アヴィニョン演劇祭の来場者が（フリンジ・フェスティバルを除いて）例年10万人強であることを考えれば、6万人という数字は大きな意味をもつものである。また、実際に半分の演目（18企画）をフランスの劇場で見ることができた私は、そのほとんどの公演が大入り満員の状態でなされたこと、観客の反応が総じて肯定的、ときに熱狂的であったことを身をもって経験している。

もちろん、何事にも100%完全な成功等ありえないように、欲を言えばきりがないものである。誰がどのようにアーティストと作品を選んだのか、責任の所在や演目選定のプロセスがもっと明確になっていたらよかったのではないか、9月後半から10月前半に公演が集中しすぎたのではないか、パリ以外の地方都市での企画がもっとあったらよかったのではないか、特にストラスブールのオペラ座やメッスのポンピドゥ・センター等でも行われた日本特集と連動できたのではないか、ダンスや音楽についても演劇のように充実したプログラムを組むことができたのではないか・・・・・、等と思わないわけではない。とりわけ、岩井秀人がジュヌビリエ劇場に長期滞在して、プロフェッショナル及びアマチュア俳優とともにつくり上げた『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』、岡田利規が同様にバンコクでタイ人作家・俳優とつくり上げた『プラータナー：憑依のポートレート』等のわずかな例外を除いて、日本のアーティストが日本（東京）で制作した作品をフランス（パリ）にもってきて見せる、一方通行的な企画が大半だったのはいささか惜しまれる。

だが、それにしても、ジャポニスム2018を通じて、日仏両国、さらにはそれ以外の国・地域の数多くのアーティスト、劇場関係者、批評家・研究者、観客が出会い、知り合うことができたことの意味は計り知れない。そうして築かれた人間関係と信頼関係は今後、より双方向・多方向的で協働的なプロジェクトを実らせるための豊かな土壌となる。その土地をさらに耕し続け――文化（culture）の語源は「耕す」ことにある――、こうして蒔かれた種をさらに大きく育てる責任を私たちは将来に向けて負ったのだと考えている。

藤井慎太郎
早稲田大学文学学術院教授（演劇学、文化政策学）。主な著書に監修書『ポストドラマ時代の創造力』（白水社、2014年）、共訳書『演劇学の教科書』（国書刊行会、2009年）等。戯曲翻訳に、ワジディ・ムアワド作『炎 アンサンディ』（シアタートラム・2014/2017年）、『岸 リトラル』（同・2018年）等。2018年度は研究休暇を取得してパリに滞在した。

ジャポニスム2018
日本映画とアンビギュアスな日本の心

映画作家・早稲田大学名誉教授
安藤紘平

日仏友好160年記念にパリで大規模な日本文化･芸術の祭典が開催されることを初めて聞いたのは、2016年の秋だった。日本映画100本を上映するという公式企画が立ち上がり、その作品選定という大役を仰せつかったのだ。当初、100本を選ぶことくらいたやすいと高をくくっていた。心に残った映画をざっと挙げても300本や400本のタイトルがすぐに浮かぶ。

ところが、翌年1月にパリで行われた日仏の選定委員による第1回目の打合せで、考え方の違いが明らかになり、その難しさを痛感した。シネマテーク･フランセーズのプログラム責任者ジャン=フランソワ･ロジェ氏らフランス側は、選定コンセプトを「知られざる日本」と位置づけ、テーマを絞ってフランスの観客が観たこともない監督と作品を選ぶ、よって溝口、小津、黒澤、成瀬といった巨匠作品や是枝、黒沢清といったフランスで上映されつくした現代監督の作品は上映しないと言い切り、例えば『眠狂四郎』や『座頭市』の三隅研次監督の全作品を特集してはどうかと提案する。僕は、「日本映画マニアでないフランスの方々にも多様な日本映画を観てほしい」という観点から、日本映画史に欠かせない巨匠も含め俯瞰的に観せたいと主張した。真っ向からの対立である。

僕は決して日本映画史を観せたかったわけではない。日本人には、多様な考え方や価値観を受け入れる「あいまいさ」があり、それこそが日本人の美意識を形づくる本質だと考える。この機会に多様であいまいで繊細な日本人と日本を海外の方々に知ってほしいと思ったのだ。特に戦中、戦後から近代にかけて、“アンビギュイティ（あいまいさ）”という繊細な感性をもって自由に多様に奔放に日本人と社会を表現してきた溝口や小津、黒澤、成瀬、その弟たちとしての今村や大島、篠田、山田、そして、その子どもたちとしての是枝や岩井、沖田、濱口へと繋がる日本映画のDNAを観てほしい、日本人と日本文化と日本の美意識を知ってほしいと思ったのである。

流れを変えたのは2度目の討議のときであった。巨匠たちの作品の4Kデジタルでのリストア版を使い「新しい形で観ることで新しい発見があるのではないか」と提案した日本側の意見にフランス側も納得、名作を4Kで上映する方向に傾いた。さらに、“アンビギュイティ”という言葉がフランス側からも共感を得た。“アンビギュイティ”とは、フランスのアンドレ･バザンが唱えた映画理論で、当時一世を風靡していたモンタージュ理論に対し、「あいまいさこそが多様な表現を生み、リアリティを醸し出す」という考え方である。日本人の、心の哀しみを何でもない天気の話にすり替えるあいまいさ、異なる考えを真っ向から否定せず中庸を模索するあいまいさとどこか通じるところがあるからか、多様な日本映画を概観することにフランス側も納得した。

そして「日本映画の100年」として生まれたのが、第1部「日本映画の発芽」、第2部「日本映画再発見」、第3部「現代監督特集」計119本である。個々の作品選択はフランス側の意向を尊重し、「新しい発見」に重点を置いた。そのため、成瀬の『おかあさん』や小林正樹の『切腹』、黒沢清の『CURE』等が落ちたのは残念だった。しかし、この日仏で何度も交わした議論こそが異文化交流の本質だったように思う。ジャポニスム2018を実現するには、映画のこの企画をつくり上げるために僕たちがそうしたように、いろいろな分野のさまざまな人たちが日仏の間でこうやって議論と交流を重ねたのではないか。

監督や俳優も派遣した。第1部では弁士の坂本頼光さんが日本独特の活動弁士公演で喝采を浴びた。第2部では香川京子さん、有馬稲子さんの溝口、小津等巨匠の話がパリの観客を魅了した。第3部は、今、フランスに紹介したい大林宣彦、岩井俊二ら現代の監督12名と、役所広司、常盤貴子、宮﨑あおいらの俳優たちのトークで盛り上がった。大成功のイベントであった。唯一残念だったのは、「生きてたら行くわよ」と冗談めかしておっしゃっていた樹木希林さんが、本当にいらっしゃれなくなったことだ。

ジャポニスム2018ではほかにも映画事業が行われている。公式オープニングでジュリエット･ビノシュ主演の河瀬直美監督の『Vision』が上映され、ポンピドゥ･センターで河瀬特別展が催された。ドキュメンタリー映画『歌舞伎役者　片岡仁左衛門』では、日本を代表する名優の芸の深さと魅力がパリの観客たちを虜にした。日本の最新映画がフランス各地を巡回した「KINOTAYO現代日本映画祭」にも例年以上に多くの人が集まったという。パリ日本文化会館での「藤田嗣治：生涯の作品（1886-1968）」展にあわせて上映された小栗康平監督の映画『FOUJITA』では、満員の観客が小栗独特のアンビギュアスな映像表現に酔いしれた。2018年度の「ジャポニスム」は、まさに、日本の美意識――アンビギュイティのオンパレードであった。そして、パリの人々の日本文化に対する関心の高さが強く印象に残った祭典であった。

振り返って、できることならば日本の人々にもこれらの作品を通して自身の美意識、日本人とは何かを再確認してほしいとあらためて思った1年であった。

安藤紘平
映画作家、早稲田大学名誉教授、東京国際映画祭プログラミングアドバイザー。早稲田大学在学中にパリ留学。1967年寺山修司の演劇実験室「天井桟敷」入団。1968年TBS入社。1969年日本初の電子映像を使った作品『オー！マイ･マザー』がオーバーハウゼン国際短編映画祭入選。2005年パリにて「安藤紘平回顧展」。NY、LA、東京等の美術館に作品収蔵。

ジャポニスム2018は
終わらない

バリエールグループ エグゼクティヴ ヴァイス プレジデント
アレクサンドル・ドゥセーニュ=バリエール

パリを魅了したジャポニスム2018が終わった。この8か月の間、毎週のようにいつもパリのどこかで必ず日本文化の花が咲き、日本の芸術の光が輝いていた。日本文化を愛する1人と自認する私も、これまでは知らなかった「日本」を今回ここパリでたくさん見つけた。次々に繰り出される催しを堪能し、私たちは、日本の美、日本の人、日本の心について語り合った。フランスの老若男女がこぞって和の文化を愛でる姿に驚きもしたが、長年にわたる日仏の人々の交流の積み重ねを思えば、その集大成として21世紀のパリで日本の芸術･文化が大きく花開き、我々がそれを深い喜びをもって受け入れたことは、ごく自然な、当然のことだったとも感じた。

ジャポニスム2018は、そのいずれの企画も質が高く、古典からコンテンポラリーまで幅広く、あらゆるジャンルが網羅されていて、日本人の友人たちも「誇らしい気持ち」、「日本でもこれだけのものを見ることは難しい」と口を揃えた。規模においても質においても、間違いなく比類ない日本文化･芸術の祭典だったと思う。そして我々フランスの人間は、こういう真に美しいもの、面白いものが大好きなのだ。

ジャポニスム2018の成功の鍵は、フランスが見たかったものと日本が見せたかったものとが噛み合ったところにあったのではないか。芸術はアーティストと鑑賞者がともにつくり上げるものだ。催す側と味わう側両方の思いを考え合わせてこれだけの数の企画を仕立てることは、容易なことではなかったろう。日仏の交流の積み重ねがあり、この祭典の企画と運営に携わった方々の根気強い努力があって、初めて実現したものと思う。

ジャポニスム2018が光を当てたのは、いわゆる狭義の芸術にとどまらない。日本の人々の暮らしに、より直接、深く根ざした文化が、美術や映画や演劇と並んでジャポニスム2018の主役だった。祭り、伝統芸能、工芸、食、柔道、茶道、華道、禅、文学･俳句…。日本人であれば誰もが小さいときから慣れ親しみ、心と身体に染み付いているであろう「人々の日々の生活の文化」が、日本の人たちにどういう意味を持ち、いかに大切に育まれ、伝えられてきたかが丁寧に紐解かれた。背景や歴史を理解したうえで日本人の日常の暮らしぶりの一端を味わえたことは、私たちにとって文句なしに楽しい経験だった。パリのレストランやカフェと組んで、日本の酒をフランスの食とともに楽しむ特別メニューが出されたり、日本茶で菓子やカクテルをつくって「フランス風」に緑茶の味を楽しむアイディアが紹介されたりと、単なる文化紹介から一歩踏み出し、ひとひねり工夫がなされた魅力ある企画も並んだ。これらの企画を通じて、異国の暮らしを知り、異文化を楽しむ喜びを知った人が多くいるはずだ。

私のジャポニスム2018との関わりは、パリで日本各地の祭りが紹介される予定があることを聞き、バリエールグループが力になれることはないかジャポニスム事務局に連絡を取ったところから始まった。10月の週末、肩車されて歓声を上げる子どもを連れたあまたの家族で溢れかえるアクリマタシオン庭園で、この企画に協賛できてよかったと確信した。夕焼けが消え、星が光り始めた空の下、「ヤッテマレ！ヤッテマレ！」という印象的な掛け声とお囃子の響く中、庭園の道をまっすぐルイ･ヴィトン美術館に向かって高さ11mの立佞武多（たちねぷた）を引き、五所川原の方々と一緒に歩いたときのことを、私は一生忘れない。フランスとパリがイコールではないように、日本にも、東京、京都以外の、私たちがまだ知らない、魅力いっぱいのところが多数ある。今度は実際にその地に足を運んで祭りに参加し、その土地自慢の食とお酒を味わい、人々と語り合いたい、日本の人々の暮らしぶりを知り、日本のさまざまな顔を知れば知るほど、この国をもっと好きになるに違いないと思った。

ジャポニスム2018のもう1つの特徴は、その対象層の広さだ。多くの企画が芸術の専門家をうならせた一方で、子どもたちも大いにジャポニスム2018を楽しんだ。祭りだけではない。やはり我々バリエールグループが協賛した柔道事業では、上村春樹講道館長と野村忠宏さんという五輪金メダリスト2名が指導に当たる豪華なプログラムに、700人を超えるフランスのプティ柔道家たちが目を輝かせた。そのほか、おにぎりやどら焼きの料理ワークショップ、工芸品づくり、お茶やいけばな、写禅語や坐禅会でも、フランスの子どもたちが実際に触り、つくって、日本の文化を直に感じた。幼い心に刻まれた「日本」は、必ずや子どもたちのこれからの成長の過程に、そしてそれはつまり我々の国同士の関係の将来に、大きな影響を及ぼすだろう。

ジャポニスム2018が終わった今、とてもさびしい。だがこの祭典が生み出したものは確かに残っている。ジャポニスム2018に参加した後、フランスとの交流に力を入れることを決め、文化、観光、経済、教育などの面で施策を練り始めた日本の自治体があると聞く。パリ以外の町でも土地の祭りを紹介しようと早速試みているところもあるらしい。ジャポニスム2018で培った人脈を使って独自に日本酒の試飲会を企画するフランスの団体が出てきたし、パリのあるレストランでは今後日本酒を置くことを決め、またほかのレストランでは煎茶のパウダーを取り寄せられないかパティシエが調べ始めたとも聞く。私たちバリエールグループも、ジャポニスム2018を踏まえて、日本との新しい絆をより深めようと知恵を絞っている。ジャポニスム2018は終わったけれど、終わっていないのだ。

アレクサンドル･ドゥセーニュ=バリエール
エセック経済商科大学院大学にてMBA（ホテル経営学）取得。2014年、3代前の曾祖父が創始したバリエールグループに入社。開発部門にて、同グループの国際展開推進に特に注力して貢献。2018年7月、グループトランスフォーメーション担当執行役員に就任。2018年11月からはホテル部門及びF&B部門も統括。2019年4月より現職。

経済人交流に舞台を提供してくれたジャポニスム2018

日仏経済交流委員会CEFJ代表
富永典子

毎年経済界では「日仏クラブ」という両国のトップ経済人らの対話が行われる。2018年はちょうどパリの番であった。会合の終わりに渡される議長側（今年はフランス）からのギフトは20世紀初頭に出版されたアンリ・リヴィエールのリトグラフ版画集『エッフェル塔三十六景』であった。まさにジャポニスム2018の年にふさわしい品である。北斎の『富嶽三十六景』に魅せられたフランスのアーティストが、1889年のパリ万国博覧会に向けてその2年前に建設の始まったエッフェル塔を、当初の様子から完成後どのように風景の中に溶け込んでいったかを描いている。ご存知の方も多いであろう。「へえーっ。こんなものが存在していたのか！」と思わずその場で口にされていた日仏企業のトップの感嘆があった。ジャポニスム2018のハイライトの1つ、「エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔　日本の光を纏う>」は新鮮に印象深く残っているだろう。尾形光琳の金色は、ある日本企業の非常に高度な技術なくしては、あの世界を魅了した美しい映写は実現できなかったと聞いた。天のエッフェル氏はどのような思いで見下ろしてくれていたであろうか。

ジャポニスム2018を通した経済界・フランス側の反応はと尋ねられたとき、冒頭の１コマがパッと思い浮かんだ。そこで企業参加を巡り感じたことを挙げてみたい。

一連の行事の中でも、私が所属する日仏経済交流委員会CEFJが微力ながら関わらせていただいたのは「FUROSHIKI PARIS」。パリ市と東京都の文化交流事業「パリ東京文化タンデム2018」が背景にあったので、パリ＝イル・ド・フランス地方商工会議所を創設機関にもつCEFJとしては自然な成り行きの参加であった。「FUROSHIKI PARIS」の特徴の1つは日仏企業の大いなる参加であろう。CEFJは特にフランス側の担当であったので、フランス企業についてご紹介することにする。単刀直入に言えばはなはだ気の重い仕事である。どの企業の関心をいかに引き出すか。当初は厳しい反応もあった。「何故日本の文化イベントを我々フランス企業が支援するのか?」と。個人的な称賛が企業スポンサーに直結とはそう簡単にはいかない。

最初の懸念は、しかしながらすぐに吹っ飛び、積極的な反応をいただき、最終的にはさまざまな形で多くのご協力をいただくことができた。非常にあり難く意義の深いことだと思っている。ではなぜそれが可能だったのか。それは、伝統美・エコロジー機能をフランスで披露できた「FUROSHIKI PARIS」が想像を超えた魅力的に構成された企画であったこと。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に東京とパリの強力タンデム（二者協力体制）と両都市が発信する魅力満載なメッセージがあったこと。それらが国をバックとするジャポニスム2018という望み得る最高の舞台で演出されたこと、等が挙げられよう。そしてそこには、企業側の戦略がマッチしていた。「魂が響きあう」瞬間が訪れて生まれた「ご縁」が相乗効果を発揮できたのだと思う。縁結びの一端を担うことができてCEFJも幸運だと思っている。

今回の企業スポンサーシップを通じ、企業と関わっていくうえで重要なことを勉強させていただいた。プロジェクトの最終段階で、広報活動や「完成品」お披露目が主催者側の意図に沿うことは最重要である。と同時にそれなしでは実現不可能であったスポンサー企業の意向がリスペクトされているかどうか非常に気を遣うところである。主催機関の事情、アーティストの信条、企業の思惑、微妙なニュアンスでの調整。そして私企業と公的機関という、ともするとその使命・目的の違いからバランスのとりにくい場面もあるであろう。しかし最終的には、共有する価値観のもと、考えを率直に伝え得る信頼関係で結ばれている基礎がモノをいう。素晴らしいフロシキ・パビリオンを別途制作したLVMH社。有名な広告塔「コロン・モリス」を風呂敷の唐草模様にしたJCドゥコー社。シャンゼリゼではピエール・エルメのフロシキをもつ人にすれ違うし、エールフランスの機上ではフロシキ・チーフをした客室添乗員に迎えられた。ソデクソ社やメディア・トランスポート社も参加した。フランス企業側は将来のさらなる活動展開に向けて日本、東京への期待を十分に伝えることができたと思う。日本企業の参加はさらに多く、予想をはるかに超えた「FUROSHIKI PARIS」を訪れたフランスの一般市民、そして新たに自らの文化を発見した多くの日本人がその証言者である。会期中フロシキで包む中身をと、急遽フランス・パン協会から寄付があった。日EU経済連携協定が締結されてますます行き来の活発になる日仏貿易、交流のさらなる発展の前触れか。そういえば、1926年に日本での自動車レースを見て、同産業の発展に日仏企業のアライアンスを予言しているのは今回のジャポニスム2018の根底を流れる精神の発言者ポール・クローデルである。現在の経済産業協力の礎がときを経て築かれてきたのだとあらためて思いを深くする。企業に支えられた多くのイベントがあった。それはジャポニスム2018のおかげで企業も文化活動を通してさまざまなメッセージを発することができたということである。「響きあう魂」が、このような形でも存在することができたと考えるのはおおげさだろうか。

富永典子
日仏経済交流委員会CEFJ代表を務める。CEFJは1997年にパリ＝イル・ド・フランス地方商工会議所により創設された、150社以上の日仏企業と、日仏業界団体・公的機関が参加するネットワークである。「相手をよりよく知る、自分をよりよく知ってもらう」ために、さまざまな経済社会の共通議題をめぐりフォーラムや講演会を企画しビジネス発展を目指し経済人らの交流の場を提供している。

響き続けよ、ジャポニスム

在仏日本人会会長
片川喜代治

日仏友好160年を記念しての「ジャポニスム2018」。日本は、その160年前から10年後に、世界史に大きな衝撃、動揺、刺激を与えた明治を迎えました。どういう意味であったかといえば、従来、金髪碧眼の西洋人の文明だと思われていたものを地続きでなく、全く別の場所にいた日本が完全に受け入れたことによって、逆にその文明が普遍的であることを証明したといえるからです。西洋文明は、地続きのロシアの極東シベリアにも及び、領域を広げながらさらに豊かになっていきました。
米国も、地続きではないにせよ、移った人たちは基本的にヨーロッパ人ですから、少なくとも日本が明治を迎える頃までは、米国は西洋の一部でした。ところが全く違う氏素性や歴史をもっていた日本が、この近代文明を合理的に受け入れました。そして、世界で初めて、非白人の日本人が西洋文明を受け入れ近代化を成功させたのです。文明が考え方に立脚しているとすれば、その考え方さえわかれば、いかようにも取り入れることができるわけで、日本人にはそれを可能にする素質があったわけです。古来、さまざまな異質な価値を1つに絞るのではなく並列して受け入れて、ときには自らの価値観と融合させてきた日本特有の文化があるからこそと思うものです。
それは、ジャポニスム2018のコンセプトである自然を敬い、異なる価値観の調和を尊ぶ日本人の「美意識」に通じるものがあります。8か月にわたるこの日本文化の祭典で、「美しいとはどういうことか」について、これほどフランス人と語り合ったことはありませんでした。日本文学研究の第一人者ドナルド・キーン氏が今年2月24日に逝去されましたが、彼は、日本人にとって、滅びる概念なくして美はあり得ないと述べています。日本人の美意識は滅びやすさの原理に基づいているということでしょうか。生まれるものは全て滅びるものであるという仏教の無常の概念がそこにはあります。それは、『平家物語』の冒頭の部分に見事に語られています。この世の全ては絶えず変化していくという響きの「諸行無常」。勢いが盛んな者も、結局は滅びてしまう、風の前の塵と同じであると。

兼好法師は、『徒然草』の中で「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」と述べています。花は満開のときだけが素晴らしく、月は満月だけが見どころなのだろうかというわけです。フランス人に日本では昔から月の形にあわせて呼び名があるというと驚き、その説明が終わると感嘆の声を上げます。十五夜の満月の次の日に、ゆっくりと姿を現す月は、十六夜月（いざよい）。その翌日の月は、今か今かと立ちながら待つうちに出てくる月ということで、立待月と呼び、十八夜の月の出は、立つことに疲れて、座してその出を待つことから居待月、十九夜の月は寝待月。満月という完璧な状態でなく、その後の欠けていく月に、優しい眼差しを注ぐ日本人特有の美意識がそこにはあります。

日本の伝統芸術の茶道、詩歌、いけばな、陶芸は、全て、心と体を統一することを目的としています。体の動きを、芸の定められた形に従って美しく表現することを学びます。心はその体の動きに一体化していきます。東洋では体が思考の中心にありましたが、西洋では常に思考がその中心にあり、体は第二義的でした。例えば、坐禅は何らかの思考をするものではなく、ありとあらゆる考えを除去し「無」の世界をつくる訓練であり、デカルトの言う「我思う、ゆえに我あり」とは相反するものです。坐禅に興味をもつフランス人に、「考えることを止め、知的な思考を棄て、坐禅を組むと、仏道の身を得るのである」という道元の言葉を引用すると、ほとんどの人がこれを理解するのでこちらが驚いてしまいます。
多くのフランス人とこのように文化論を展開しているうちに気付かされたことがあります。日本文化が一部分ではあれ普遍的になりつつあるということです。マンガやアニメは、もう世界的地位が確立されていますが、その他の伝統的芸術、例えば、華道、茶道等もかなり普遍的な道を歩んでいることを感じます。広義では寿司等の和食文化も「世界の人々のもの」となっています。そして何よりも、日本文化のその底流に脈々と流れている概念、すなわち、さまざまな価値を1つの価値に絞り込まず、許容するという考え方、相手があって自分もあるという利他の精神、和をもって貴しとする心、といった日本のソフトパワーを普遍的にできれば、迷走する世界の平和に貢献できるのではないかと感じているのは、私だけでしょうか。「KINOTAYO現代日本映画祭」を13年前に立ち上げたのも、映画がもつソフトパワーを信じていたからにほかなりません。

350万人を超える入場者を得て、フランス全土に響き渡ったジャポニスム2018の魂。この響きが、玉響でなく永久の響きとなって世界中に広まるように、我々は新たな一歩を踏み出したと思う次第です。輝かしい成功をもたらした日仏の関係者の皆様の並々ならぬご尽力に対し敬意と感謝の意を申し上げます。

片川喜代治
1992～98年フランストーメン社社長。1998～2006年トーメン欧州・中東・アフリカ総支配人。2006～09年船井電気ヨーロッパ社長。2009年～Vin Passion Group会長兼VP Wines France代表。2012年～（株）ネイキッド社長顧問。2006～11年KINOTAYO現代日本映画祭協会発起人兼副会長。2012年～KINOTAYO現代日本映画祭協会会長。2012年～日仏経済交流会副会長。2003～05年在仏日本商工会議所会頭。2003～17年在仏日本人会副会長。2017年より現職。

©Adrien Leuci - japoninfos.com

アカデミー・ド・パリとジャポニスム2018

パリ大学区名誉視学官
グザヴィエ・シロン

「ジャポニスム2018：響きあう魂」は、パリの人々の記憶に日仏友好における特筆すべき期間として残るであろう。開催された期間（2018年7月から2019年2月まで）が、アカデミー・ド・パリのイニシアティブのもとでその1年前に発足し2019年6月に終了する「日本の芸術文化シーズン」の最高潮を飾っただけに、生徒や教員の間でジャポニスム2018関連のイベントの反響は大きかった。
パリにおいて日本政府と国際交流基金の両者が主催してきた数々のイベントの類まれな性質と質の高さ、そして「日本の芸術文化」を教育テーマとして数多くの教育機関に提案する決定をしたアカデミー・ド・パリ独自のアプローチの成功、この2つのシナジーがあっただけに、2つのプロジェクトが相伴うことの効果は大きかった。我々のテーマの選択が正しかったのは明白な事実である！

組織的な取組の一環として、芸術・文化プロジェクトを企画・実施するよう教育に携わる関係者を駆り立てる目的で、2017年9月から2019年6月までの2年度を「日本の芸術文化シーズン」とすることを2017年春に決断したのは、アカデミー・ド・パリの大学区部局長であった。このイニシアティブの目的は、さまざまな「芸術的・文化的教育の道筋」をつくるために、我々の文化的パートナーでテーマと繋がりのある関係者（美術館、劇場、楽団、映画、さまざまな協会等）のリソースをうまく活用することであった。そのような道筋は、アカデミー・ド・パリによる教育施策の優先事項である文化的アプローチと国際的なアプローチの組合せで描かれており、教育機関が主催するプロジェクトが特に大切にするものである。
そのためには、2017年早々、我々はとりわけ国際交流基金と在フランス日本国大使館と関わりながら、教員の大々的な研修事業に取り組んだ。アカデミー・ド・パリのポータルウェブサイト上に専用サイトを設けることで、「日本の芸術文化」に関連する文化イベントのスケジュールを周知することができたほか、さまざまな学校や教育機関の「日本」プロジェクトに対し、その内容に付加価値を与える形でフォローすることができた。

「ジャポニスム2018：響きあう魂」の開始により、我々とパリ日本文化会館、そして国際交流基金との関係はより効果的なものとなった。我々が定期的に教育プロジェクトを一緒に組んでいる国立コリーヌ劇場、装飾美術館、国立シャイヨー劇場、ポンピドゥ・センター、ラ・ヴィレット、フィルハーモニー・ド・パリ、パリ市立劇場等、ジャポニスム2018のイベントを迎えた施設の多くが常日頃からアカデミー・ド・パリの文化事業パートナーであっただけに、提案された全てのイベントは、アカデミーの「日本の芸術文化シーズン」を最高潮に導いたのである。

この協力関係は、生徒たちの展覧会や舞台の鑑賞、パリ日本文化会館で行われる教員の研修・ミーティング、さらにパリの教員たちを対象とする特別見学会といった形にはとどまらなかった。一部の教員たちの要望に応える形で、日本のアーティストたちがワークショップに協力したことにより、協力関係はさらに恵まれた次元に入った。それは例えばアポリネール中学校の生徒たちを対象とした、野村万作らによる狂言の手ほどきや、ファッション・服飾専門学校テュルケティル高校とポワレ高校の生徒たちを対象とした、日本の生地の紹介等である。また日本の関係者はガストロノミーやデザイン分野の企画にも参加し、ホテル・外食分野の専門学校（ティレル高校とドルアン高校）のプロジェクトに協力したほか、パリの装飾美術館のバックアップのもとで行われたプロジェクトにも関わった。音楽家が太鼓やそのほかの和楽器の演奏を生徒たちに指導したこともあった…。日本語教育を行っている学校も参加し、ラ・フォンテーヌ高校では日本人女性アーティストにより振付のワークショップが行われた。熟練したアーティストたちの参加はほかにも造形芸術、書、あるいは映画といった分野にも及んだ。ときには、教員たち自身が身をもって体験すべく特別な行動をとることがあった。例えばJ・F・ウーベン中学校では、生徒たちの驚嘆の中…完全に「日本の生活」リズムにあわせた1週間を送ったのである。

アカデミーの「日本の芸術文化シーズン」の期間、何千人もの生徒（60以上の小学校、中学校、高校や専門学校に所属）の参加があったこと自体、ジャポニスム2018によって与えられた異例の機会を満遍なく活用したこのイニシアティブの成功を物語っている。この成功は、教育施設の長と教員らの積極的な取組の成果であることはもちろんのこと、パリ日本文化会館の責任者の方々と関係者一同、大使館の方々そして国際交流基金がチームとして取り組んだことの成果でもある。アカデミー・ド・パリとしては、常に我々の要望に耳を傾けてくれた彼らに厚く感謝の意を伝えたい。

今回これらの学校や教育機関が得た経験は、今後アカデミー・ド・パリが新たなテーマに取り組む際にも活かせるだろう。パリ大学区長であるジル・ベクーは、パートナーシップ協定を締結するため、東京の教育局の委員会メンバーと連絡を取った。この協定により、まず教育機関同士の提携が可能になるほか、ジャポニスム2018がもたらしたインパクト、とりわけパリの教育機関のプロジェクトに与えたインパクトをさらに進化させることができる。それは特にファッションやホテル・外食分野の職業教育において美しい展望を開くだろう。また、いくつものパリの教育機関がパリ日本文化会館と今後も有益な協力関係を続けることになっている。こうしてジャポニスム2018は、我々とこれからも「響きあう」のだ。パリでは、日本を見に行きたい生徒や教員たちの大勢の声が反響しているのである！

グザヴィエ・シロン
パリ大学区名誉視学官、地域教育名誉視学官。パリ大学区長のもと、「日本の芸術文化シーズン」を推進する任務を担当。
大学教授資格者（1978～91年イル・ド・フランス地域圏教授）。
2001～18年ノルマンディ地区視学官のちにパリ地区視学官。
2003～04年リュック・フェリ教育相顧問。2004～09年アカデミー・ド・パリ監査学部長。2009～18年アカデミー・ド・パリ芸術文化局部局長。2017～19年「日本の芸術文化シーズン」実行責任者。
『セム画集：彼の生きたフランス、時代と文化(1863-1934)』、仏語文付き3冊セットの共同著者（出版元：川島グループ、2008年）

第3章

プログラム

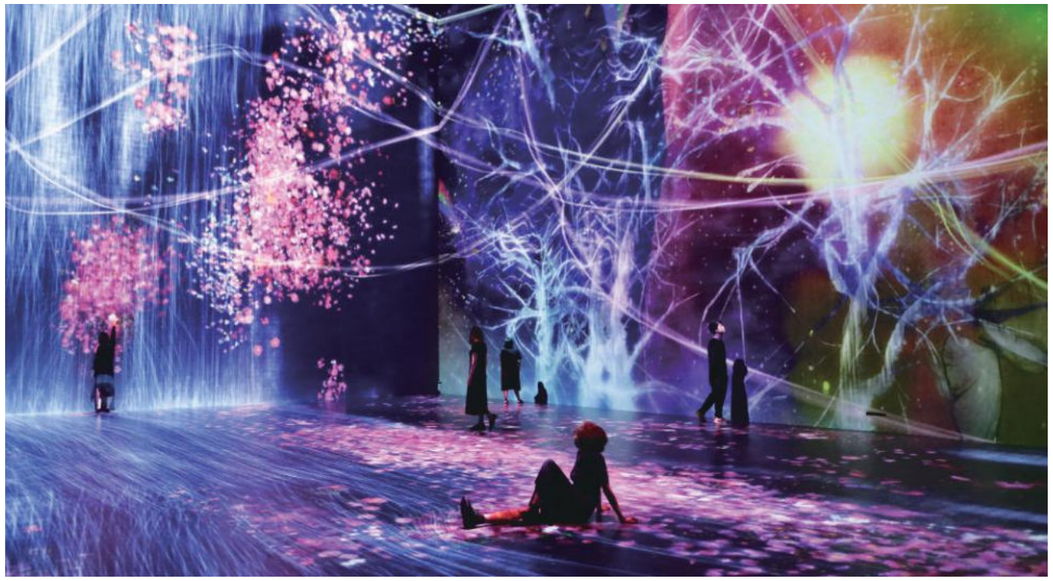
日本古来の美から最先端のテクノ･イベントまで
パリ市街を中心に展開された
バラエティに富んだイベントの概要をご報告します

公式企画

展覧会……036
舞台公演……048
映像……069
生活文化ほか……074
在外公館事業……090

特別企画……091
参加企画……092

*本章に登場する人名は全て敬称略。



Exhibition view, teamLab : Au-delà des limites, 2018, Grande Halle de La Villette, Paris
©teamLab

teamLab : Au-delà des limites（境界のない世界）

ジャポニスム2018のオープニングに先駆けて、ウルトラテクノロジスト集団・チームラボの大規模な個展を開催しました。チームラボは、世界各地で最新技術を駆使したデジタルアート作品を次々と発表し、大きな注目を集めています。本展は、デジタルで描かれた滝が高さ11メートルの壁から床へと流れ、観客の足元で割れながら空間に広がっていく作品や、観客が自分で描いた動物が世界をつくっていく体験型作品等で構成されました。インタラクティブな要素によって、観客が作品の一部となって作品を変化させたり、あるいは作品が定位置に定まらず移動して、作品同士が混ざり合ったりすることで、境界のない体験と世界の実現が図られました。会期中は子どもたちの歓声が絶えず、また入場制限になるほどの人気となり、総来館者数は30万人を超えました。テレラマ誌によれば2018年パリの展覧会動員数第4位となり、ジャポニスム2018の公式美術展の中でも最大の観客数となりました。

期　　間： 2018年5月15日（火）～9月9日（日）
会　　場： ラ・ヴィレット
主　　催： 国際交流基金、ラ・ヴィレット
特別協力： イル・ド・フランス州

©Hervé Véronèse/Centre Pompidou

池田亮司 | continuum

ジャポニスム2018の開幕に先立ち、パリと京都を拠点に国際的活動を展開しているアーティスト、池田亮司の個展をポンピドゥ・センターにて開催しました。同センターの企画によるもので、池田は本展のために2つの新作インスタレーションを発表。真っ暗な部屋と自然光の入る白い部屋という対照的な2つの展示室を使い、映像、音、データを駆使したその体感型作品は、大きな話題を呼びました。作家によるコンサートも実施されました。

期　　間： 2018年6月15日（金）～8月27日（月）
会　　場： ポンピドゥ・センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ・センター
協　　力： Almine Rech Gallery
キュレーター： マルチェラ・リスタ

Amabouz Taturo, *A Doll's House* ©Aurélien Mole

Enfance / こども時代

"Another banana day for the dream-fish"をタイトルとする日仏共同企画による現代アート展。さまざまな国のアーティストと、フランスの職人が参加し、インスタレーションを中心に作品を展示。日本からは、Amabouz Taturo（西野達）、栗林隆、鈴木友昌、宮崎啓太、毛利悠子、森千裕、横山裕一の7名が参加。会場入り口に大規模なドールハウス風作品を設置した西野や、フランスのステンドグラス職人と共同で制作を行った横山等、日本の作家の作品は大きな存在感を放ちました。

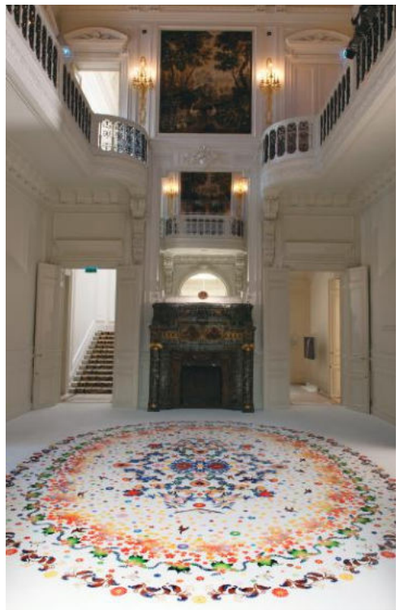
期　　間： 2018年6月22日（金）～9月9日（日）
会　　場： パレ・ド・トーキョー
主　　催： 国際交流基金、パレ・ド・トーキョー
特別協力： ベタンクール・シュエーラー財団
協　　力： 日本航空株式会社
協　　賛： Sylvanian Families
キュレーター： ヨアン・グルメル、サンドラ・アダム・クラレ
金澤韻

©Graziella Antonini

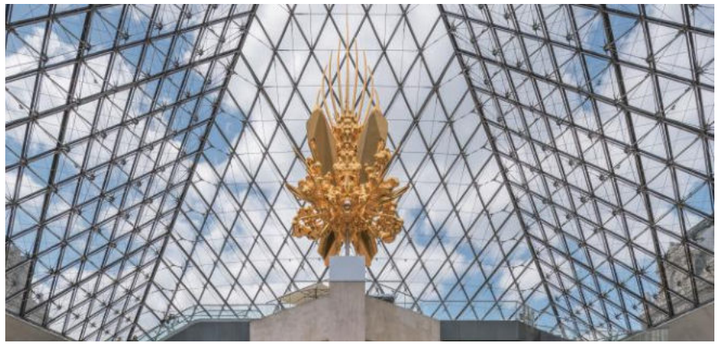
深みへ —日本の美意識を求めて—

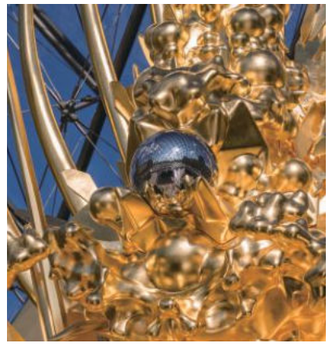
「ジャポニスム2018：響きあう魂」のコンセプトを総合する展覧会。総合推進会議の故･津川雅彦総括主査の提唱により、オープニングを飾る事業として実施されました。縄文土器、若冲から日仏の現代作家の作品まで、時代やジャンルを超え、自然との共存、異種混交、そしてときに相容れない要素を「2つで1つ」として調整･共存させてきた日本文化の基層を浮き彫りにしようとする意欲的な展覧会となりました。19世紀の邸宅を改修した会場のロスチャイルド館には、SANAAの空間構成により、円空、北斎、仙厓、白隠、柴田是真、田中一村の作品に加え、ピカソやゴーギャンの作品も並び、作品と建築物が奏でる東西の対話は、ジャポニスム2018のコンセプトを具現化するものとなりました。
参加作家=アンヌ･ロール･サクリスト、 ANREALAGE、大巻伸嗣、SANAA、澤田真一、ジュスティーヌ･エマール+森山未來、杉本博司、須田悦弘、名和晃平、原口典之+田中泯、平岡良、真鍋大度+2bit、宮田亮平、李禹煥、『アイヌ神謡集』プロジェクト、「独客」プロジェクト

期　　間： 2018年7月14日（土）～8月21日（火）
会　　場： ロスチャイルド館
主　　催： 国際交流基金
協　　力： キヤノンマーケティングジャパン株式会社、日本航空株式会社、MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社、恒川フェルト工業株式会社、華陽堂、日本酒造組合中央会
キュレーター： 長谷川祐子



大巻伸嗣 *Echoes Infinity, Eternity and Moment –Rothschild's garden–*
©Graziella Antonini



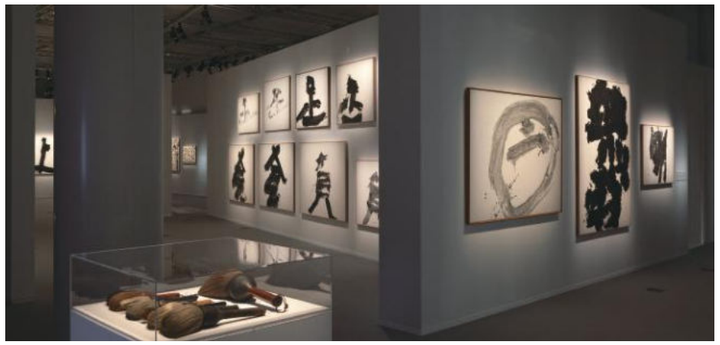


©Pyramide du Louvre, arch. I. M. Pei, musée du Louvre,
Courtesy : Musée du Louvre
photo: Nobutada OMOTE | SANDWICH

ルーブル美術館ピラミッド内 特別展示 名和晃平 彫刻作品 “Throne”

フランス文化の殿堂･ルーブル美術館のピラミッドに高さ10.4mの名和晃平の彫刻作品を展示しました。東洋の神事や祭事に出てくる山車の形態やルーツの考察をもとに、金箔貼りの技術と最新の3D造形システムを融合させ、「浮遊する空位の玉座」として表現された本作品は、ジャポニスム2018のモニュメントとして、7か月以上にわたって世界中から集う多くの来訪者を魅了しました。

期　　間： 2018年7月13日（金）～ 2019年2月18日（月）
会　　場： ルーブル美術館･ピラミッド内
主　　催： 国際交流基金、ルーブル美術館
協　　賛： 株式会社SANDWICH
後　　援： 高砂香料工業株式会社



パリ展　展示風景 ©Gregoire Cheneau

井上有一 1916-1985 —書の解放—

戦後、国際的に高い評価を得た書家、井上有一（1916-1985）のフランス初の個展。代表作の《無我》、《貧》、《噫横川国民学校》等、初期から晩年に至るまでの作品約75点を通して、新しい書の創造を目指した井上の創作活動の軌跡を紹介しました。アンフォルメルの抽象絵画にも通じる井上の豪快で気迫溢れる書は、多くの観客を魅了。パリ展の後、アルビへ巡回しました。

期間･会場： パリ展 ： 2018年7月14日（土）～9月15日（土）
パリ日本文化会館
アルビ展 ： 2018年9月29日（土）～12月17日（月）
トゥールーズ･ロートレック美術館
主　　催： 国際交流基金、トゥールーズ･ロートレック美術館（アルビ展）
特別協力： 京都国立近代美術館
協　　力： 株式会社ウナックトウキョウ、一般財団法人世界紙文化遺産支援財団紙守、全日本空輸株式会社
キュレーター： 秋元雄史

©Pierre Grosbois 2018

若冲―〈動植綵絵〉を中心に

2016年春に開催された東京展では44万人を動員した伊藤若冲。その最高傑作がプティ・パレ美術館に舞い降り、2018年秋パリで話題の展覧会となりました。開幕時には、皇太子殿下のご高覧を賜る栄誉に浴しています。本展では、《動植綵絵》全30幅（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）が、相国寺に伝わる《釈迦三尊像》とともに一揃いの形で展示されました。これまでに海外で《動植綵絵》が一堂に展示されたのは、2012年の米国ワシントン・ナショナル・ギャラリーで開催された展覧会の一例のみであり、欧州初の本格的な若冲展は、パリで熱狂的に迎えられました。テレラマ誌の記者は、「見終わった後も余韻が覚めない」「若冲の天才は細部に宿っている」と評し、「この展覧会は、おそらく日本が我々に差し出した最も美しい贈り物ではないか」と結びました。1か月に限定された会期中に7万5,000人が来場し、美術館の前では入場を待つ長蛇の列ができたほどで、惜しまれながらの閉幕となりました。

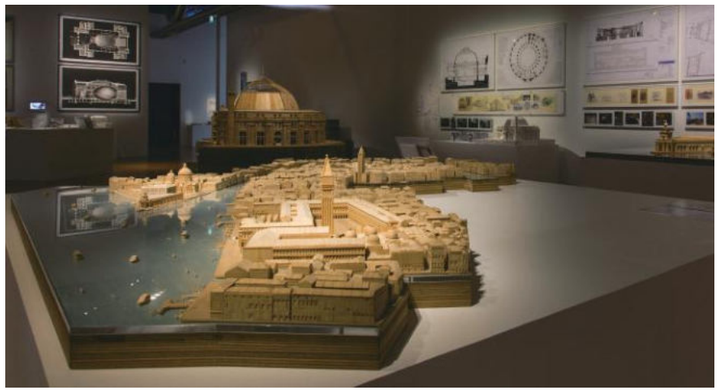
期　　間： 2018年9月15日（土）～10月14日（日）
会　　場： パリ市立プティ・パレ美術館
主　　催： 国際交流基金、日本経済新聞社、宮内庁
パリミュゼ、パリ市立プティ・パレ美術館
協　　力： 日本航空株式会社
キュレーター： 太田彩、マヌエラ・モスカティエッロ

写真提供：株式会社モボ・モガ

香取慎吾 NAKAMA des ARTS

歌手、俳優、そして現代アーティストとして常に表現活動を続け、ジャポニスム2018の広報大使も務めた香取慎吾による初の個展。「アートを題材にしてNAKAMAと繋がりたい」というコンセプトのもと、絵画やオブジェだけでなく、ファッションや「新しい建築」とのコラボレーション作品も展示し、既成の枠にとらわれずあらゆる枠組みを超えようとする本展は、SNSを含む多数のメディアで大きな話題となりました。

期　　間： 2018年9月19日（水）～10月3日（水）
会　　場： カルーゼル デュ ルーブル シャルル5世ホール
主　　催： 株式会社モボ・モガ
共　　催： 国際交流基金
後　　援： 木下グループ
協　　力： ルーブル美術館

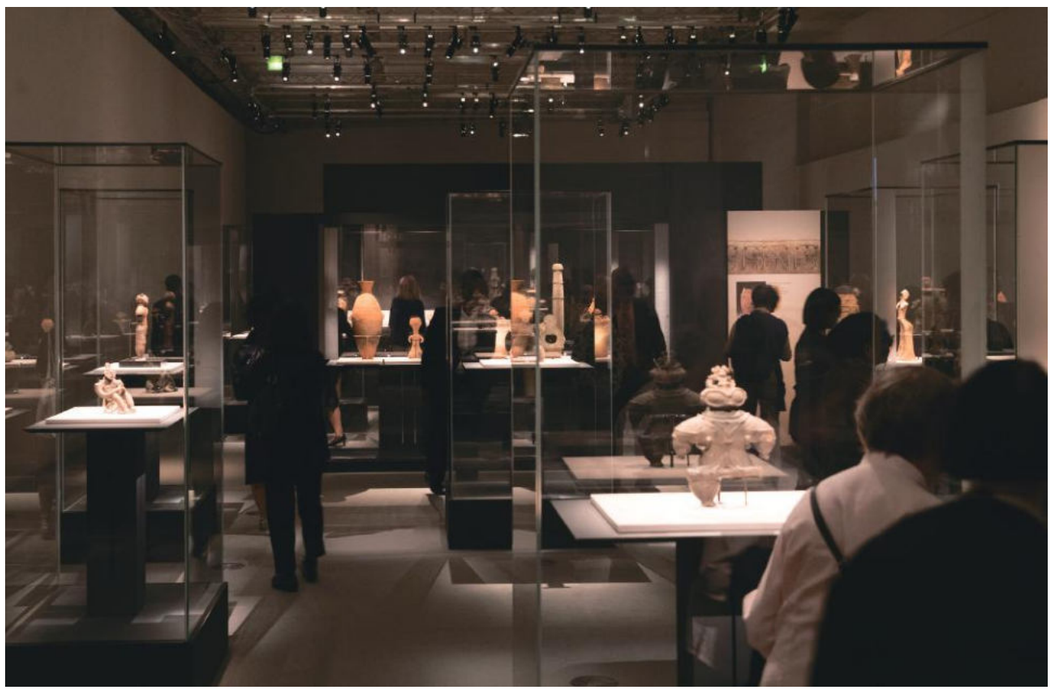


©Hervé Véronèse/Centre Pompidou

安藤忠雄―挑戦

建築家・安藤忠雄の軌跡及び今後の展望を、模型、スケッチ、ドローイングや映像、写真等の多数の資料、さらに代表作である「光の教会」のファサード再現や「直島プロジェクト」のインスタレーションを通して紹介しました。安藤によるパリの最新プロジェクト（ブルス・ドゥ・コメルス）への関心と相まって、会場は連日多くの人々で賑わい、16万人を超える来場者数を記録。フランスにおいて近年とりわけ人気の高い日本建築の魅力をパリ、さらには世界に向けて発信する絶好の機会となりました。

期　　間： 2018年10月10日（水）～12月31日（月）
会　　場： ポンピドゥ・センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ・センター
安藤忠雄建築展実行委員会
キュレーター： 安藤忠雄、フレデリック・ミゲル



©Hiroyuki Sawada

縄文―日本における美の誕生

日本美の原点とされ、近年日本で再び注目が高まっている縄文の美を紹介する展覧会をジャポニスム2018の主要事業の1つとして実施しました。2018年夏、東京国立博物館にて開催された「縄文―1万年の美の鼓動」展は、入場者が35万人を超える盛況振りでしたが、パリ展は、東京展をコンパクトにしながらも強度を維持する内容となりました。出展されたのは、国宝火焔型土器に代表される土器、土偶や装身具等全64件（国宝6件、重要文化財33件を含む）。フランスでは20年ぶりの本格的な縄文展です。縄文の人々の自然を敬う暮らしの中から生み出された豊かな造形と洗練、際立った独創性に対し、フランスでも称賛の声が上がりました。ル・フィガロ紙は、「これらの遺産は人間による造形芸術の才能の最初のきらめきを示唆する」と書いています。会期中、安倍総理大臣、オドレー・アズレー・ユネスコ事務局長はじめ多数の要人がご来場くださいました。また、日仏の高校生による交流事業もあわせて実施されました。

期　　間： 2018年10月17日（水）～12月8日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金、東京国立博物館、文化庁
協　　力： NHK、朝日新聞社、全日本空輸株式会社
キュレーター： 原田昌幸、品川欣也

©Hiroyuki Sawada
国宝「火焔型土器」
新潟県笹山遺跡出土 十日町所蔵（十日町市博物館寄託）

明治

明治150年、及びギメ東洋美術館の創設者エミール・ギメの没後100周年を記念する展覧会。同館の独自企画によるもので、ジャポニスム2018美術事業の中では、明治の美術に焦点を当てた唯一の展覧会となりました。同館所蔵品をはじめ、欧州の日本美術コレクションを中心に厳選された多様な作品（浮世絵版画、工芸品、写真、日本画）が並ぶ会場には、約7万人が来場し、ジャポニスム人気の根強さを再確認させるものとなりました。

期　　間： 2018年10月17日（水）～2019年1月14日（月）
会　　場： ギメ東洋美術館
主　　催： ギメ東洋美術館
特別協力： 国際交流基金
キュレーター： ミシェル・モキュエール

©Graziella Antonini

ジャポニスムの150年

ジャポニスムが西洋で大流行する1つの契機となった1867年のパリ万国博覧会から150年。本展は、この1世紀半の日本における工芸・デザインの展開を、日仏文化交流の歴史や相互影響の様も踏まえてテーマ別に紹介しました。装飾美術館の日本美術コレクション1,400点を中心に、明治から現代までの伝統工芸、民藝、プロダクトデザイン、グラフィック、ファッション等で埋め尽くされた会場は、建築家の藤本壮介が空間構成しました。

期　　間： 2018年11月15日（木）～2019年3月3日（日）
会　　場： 装飾美術館
主　　催： 国際交流基金、装飾美術館
特別協力： 東京国立近代美術館
協　　賛： H&M、株式会社資生堂、株式会社TASAKI、YKK株式会社
協　　力： Heart and Crafts
キュレーター： ベアトリス・ケット、諸山正則、川上典李子
アドバイザー： コシノジュンコ

©Graziella Antonini

京都の宝―琳派300年の創造

国宝《風神雷神図屏風》（俵屋宗達筆、建仁寺蔵）が初めて欧州へ渡ったことで評判となった本展は、ジャポニスム2018美術事業の1つのハイライトでした。日本を代表する装飾芸術でありながら、フランスではこれまで本格的に紹介されることがなかった琳派の傑作の数々が、初めてパリ市民の前に披露されました。テレビ『フランス2』は、海を渡った国宝をいち早く番組内で紹介しようと、オープンを間近に控えたチェルヌスキ美術館の現場を取材し、その様子はフランス全土に放映されました。またル・モンド紙は「琳派の絵画、版本、屏風、扇子、陶磁器、漆器には自然が溢れる」と激賞。美術雑誌ロイユは宗達を中心に特集を組みました。展覧会は、琳派の祖と目される光悦と宗達、琳派を大成させた光琳の厳選された作品から、始興や乾山、芦舟、芳中らの秀作を加え、近代の神坂雪佳による絵画・工芸までの琳派300年の精華を、主に京都での創造に絞って66件の作品により紹介しました。

期　　間： 2018年10月26日（金）～
2019年1月27日（日）
前期：10月26日（金）～12月9日（日）
後期：12月15日（土）～1月27日（日）
会　　場： パリ市立チェルヌスキ美術館
主　　催： 国際交流基金、京都国立近代美術館
細見美術館、パリミュゼ
パリ市立チェルヌスキ美術館
協　　力： 全日本空輸株式会社
キュレーター： 細見良行、松原龍一
マヌエラ・モスカティエッロ

©Hiroyuki Sawada

MANGA⇔TOKYO

日本のマンガ、アニメ、ゲーム、特撮作品と、そこに映し出され、人々の記憶の中で重ねあわされた都市・東京を複合的に見せることが本展のねらいでした。2,000㎡を超えるラ・ヴィレットの大空間には、1/1,000の巨大東京都市模型のほか、アニメ専門店街、実物大の電車車両、コンビニ模型が出現し、これを囲むように東京を舞台とするマンガ、アニメ、ゲーム、特撮にまつわる出展物（直筆原稿、セル画、撮影用プロップ、映像、特撮模型、フィギュア、歴史資料）が展示されました。現実の都市がいかにフィクションを生起し、方向づけてきたのか、またフィクションやキャラクターがいかなるイメージを現実の都市に付与してきたのか、その相互関係を提示しようと試みました。最後のコーナーに設けられた絵馬掛け風掲示板には、観客からメッセージや好きなキャラクターを描いたカードが多数寄せられ、フランスにおける日本のマンガ・アニメ文化の幅広い受容の様がうかがえました。

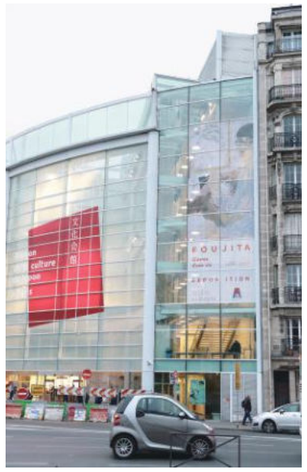
期　　間： 2018年11月29日（木）～
12月30日（日）
会　　場： ラ・ヴィレット
主　　催： 国際交流基金、国立新美術館
文化庁、マンガ・アニメ展示促進機構
ラ・ヴィレット
協　　力： 日本航空株式会社
キュレーター： 森川嘉一郎

©Hiroyuki Sawada

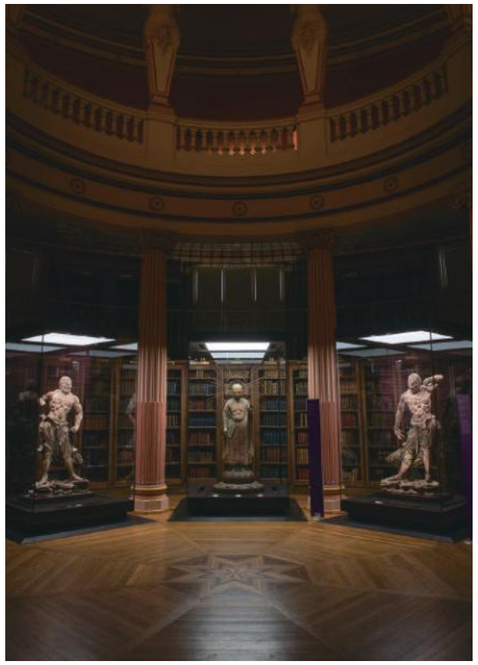
藤田嗣治：生涯の作品（1886-1968）

日仏の画家･藤田嗣治のパリ「里帰り」展。藤田が生前待望していたパリでの本格的な回顧展が、ジャポニスム2018の掉尾を飾る美術展として実現しました。没後50年を機に、2018年に東京と京都で開催され、43万人を動員した「藤田嗣治展」をベースとしながらも、フランスの観客に伝わる展覧会を目指し、日仏のキュレーターが共同企画しました。出展されたのは、日仏の美術館から厳選された代表作36点。フランスでは、藤田の1910-20年代の黄金時代の作品は広く知られていますが、本展では、パリを離れた1930-40年代の「知られざる」作品群も紹介しています。この時代の作品は、ほとんどがフランス初公開となり、特に「作戦記録画」は現地で驚きをもって受け止められました。初期から晩年までの藤田の60年に及ぶ画業を初めてパリで通観したことは、藤田の国際的評価をあらためて問う好機となったのみならず、日仏美術交流史に新たな1ページを刻む記念碑的な展覧会となりました。

期　　間： 2019年1月16日(水)～3月16日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金、京都国立近代美術館
特別協力： 朝日新聞社、NHK
協　　力： 全日本空輸株式会社
監　　修： 高階秀爾、尾崎正明
キュレーター： 林洋子、ソフィー・クレブス



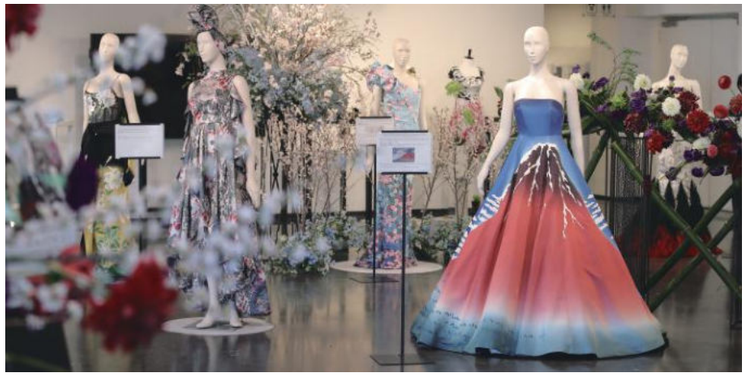
©Hiroyuki Sawada



古都奈良の祈り

奈良･興福寺の代表的仏像である「木造地蔵菩薩立像」（重要文化財）と、「木造金剛力士立像（阿形･吽形）」（国宝）を展示し、1000年以上の長きにわたって培われ、育まれてきた祈りの精神と美を紹介しました。奈良を訪れなければ味わえない、眼前の仏像から放たれる美しさや迫力、その精神性の一端を伝える展示により、シルクロードの東の終着点として日本文化の礎を築いた古都奈良の魅力をフランスの人々に提示しました。

期　　間： 2019年1月23日（水）～3月18日（月）
会　　場： ギメ東洋美術館
主　　催： 奈良県、ギメ東洋美術館
共　　催： 国際交流基金
特別協力： 興福寺、奈良国立博物館、東京国立博物館
日本経済新聞社
協　　力： 日本航空株式会社
監　　修： 根立研介



©Hiroyuki Sawada

BEYOND EAST & WEST　日本の伝統美が鮮やかに蘇る

「和と洋の融合」をテーマとした本展では、オートクチュールデザイナー･桂由美のファッション、そしてフラワーアートとジュエリーにより「日本の伝統美」を表現しました。友禅や西陣織を現代ファッションに蘇らせた桂由美のパリコレクション8作品を展示したほか、「和モダン」を作風とするフラワーアーティスト･KAORUKOによる作品及び斉藤佳代子･川島宏子･宇内美子･八釼淳子によるハンドメイドのコスチュームジュエリーを紹介しました。

期　　間： 2019年2月19日(火)～23日(土)
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： ユミカツラインターナショナル
共　　催： 国際交流基金

Japan Expo 2018 ©David Elbaz

邦楽ライブ 和太鼓×津軽三味線

24万人以上が来場したジャパン・エキスポで、「伝統と革新」をテーマに津軽三味線と和太鼓による進化系の邦楽パフォーマンスを披露。現代カルチャーの紹介が多数を占める中、伝統楽器は注目を集めました。邦楽のもつ「間」と洋楽のリズムを取り入れ、アニメや映画音楽を演奏。現代性を併せもつパフォーマンスは若者から年配の方まで幅広い世代を魅了し、メインステージでのライブには3,000人を超える観客が詰めかけました。

期　　間： 2018年7月5日（木）～6日（金）
（全3回公演）
会　　場： ジャパン・エキスポ
主　　催： 国際交流基金
協　　力： ジャパン・エキスポ

©KOS-CREA

和太鼓 DRUM TAO『DRUM HEART』

日本の新たなエンターテイメントとして進化を続けてきたDRUM TAOがジャポニスム2018開会式に出演。圧巻のステージで日本文化の祭典の開幕を飾りました。続く単独公演でも、大小さまざまな和太鼓や三味線、琴に笛等の伝統楽器を用いたパフォーマンスを披露。アクロバティックなダンスに幻想的な光の演出、さらにはユーモアにも満ちたステージに会場は大いに沸き、初のフランス公演は大成功のうちに幕を閉じました。

期　　間： 2018年7月13日（金）、15日（日）
（全2回公演）
会　　場： ラ・セーヌ・ミュージカル
主　　催： 国際交流基金
協　　賛： Renault-Nissan-Mitsubishi

©ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会

【2.5次元ミュージカル】ミュージカル『刀剣乱舞』～阿津賀志山異聞2018 巴里～

名だたる刀剣が戦士の姿になった“刀剣男士”を育成する超人気ゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」（DMM GAMES/ニトロプラス）を原案とする本公演がヨーロッパ初上陸を果たしました。会場にはフランスのみならずヨーロッパ各国、遠くは中国、カナダ、ベネズエラ等からも観客が訪れ大盛況となり、終演後のロビーでは日本と海外のファン同士の熱い交流も見られました。『刀剣乱舞』のみならず今後の2.5次元ミュージカル再演への期待の声も寄せられました。

期　　間： 2018年7月15日（日）（全2回公演）
会　　場： バレ・デ・コングレ・ド・パリ大劇場
主　　催： ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会
（ネルケプランニング ニトロプラス DMM GAMES
ユークリッド・エージェンシー）
協　　力： 一般社団法人 日本2.5次元ミュージカル協会

©KOS-CREA

雅楽 宮内庁式部職楽部

日本の皇室文化に深く関わり、伝統芸能や美術作品に多大な影響を与えてきた雅楽。このたびフランス政府からの要望に応える形で、平安時代から1300年の伝統を継承してきた宮内庁式部職楽部による演奏会が実現しました。フランス公演は約40年ぶりとあって、古代から受け継がれてきた雅楽を一目見ようと、パリ公演・ストラスブール公演ともに客席は超満員。器楽を演奏する「管絃」、舞を主とする「舞楽」、声楽を主とする「歌謡」は、いずれも優美でありながら迫力に満ち、伝統を重んじるフランスの観客から盛大な拍手が送られました。

期　　間： パリ公演 2018年9月3日（月）（1回公演）
ストラスブール公演 2018年9月6日（木）（1回公演）
会　　場： パリ公演 フィルハーモニー・ド・パリ
ストラスブール公演 コンセルバトワール・ド・ストラスブール
主　　催： 国際交流基金、宮内庁
パリ公演 フィルハーモニー・ド・パリ
ストラスブール公演 ストラスブール市、コンセルバトワール・ド・ストラスブール
協　　力： KAJIMOTO、有限会社伊藤事務所
ストラスブール公演 在ストラスブール総領事館
アルザス欧州日本学研究所

©KOS-CREA（白獅子：坂口貴信、赤獅子：観世三郎太）

宮本亜門演出 能×3D映像『YUGEN 幽玄』

伝統的な能と最新テクノロジーを駆使した3D映像のコラボレーション作品。三保の松原等の日本の自然風景を3Dイメージが補い、能の「幽玄」の世界や、日本文化に受け継がれる自然への畏敬の念を想起させる公演となりました。本公演は、ヴェルサイユ宮殿での晩餐会の直前に上演され、皇太子殿下、マクロン大統領をはじめとする多数の賓客が観劇し、終演後は温かな拍手に包まれ、日仏の友好を印象づけました。

期　　間： 2018年9月12日（水）（1回公演）
会　　場： ヴェルサイユ宮殿オペラ劇場
主　　催： 国際交流基金
協　　力： 一般財団法人観世文庫
プエルタ デル ソル株式会社、株式会社WM
協　　賛： Château de Versailles、Château de Versailles Spectacles
Renault-Nissan-Mitsubishi

©KOS-CREA

日仏ダンス共同制作 トリプルビル

フランス人振付家ドミニク・エルヴュの発案による日仏のヒップホップ・ダンス・ツアー。高い芸術性で注目される振付家カデル・アトゥと、近年頭角を現している若手振付家ジャンヌ・ガロワが5名の日本人ダンサーをオーディションで選出し、新作『Yōso（Éléments）』と『Reverse』を創作しました。さらにフランス初公演となる東京ゲゲゲイの作品『東京ゲゲゲイ女学院』が加わり、ヒップホップ・ダンスのイメージを一新する作品となりました。

期　　間： 2018年9月18日（火）～11月14日（水）（全23回公演）
会　　場： 国立シャイヨー劇場、リヨン・ダンスビエンナーレほか
主　　催： 国際交流基金ほか
共同製作： リヨン・ダンスビエンナーレ、国立シャイヨー劇場
Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2018
ラ・ロシェル国立振付センターほか
制作協力： バルコ

©松竹株式会社　　『鳴神』鳴神上人：中村獅童 雲の絶間姫：中村七之助

松竹大歌舞伎

歌舞伎俳優・中村獅童、中村七之助の出演による『色彩間苅豆（いろもようちょっとかりまめ）かさね』と『鳴神』が上演された国立シャイヨー劇場では、パリで11年ぶりとなる松竹大歌舞伎公演を待ち焦がれた観客で約1,000席の会場における全7公演がほぼ満席となりました。初日は皇太子殿下ご臨席のもと、ジャポニスム2018の開催を華やかに飾り、観客は獅童の迫力ある演技と、女方を演じた七之助の美しさと優雅な所作に目を凝らし、カーテンコールでは大きな手拍子のアンコールが続きました。フランス語の音声イヤホンガイドやパンフレットが観客の理解を助け、歌舞伎の面白さを堪能することができたとの声が多数聞かれ、歌舞伎になじみのない観客も作品を楽しむことができた様子でした。「豪快な技の魅力と、繊細な表現の美しさとが双璧をなす傑作」と報じたフィガロスコープ誌をはじめ、多くのメディアが俳優の演技の妙や歌舞伎の様式美への称賛を報じ、パリの演劇シーズンのオープニングを彩る大きな話題となりました。

期　　間： 2018年9月13日（木）～19日（水）
（全7回公演）
会　　場： 国立シャイヨー劇場
主　　催： 国際交流基金、国立シャイヨー劇場
文化庁
共　　催： フェスティバル・ドートンヌ・パリ
製　　作： 松竹株式会社
協　　賛： 全日本空輸株式会社

©KOS-CREA

野村万作･萬斎･裕基×杉本博司『ディヴァイン･ダンス 三番叟』

第一線で活躍する狂言師･野村万作、萬斎、裕基の親子三代による夢の共演。人生の悲哀や人間の善悪の二面性を表した名曲『月見座頭』と、最も古い祝祷芸能の1つ『三番叟』を野村家三代が日替わりで上演するという前代未聞の試みが実現しました。日本を代表する現代美術作家･杉本博司が舞台美術や装束のデザインを手がけ、日本の原始的かつ繊細な世界観の中、ダンサーやデザイナー、美術関係者等幅広いジャンルの観客が、世代を超えて伝承される芸に魅了されました。

期　　間： 2018年9月19日（水）～25日（火）（全7回公演）
会　　場： パリ市立劇場 エスパス･カルダン
主　　催： 国際交流基金、パリ市立劇場
共　　催： 公益財団法人小田原文化財団
フェスティバル･ドートンヌ･パリ
制作協力： 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター

現代演劇シリーズ―リーディング 飴屋法水作『ブルーシート』

フランス国営ラジオ放送局の番組の1つであるフランス･キュルチュールとパリ市立劇場による、観客を前にフランス初公開作品のリーディングをライブ収録し、ラジオドラマとして放送する企画の第1弾。飴屋法水によって書かれ2013年に初演された本作をフランスの国立演劇学校コンセルバトワール卒の若い俳優たちが上演。東日本大震災と原発事故後に飴屋法水と福島県立いわき総合高等学校の生徒たちの手によって創作された作品を生々しく鮮やかに演じました。国家を揺るがすカタストロフィと、記憶の爪あとが残る言葉の数々に多くの共感が寄せられました。

期　　間： 2018年9月22日（土）（1回公演）
会　　場： パリ市立劇場 エスパス･カルダン
主　　催： 国際交流基金、パリ市立劇場
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
協　　力： 国際演劇翻訳センター メゾン･アントワーヌ･ヴィテーズ

ファブリック･シャイヨー／島地保武 ダンス創作のためのレジデンス･プログラム

世界各国で活躍する新進気鋭の振付家･ダンサーを集め育成する国立シャイヨー劇場のレジデンス･プログラム「ファブリック･シャイヨー」。劇場からのオファーを受けて参加した島地保武が、ダンサーの小尻健太と辻本知彦、音楽家の岡直人とともにパリに約1か月滞在し、日本語のオノマトペを題材に、擬音語や擬態語を新作ダンスに仕上げ、フランスの劇場関係者に向けて発表しました。終演後には、作品の意図や動きの意味等に関する質問が飛び交い、ダンス関係者の高い関心がうかがえました。

期　　間： 2018年9月～11月（一般非公開）
会　　場： 国立シャイヨー劇場
主　　催： 国際交流基金、国立シャイヨー劇場
協　　賛： 株式会社資生堂

現代演劇シリーズ―リーディング 前川知大作『散歩する侵略者』

フランス国営ラジオ放送局の番組の1つであるフランス･キュルチュールとパリ市立劇場によるラジオドラマ企画の第2弾。2005年に前川知大によって書かれた本作は、2017年に黒沢清監督が映画化し、大きな注目を浴びました。地球外生命体に日常が侵され、非日常へと変質していくストーリーを、フランス人の俳優が象徴的に演じ、ライブで奏でられる効果音とともにドラマ性を際立たせることに成功しました。

期　　間： 2018年9月22日（土）（1回公演）
会　　場： パリ市立劇場 エスパス･カルダン
主　　催： 国際交流基金、パリ市立劇場
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
協　　力： 国際演劇翻訳センター メゾン･アントワーヌ･ヴィテーズ

©KOS-CREA

現代演劇シリーズ―タニノクロウ演出『ダークマスター』

国立演劇センター ジュヌビリエ劇場のダニエル・ジャンヌトー芸術監督とフェスティバル・ドートンヌ・パリのマリー・コラン芸術監督の熱烈なオファーによりタニノクロウ2作品の連続上演が実現。大阪の洋食屋を細部までリアルにつくった舞台装置の中で展開される本作は、偏屈なマスターから超小型無線機を渡された若者が指示に従い店を担うストーリー。観客もイヤフォンを装着し、あたかも観客自身が姿を消したマスターから操作されているかのような感覚を味わいます。視覚だけではなく聴覚、嗅覚と五感全てに訴える本作に、「新感覚だった」、「あっという間の2時間だった」といった感想が寄せられました。

期　　間： 2018年9月20日（木）～ 24日（月）（全5回公演）
会　　場： 国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
主　　催： 国際交流基金
国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェスティバル・ドートンヌ・パリ
製　　作： 庭劇団ペニノ

©Yurina Niihara

現代演劇シリーズ―タニノクロウ演出『地獄谷温泉 無明ノ宿』

2016年にパリで上演されるも、連日満席のため、再演を強く希望された本作。ジュヌビリエ劇場に山奥の古い湯治宿を移築したかのような舞台装置が再びフランスの観客を魅了しました。「張り詰めた雰囲気に圧倒された」、「あまりのリアリティに恐ろしさを感じるほどだった」――フランスの観客は、失われていく日本の日常に非日常的な登場人物を溶け込ませながら、まるで異世界に導くようなタニノクロウの緻密な世界観に引き込まれた様子でした。

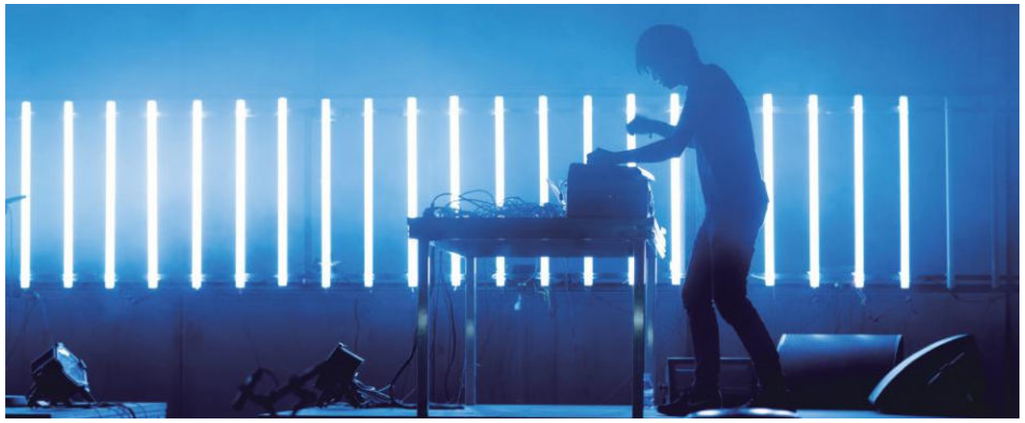
期　　間： 2018年9月25日（火）～29日（土）（全5回公演）
会　　場： 国立演劇センター ジュヌビリエ劇場ほか
主　　催： 国際交流基金
国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェスティバル・ドートンヌ・パリ
製　　作： 庭劇団ペニノ

©KOS-CREA

ジャポニスム2018 テクノ・イベント TOKYO HIT vol.3 クラブ・イベント feat.石野卓球

フランスの音楽イベント集団Take Hitに加え、ポンピドゥ・センター、Technopolとタイアップしたイベント。日本のテクノ界を黎明期から牽引してきた石野卓球を招き、オールナイトの熱いイベントとなりました。日仏のDJが終始高いテンションで場を盛り上げ、熱狂する観客からは「ぜひ今後も続けてほしい」という声も聞かれる等、パワー溢れるオールナイトイベントとなりました。

期　　間： 2018年9月28日（金）（1回公演）
会　　場： ル・トラベンド
主　　催： 国際交流基金、パリ日本文化会館
共　　催： Take Hit
協　　力： ポンピドゥ・センター、Technopol



©KOS-CREA

ジャポニスム2018 テクノ・イベント テクノ・コンサート

日本・ヨーロッパを中心にエレクトロ・ミュージック・シーンの新しい可能性を追求しながら活動する次世代のアーティストDJ Scotch Egg、Takami Nakamoto & Sébastien Benoits、Kyoka、Aki-Ra Sunrise、DJ Ben Vedrenがポンピドゥ・センターに集結したテクノ・イベント。ポンピドゥ・センターがクラブに様変わりしたような会場は、個性溢れるDJたちのさまざまなパフォーマンスにより熱狂的な空気に包まれました。

期　　間： 2018年9月28日（金）（1回公演）
会　　場： ポンピドゥ・センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ・センター
共　　催： Technopol
協　　力： パリ日本文化会館

photo : Nathalie Vu-Dinh

野田秀樹演出『贋作 桜の森の満開の下』

日本を代表する俳優陣が集結し国立シャイヨー劇場の大舞台で上演された『贋作 桜の森の満開の下』。網の目のように複雑に絡まり次々と展開されるスピーディーなドラマは、成熟したパリの観客たちの目を釘づけにし、劇場の客席は大きな熱気と「ブラボー！」の拍手喝采に包まれました。終演後、フランス人の観客は、「フランスにはない表現やスピード感が印象的、日本を身近に感じることができた」、「美しい演出が素晴らしい。夢に見てしまいそう」等、感動した様子を口々に話していました。

期　　問： 2018年9月28日（金）～10月3日（水）（全5回公演）
会　　場： 国立シャイヨー劇場
主　　催： 国際交流基金、国立シャイヨー劇場
東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、NODA・MAP
協　　力： 全日本空輸株式会社

©Takeshi Miyamoto

JINSEI TSUJI CONCERT

日仏で作家活動を続ける辻仁成による、ミュージシャンとしてのコンサート。ドラムとベースとヴォーカルというシンプルな編成で、自身のヒット曲『ZOO』やエディット・ピアフの曲等日仏の名曲をカバー。プライベートな話題も含めたフランス語のMCもあって、ライブハウスと化した会場は温かな雰囲気に包まれて手拍子も起こり、観客が楽しんでいる様子がうかがえました。

期　　問： 2018年10月4日（木）（1回公演）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金

©KOS-CREA

コンテンポラリーダンス―川口隆夫『大野一雄について』

川口隆夫によるダンス作品『大野一雄について』のパリ初演をパリ市立劇場 エスパス・カルダンで上演しました。「舞踏」の創始者の1人である故・大野一雄の作品を川口隆夫が再構成した本作は、全公演がほぼ満席の盛況となり、「舞踏」に大きな関心をもつフランスを中心とした欧州の観客を惹きつけました。映画『O氏の肖像』を大胆に再解釈して川口が創作した冒頭部分は、劇場前の公園を舞台に、さまざまなガラクタを身にまとう実験的なものであり、その後の劇場舞台での、大野の踊りに迫ろうとする緻密なアプローチとの対照を成しました。終演後は大きな拍手とともに「ブラボー」の歓声が上がり、SNS上でも話題となったほか、日仏両国のメディアでも取り上げられて高い評価を得ました。「舞踏」への新たなアプローチを提示し、現代日本の身体芸術の存在感を示した公演となりました。

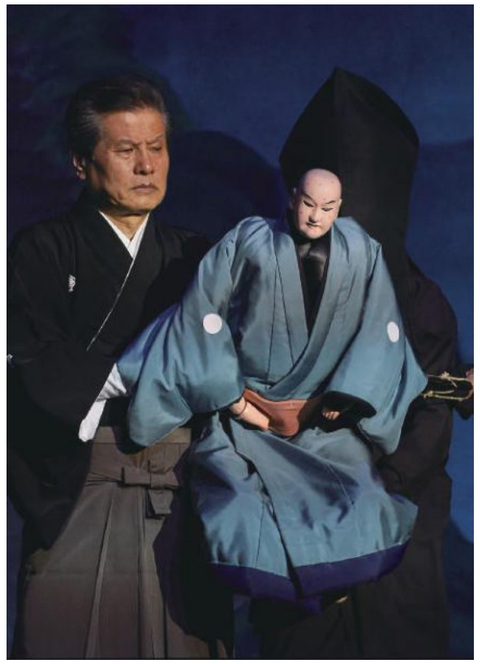
期　　問： 2018年10月2日（火）～5日（金）（全4回公演）
会　　場： パリ市立劇場 エスパス・カルダン
主　　催： 国際交流基金、パリ市立劇場
共　　催： フェスティバル・ドートンヌ・パリ

©Yukari Isa

現代演劇シリーズ―松井周演出『自慢の息子』

作家・演出家であり俳優としても活躍する松井周の代表作である『自慢の息子』に片桐はいり、伊藤キム等の実力派舞台人が集結、リクリエーションを行い、ヨーロッパデビューした本作。引きこもりの息子と母といった閉鎖的な家庭で行われる会話を通じ、現代日本社会に埋没する孤独や不在を浮き彫りにした本作は「まるで日本社会に横たわる黒い絶望を言い換えたかのようだ」と評され、日本演劇界を担うアーティストの力強さをフランスの観客に印象づけました。

期　　間： 2018年10月5日(金)～8日(月)(全4回公演)
会　　場： 国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
主　　催： 国際交流基金
国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
共　　催： 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、フェスティバル・ドートンヌ・パリ
企画・製作： 一般社団法人サンプル



©Yas

文楽

太夫、三味線、人形の三業が一体となって日本の情(じょう)を表現する人形浄瑠璃 文楽。現代を代表する出演者たちにより『日高川入相花王～渡し場の段』と『壺坂観音霊験記～沢市内より山の段』が上演され、人間の本質に迫る大胆かつ繊細な舞台が披露されました。会場のシテ・ド・ラ・ミュージックはフランスで高水準な演奏会を誇る音楽ホールであるため、観客からは人形のきめ細かな動きとともに、太夫・三味線の表現豊かな音楽性にも高い関心が寄せられました。

期　　間： 2018年10月12日(金)～13日(土)(全2回公演)
会　　場： シテ・ド・ラ・ミュージック
主　　催： 国際交流基金、フィルハーモニー・ド・パリ
協　　力： KAJIMOTO、公益財団法人文楽協会

©Yas

伶楽舎 × 森山開次

古典雅楽のほか、現代雅楽、現代邦楽等幅広いジャンルの音楽を手がける伶楽舎。第1部では、音楽監督の芝祐靖が復曲、構成した宮中の音楽行事『露台乱舞』を披露しました。第2部では世界的に活躍するダンサー・森山開次の演出、振付によるコンテンポラリーダンスとの共演が実現。権代敦彦作曲『彼岸の時間』と猿谷紀郎作曲『綸綬(りんじゅ)』を舞いました。多彩なアーティストが結集したコラボレーションに、観客から多くの注目が集まりました。

期　　間： 2018年10月13日(土)(1回公演)
会　　場： フィルハーモニー・ド・パリ
主　　催： 国際交流基金
フィルハーモニー・ド・パリ
協　　力： KAJIMOTO、曹洞宗 東長寺
天池合繊株式会社

©Hirozumi Shimizu

太鼓 林英哲と英哲風雲の会

世界初の太鼓独奏者・林英哲と彼の音楽に共鳴する実力者が揃う英哲風雲の会による伝統と革新が織り成すライブパフォーマンス。林英哲自身が刺激を受けた芸術家の作品や生き方をテーマに創作している太鼓ドラマともいうべき劇的舞台作品の一環として、フランスに永眠する画家・藤田嗣治の生涯と作品をモチーフとした『レオナール、われに羽賜べ』等を披露し、割れんばかりの拍手が送られました。「若冲―〈動植綵絵〉を中心に」展が開催されたパリ市立プティ・パレ美術館でも特別に楽曲を披露し、同展のクロージングに華を添えました。

期　　間： 2018年10月14日(日)(1回公演)
会　　場： フィルハーモニー・ド・パリ
主　　催： 国際交流基金
フィルハーモニー・ド・パリ
協　　力： KAJIMOTO

©KOS-CREA

日本舞踊

約400年の伝統を有する日本舞踊。人間国宝·井上八千代、富山清琴をはじめ、伝統を受け継ぐ一流の舞踊家と演奏家が、代表的な演目である『藤娘』『八島』『連獅子』を上演。洗練された舞と演奏で日本の美を表現する多彩な演目に、多くの観客は酔いしれました。終演後、井上八千代と富山清琴の両氏には芸術文化勲章シュヴァリエが授与され、日仏の国際文化交流を象徴する公演となりました。

期　　間： 2018年10月14日（日）～15日（月）（全2回公演）
会　　場： シテ·ド·ラ·ミュージック
主　　催： 国際交流基金、フィルハーモニー·ド·パリ
協　　力： KAJIMOTO、公益社団法人日本舞踊協会

©Yusuke KINAKA

現代演劇シリーズ―木ノ下裕一監修·補綴　杉原邦生演出·美術　木ノ下歌舞伎『勧進帳』

歴史的な文脈を踏まえながら、現代における歌舞伎の可能性を追究する木ノ下裕一主宰の団体·木ノ下歌舞伎。古典歌舞伎の中でも人気の高い演目『勧進帳』が、杉原邦生演出·美術により、ポンピドゥ·センターのホールに両面客席の仮設舞台を設けて上演されました。「根底は変えずに、歌舞伎の精神を保ちつつ、現代を生きる我々の日常を映す素晴らしい手法で見せてくれた」と高く評価され、歌舞伎になじみのないフランスの観客をも魅了した公演となりました。

期　　間： 2018年11月1日（木）～3日（土）（全3回公演）
会　　場： ポンピドゥ·センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ·センター
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
企画制作： 木ノ下歌舞伎

©KOS-CREA

現代演劇シリーズ―岡田利規演出『三月の5日間』リクリエーション

2004年に初演、独特の言葉と身体性を用いた手法で日本現代演劇の潮流を変え、2005年岸田國士戯曲賞を受賞した『三月の5日間』。90年代生まれの若い俳優たちとともに岡田がリクリエーションを行った本作は、ミニマルに構成された舞台空間や、取りとめのない会話から生まれる空虚感、拠り所ない身体性への共感の言葉がフランスの若い世代からも寄せられ、世界で活躍する岡田利規の鋭敏な芸術性がさらなる評価を得ました。

期　　間： 2018年10月17日（水）～20日（土）（全4回公演）
会　　場： ポンピドゥ·センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ·センター
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェスティバル·ドートンヌ·パリ
製　　作： 一般社団法人チェルフィッチュ
KAAT神奈川芸術劇場

©KOS-CREA

現代演劇シリーズ―岡田利規演出『プラータナー：憑依のポートレート』

タイ現代文学の第一線を走る小説家ウティット·ヘーマムーンによる最新長編小説『プラータナー：憑依のポートレート』を岡田利規が舞台化。ともに70年代に生まれ、現代社会やアジアに生きる個人のアイデンティティを鋭く見つめるアーティスト2名がタッグを組み、バンコクで11名のタイ人俳優と共同作業を重ねつくり上げました。国家や政治に翻弄される身体が、常に変化し続ける舞台美術の中で展開した本作は「まるで巨大なインスタレーションのようで力強い存在感を放ち、同時代に向けた明敏かつ自由な視線をもった作品」と高く評価されました。

期　　間： 2018年12月13日（木）～16日（日）（全4回公演）
会　　場： ポンピドゥ·センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ·センター
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）、フェスティバル·ドートンヌ·パリ
製　　作： 国際交流基金アジアセンター、株式会社precog
一般社団法人チェルフィッチュ
助　　成： 公益財団法人セゾン文化財団

©武内直子·PNP／"Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live製作委員会

【2.5次元ミュージカル】"Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live

日本のポップカルチャーの代表格として今も世界中で愛される「美少女戦士セーラームーン」の魅力を活かした新たなパフォーマンスショー。ダンスに映像、特殊効果が融合した舞台に、ヨーロッパ中から集まったファンから大きな歓声が上がり、アンコール曲『ムーンライト伝説』では熱狂がピークに達しました。公演前日にはパリ日本文化会館でフォトセッションが実現。開館前から小さな子どもや往年のファンが行列をなし、憧れのセーラー戦士が決めポーズをとるたび、魔法にかけられたかのようにため息が漏れました。

期　　間： 2018年11月3日（土）～4日（日）
（全2回公演）
会　　場： パレ・デ・コングレ・ド・パリ大劇場
主　　催： "Pretty Guardian Sailor Moon"
The Super Live製作委員会
協　　力： 一般社団法人 日本2.5次元ミュージカル協会

©Christophe Raynaud de Lage

宮城聰演出『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』

世界最高峰の演劇フェスティバルである「アヴィニョン演劇祭」で2014年に大絶賛された本作。公演前にチケットが完売となるほど、現地での期待の高さがうかがえました。会場のラ·ヴィレットでは、広大なホール内に一からリング状の舞台が組み立てられ、観客は絵巻物のような舞台を堪能しました。白を基調とした平安貴族調の衣裳、重厚な語り、俳優の生演奏の音楽が一体となった舞台は、連日スタンディングオベーションで迎えられました。

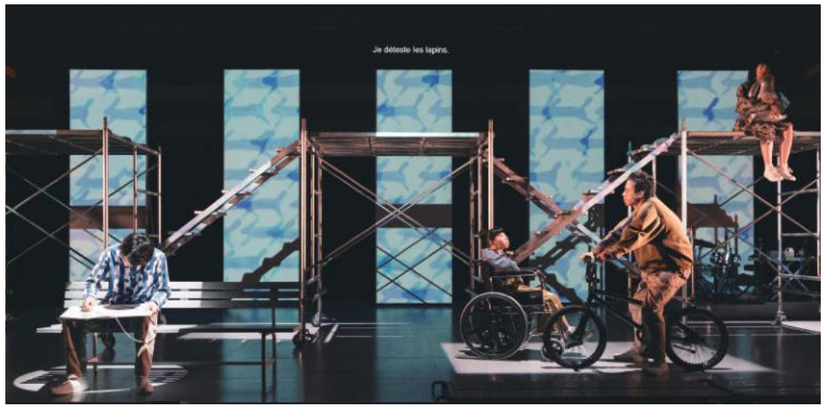
期　　間： 2018年11月19日（月）～25日（日）
（全6回公演）
会　　場： ラ·ヴィレット
主　　催： 国際交流基金、ラ·ヴィレット
共　　催： SPAC-静岡県舞台芸術センター
協　　力： 全日本空輸株式会社

©KOS-CREA

現代演劇シリーズ―岩井秀人構成·演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』

パリの北に隣接する国立演劇センター ジュヌビリエ劇場のダニエル·ジャンヌトー芸術監督からアソシエイト·アーティストとして「『ワレワレのモロモロ』をジュヌビリエの人々とつくってほしい」とオファーされた劇作家·演出家の岩井秀人。『ワレワレのモロモロ』シリーズは出演者自身が自分の人生経験をもとに台本を書き、岩井が構成·演出する企画です。移民が多く住むジュヌビリエ市に滞在を繰り返した岩井はアマチュアやプロの俳優との対話を重ね、国籍と人種を超えて「家族とは?」「本当の自由、平等、博愛とは?」と観客に疑問を投げかける作品を生み出しました。ル·モンド紙、リベラシオン紙、リュマニテ紙をはじめ数々の主要メディアに取り上げられた本作は「まるで印象派初期のアーティストたちが自然の中に、街の中にイーゼルを置き、人生の瞬間の光と影を筆で描いたような、もしくはそれ以上の表現が岩井の作品に存在するのである」（リュマニテ紙）と絶賛を浴びました。

期　　間： 2018年11月22日（木）～12月3日（月）
（全10回公演）
会　　場： 国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
主　　催： 国際交流基金
国立演劇センター ジュヌビリエ劇場
共　　催： 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
フェスティバル·ドートンヌ·パリ
協　　力： quinada



©KOS-CREA

現代演劇シリーズ―藤田貴大演出『書を捨てよ町へ出よう』

そのカリスマ性と才能で日本の演劇界を牽引した寺山修司の代表作を、ジャポニスム2018現代演劇シリーズで最も若いアーティスト・藤田貴大が演出した作品。寺山修司自身が監督した映画『書を捨てよ町へ出よう』(1971)の事前上映を行い、寺山作品への理解を深めたことが劇評にも反映され、「1985年生まれの藤田貴大は、1970年代の日本の芸術シーンと反体制文化のカルト的人物である寺山修司の戯曲及び映画『書を捨てよ町へ出よう』をラディカルに読み直し、今日のものとした」との評価を得ました。

期　　間： 2018年11月21日(水)～24日(土)(全4回公演)
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金
共　　催： 東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
フェスティバル・ドートンヌ・パリ

ジャズ 小曽根真 featuring No Name Horses

小曽根真が率いるビッグ・バンド、No Name Horsesによるジャズ・コンサート。前半では小曽根真編曲のガーシュウィン『ラプソディ・イン・ブルー』を、後半は小曽根真、エリック宮城、中川英二郎のオリジナル曲を演奏。ビッグ・バンドだからこそ生まれる迫力あるアンサンブルと、各ミュージシャンの力のこもったソロに観客は聴き入り、終演後は総立ちのスタンディングオベーションとなりました。

期　　間： 2018年12月5日(水)～6日(木)(全2回公演)
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金

©Crypton Future Media, INC. www.piapro.net / ©SEGA Graphics by SEGA / MARZA ANIMATION PLANET INC. Production by Crypton Future Media, INC.

HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE

バーチャルシンガー・初音ミクによるファン待望のフランス初公演をラ・セーヌ・ミュージカルで開催。本公演は初の欧州ツアー「HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE」の初日とあって、ベルギー、イタリア、スペイン、ポルトガル等フランス以外の欧州各国からもファンが駆けつけ、チケット販売サイトはサーバーがダウンするほどの殺到ぶり、当日のグッズ売り場にも早朝から長蛇の列が。会場は初音ミクを象徴する青いペンライトの海と化し、『千本桜』『ゴーストルール』『秘密警察』といった人気曲に4,000人のファンの興奮は最高潮に。MCで初音ミクが「パリの皆さんこんにちは! やっと皆さんと会えてとても嬉しいです」と流暢なフランス語で挨拶すると、ファンから割れんばかりの大歓声が湧き上がり、中には涙ぐむ人まで見られました。公演終了後もファンは名残惜しそうに余韻に浸り、帰路につく初対面のファン同士が肩を組み合う様子も。アンケートには感動と感謝の言葉が多数寄せられ、全員が日本への親近感が増したと回答する結果になりました。音楽や技術の力で国境を越える、新時代の国際文化交流のあり方や可能性を象徴する夜となりました。

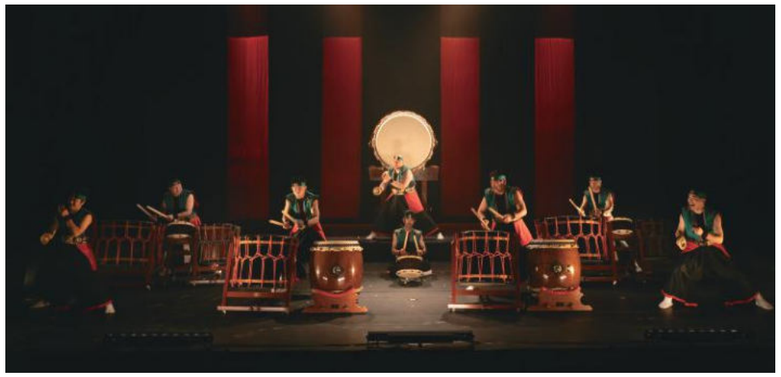
期　　間： 2018年12月1日(土)(1回公演)
会　　場： ラ・セーヌ・ミュージカル
主　　催： 国際交流基金、ラ・セーヌ・ミュージカル
協　　力： クリプトン・フューチャー・メディア株式会社

©Patrick Berger

コンテンポラリーダンス―伊藤郁女（かおり）×森山未來『Is it worth to save us? 』

フランスで活躍する振付家・ダンサー伊藤郁女と多彩な活動で注目を集める森山未來による初のデュオ作品。伊藤郁女がアソシエイトアーティストであるメゾン・デ・ザール・ド・クレテイユで上演しました。三島由紀夫の『美しい星』に着想を得てそれぞれが書き下ろしたテキストの日仏2言語による語りやデュエット、高い身体能力を活かしたダンスで織り成された舞台は、世界に対する違和感と歩み寄りをユーモラスに表現し、共感と好評を博しました。

期　　間： 2018年12月18日（火）～20日（木）（全3回公演）
会　　場： メゾン・デ・ザール・ド・クレテイユ
主　　催： 国際交流基金、メゾン・デ・ザール・ド・クレテイユ
協　　力： フランス文化通信省-イル・ド・フランス地域文化振興局（DRAC）、BNPパリバ財団
制　　作： カンパニーHIME
共同制作： KAAT 神奈川芸術劇場



©KOS-CREA

2018ジャポン×フランス プロジェクト（日本の障害者による舞台芸術の発信／瑞宝太鼓 in フランス）

2017年フランス・ナント市で大絶賛された知的障害者によるプロの和太鼓集団「瑞宝太鼓」の公演を中心に、フランス共同団体のディレクターが選考した、障害者らで構成するダンスカンパニー（ジェネシスオブエンターテイメント、湖南ダンスカンパニー）の作品を上演。3団体の作品は、異なる世界観をもちながらいずれも完成度が高く、満員の観客は息を呑んで舞台に集中。ミュリエル・ペニコー労働大臣や教育関係者、障害者に関連するメディア関係者等、多様な来場者を迎えて、日本の障害者の優れた舞台芸術をフランスから世界に発信しました。

期　　間： ナント公演 2019年2月23日（土）～24日（日）（全2回公演）
**　　：** パリ公演 2019年2月27日（水）～28日（木）（全2回公演）
会　　場： ナント公演 フランス国立現代芸術センター リュー・ユニック
パリ公演 パリ日本文化会館
主　　催： 文化庁、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会
共　　催： 国際交流基金
共同制作： パリ市立アル・サン・ピエール美術館
フランス国立現代芸術センター リュー・ユニック

『翁』浅見真州 ©KOS-CREA

『二人袴』野村萬 野村万蔵 野村万之丞 ©KOS-CREA

能楽

野村萬、梅若実、浅見真州ら現代一流の能楽師が本格的な能舞台で日本文化の精髄である能楽を披露し、連日満席の中、パリの観客を魅了しました。能楽の原点として別格に扱われる『翁』にはじまり、能『葵上』『清経　恋之音取』『砧』のほか、狂言『木六駄』『二人袴』が上演され、屋根・柱・橋掛かり・鏡の間付きの能舞台、能装束、構成等全てにおいて、これまでの能楽海外公演ではなしえなかったレベルの公演が実現しました。舞台を鑑賞したフェスティバル・ドートンヌ・パリのマリー・コラン芸術監督も「儀式的な要素の厳粛さが感じられた。荘厳な作品で、謡は叙情詩的な美しさが際立っていた。これほどまでに質の高い伝統芸能の作品がパリで上演されたことに感謝」と絶賛しました。終演後、野村萬が芸術文化勲章オフィシエを、梅若実、浅見真州が同シュヴァリエを授与され、フランク・リステール文化大臣からはジャポニスム2018の成功と3氏の受賞に祝辞が寄せられました。

期　　間： 2019年2月6日（水）～10日（日）（全6回公演）
会　　場： シテ・ド・ラ・ミュージック
主　　催： 国際交流基金、日本経済新聞社
フィルハーモニー・ド・パリ
協　　力： KAJIMOTO
協　　賛： アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社ぐるなび、新菱冷熱工業株式会社
SOMPOホールディングス株式会社
ダイキン工業株式会社
大日本印刷株式会社、寺田倉庫株式会社
日本通運株式会社

©KOS-CREA

蜷川幸雄演出『海辺のカフカ』

村上春樹の傑作長編小説をフランク・ギャラティが脚本化し、蜷川幸雄が演出した『海辺のカフカ』のパリ初演。無数のアクリルケースに納められた舞台セットがまるで見えない力に操られながら時間と空間を表現し、観客を圧倒する存在感をもつ俳優の熱演とともに幕を開けた舞台が話題を呼び、連日50人以上のキャンセル待ちの列ができるほどとなりました。ジャポニスム2018のグランド・フィナーレの1つに相応しく、フランスでも高い人気を誇る原作者・村上春樹が千秋楽に駆けつけ、国立コリーヌ劇場ワジディ・ムアワド芸術監督と5名の学生とともにトークイベントに参加しました。蜷川幸雄の演出は「完成度の高さ、そして厳格なまでの俳優の演技によって、観客の胸に訴えかけてくるような作品」（ル・フィガロ紙）と称賛を浴びました。

期　　間： 2019年2月15日（金）～23日（土）
（全8回公演）
会　　場： 国立コリーヌ劇場
主　　催： 国際交流基金、国立コリーヌ劇場
共　　催： TBS、ホリプロ
協　　力： 新潮社、ニナガワカンパニー
全日本空輸株式会社
企画制作： ホリプロ

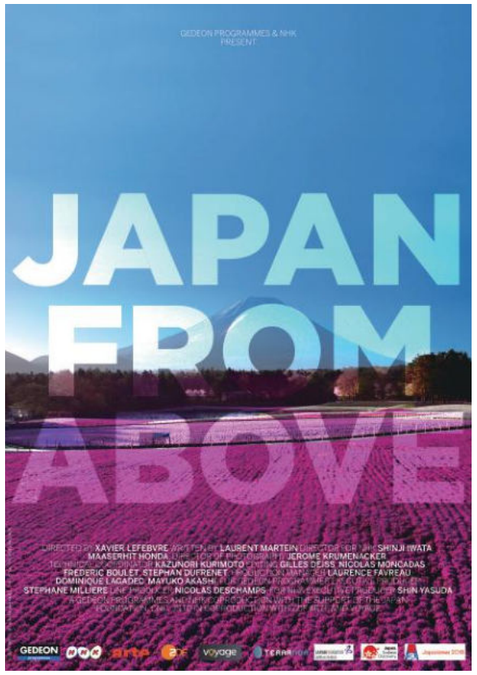
公式企画　映像

©Jean-Claude Cohen JC Press

河瀬直美監督　新作『Vision』特別上映

ジャポニスム2018公式オープニング事業の1つとして、河野外務大臣を客席にお迎えし、河瀬直美監督最新作の日仏共同製作映画『Vision』（フランス語題：*Voyage à Yoshino*）のフランス・プレミア上映が行われました。上映前には、舞台となった奈良県吉野町の金峯山寺修験者のホラ貝や、河瀬監督と主演のジュリエット・ビノシュらのトーク、美しい奈良を撮った河瀬監督の短いドキュメンタリー等を披露。奈良の魅力を紹介する展示パネルが並ぶフォワイエで上映後に催されたカクテルパーティーでは、吉野の日本酒が振る舞われました。

期　　間： 2018年7月12日（木）
会　　場： シネマテーク・フランセーズ
主　　催： 国際交流基金
シネマテーク・フランセーズ
特別協力： 奈良県、吉野町
協　　賛： Renault-Nissan-Mitsubishi



©Gédéon Programmes / NHK

テレビ日本特集

文化・教養専門チャンネルARTEで日本特集が組まれました。黒澤明監督の名画『七人の侍』、NHKが国際交流基金の支援を得てフランスの制作会社らと共同製作したドキュメンタリーや紀行番組等、さまざまなジャンルの良質な日本関連番組が1週間にわたり集中的に放送されました。なお、放送された番組の1つ *le Japon vu du ciel*（NHKドキュメンタリー名：『フロム・ザ・スカイ　空から見た日本』）を90分に集約した映像 *Japon, aux racines du soleil*（太陽にルーツをもつ日本）が、フランスの制作会社Gédéon Programmesの協力によりパリ日本文化会館で一般向けに上映され、来場者は大スクリーンでの見事な空撮映像に再び息を呑みました。

期　　間： <テレビ放映>2018年9月1日（土）～7日（金）
<特別上映>2019年1月5日（土）
会　　場： <特別上映>パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金、ARTE、Gédéon Programmes

日本映画の100年

日本映画の100年の歴史を計119本の映画でたどる、3部構成の一大プロジェクト。第1部「日本映画の発芽」では、坂本頼光らによる活動弁士公演付きで上映し喝采を博した『雄呂血』（二川文太郎監督）はじめ日本映画黎明期の貴重な作品計27本が紹介されました。第2部「日本映画再発見」では、フランスで未だ知られざる名作32本と、デジタル修復で蘇った日本映画史上極めて重要な傑作23本、計55本を上映。あわせて出演俳優の有馬稲子、香川京子と国立映画アーカイブ主任研究員の大傍正規によるトークを企画し、小津安二郎監督や溝口健二監督らの撮影現場の貴重な思い出話や映画修復に関するレクチャーに、会場からは惜しみない拍手が送られました。第3部では、現在の日本映画界を牽引する監督たちの作品37本により日本映画の「今」を伝えました。役所広司、常盤貴子、宮崎あおい等の俳優陣に加え、大林宣彦監督をはじめとする12名もの映画監督ほか、多くの映画人が連日ゲストトークに登壇し、フランスの映画ファンとの交流を深めました。なお2019年2月15日には、公益財団法人ユニジャパンとフランス国立映画センターが執り行った「日仏映画協力協定」交換式に引き続き、本企画の記者発表会を行い、大林監督と俳優3名がフランスでの映画上映にかける思いを語りました。なお本企画の一部は、トゥールーズ、リヨン、ニース、ヴズールにも巡回しています。

期　　間： 第1部 2018年9月26日（水）～10月21日（日）
第2部-Ⅰ 2018年11月21日（水）～12月21日（金）
第2部-Ⅱ 2019年1月23日（水）～3月18日（月）
第3部 2019年2月6日（水）～3月19日（火）
地方巡回 トゥールーズ 2018年9月28日（金）～2019年2月7日（木）
リヨン 2018年10月2日（火）
ニース 2018年10月6日（土）～11月30日（金）
ヴズール 2019年2月5日（火）～2月12日（火）

会　　場： 第1部 シネマテーク・フランセーズ
第2部-Ⅰ パリ日本文化会館
第2部-Ⅱ シネマテーク・フランセーズ
第3部 シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館
地方巡回 シネマテーク・ドゥ・トゥールーズ（トゥールーズ）
アンスティテュ・リュミエール（リヨン）
シネマテーク・ドゥ・ニース（ニース）
シネマ・マジェスティク（ヴズール国際アジア映画祭）

主　　催： 国際交流基金、国立映画アーカイブ
シネマテーク・フランセーズ

協　　賛： 木下グループ、Renault-Nissan-Mitsubishi

企画選定委員： 安藤紘平、ファブリス・アルデュイニ
ジャン=フランソワ・ロジェ

登 壇 者： 第1部 坂本頼光（活動弁士）、
カラード・モノトーン・トリオ（湯浅ジョウイチ、鈴木真紀子、杉本顕子）
第2部-Ⅰ 有馬稲子、香川京子、大傍正規
第3部 役所広司、常盤貴子、宮崎あおい、小笠原弘晃
青山真治、安藤桃子、岩井俊二、大林宣彦、沖田修一
阪本順治、白石和彌、濱口竜介、樋口真嗣、細田守
松永大司、李相日、木藤幸江、佐藤公美

©jean luc mege photography 2018

©Hiroyuki Sawada

©Hiroyuki Sawada

©Midori Fujioka

©Hiroyuki Sawada, ©Midori Fujioka, ©Yurina Niihara

©彼方舎

『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』特別上映会

日本を代表する記録映画作家·羽田澄子監督が、名優·十三代目片岡仁左衛門を、舞台はもちろん、楽屋から稽古場、片岡家の日常まで追い続けた傑作ドキュメンタリー映画『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』を海外初披露しました。全6部、計10時間46分に及ぶ本作を通しで2回上映。上映前と幕間に行われた、フランス語字幕制作担当のパスカル·グリオレ国立東洋言語文化学院准教授とモハメド·ガネムの解説もわかりやすいと好評で、仁左衛門の芸の深さと人間としての魅力を堪能した観客は終了後も遅くまで残って感想を述べ合い、質問を繰り広げました。

期　　間： 2018年11月9日（金）～10日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金

©Hervé Véronèse

河瀬直美監督特集 特別展·特集上映

ポンピドゥ·センターが企画する「映画監督の往復書簡シリーズ」に、「カンヌの申し子」と言われる河瀬直美監督とスペインのイサキ·ラクエスタ監督が登場。河瀬監督が自ら着想、企画し、故郷·奈良の和紙で制作した2点のインスタレーション「春·夏·秋·冬」と「想いのスクリーン」が展示されました。加えて、河瀬監督全映像作品と、河瀬監督をテーマに取り上げた映像作品あわせて40本以上の回顧上映も実施。なお開幕式では、河瀬監督自ら書道パフォーマンスを披露しました。

期　　間： 2018年11月23日（金）～2019年1月7日（月）
会　　場： ポンピドゥ·センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ·センター
フェスティバル·ドートンヌ·パリ
特別協力： 奈良県、パリエールグループ

KINOTAYO現代日本映画祭

第13回目を迎えたフランス最大の日本映画祭「KINOTAYO現代日本映画祭」を、ジャポニスム2018の一環として拡充開催。日本でも大ヒットした『カメラを止めるな！』（上田慎一郎監督）を皮切りに、13本の選りすぐりの最新日本映画をパリと16もの地方都市で上映しました。『菊とギロチン』主演女優の木竜麻生、『斬、』の塚本晋也監督、『ユリゴコロ』の熊澤尚人監督を含む9名のゲストを迎え、フランス全土で8,000人以上を動員しました。

期　　間： 2019年1月17日（木）～2月11日（月）（パリ）
2019年1月12日（土）～4月1日（月）（パリ以外）
会　　場： パリ日本文化会館、クラブ·ドゥ·レトワール（パリ）、ルイーズ·ワイス高校（アンシェール）、シネマ·ル·コンティ（リスル·アダン）、ユーロッパコープ·シネマ（ロワシー）、ピサロ高校（ポントワーズ）、オーヴェル城（オーヴェル·シュル·オワーズ）、シネマ·リュミエール（リヨン）、シネマ·ヴァンドーム（ヴァンドーム）、シネマ·メリエス（ポー）、シネマ·サンテグジュペリ（ストラスブール）、ル·ヴォバン2（サン·マロ）、シネマ·アストレ（シャンベリー）、シネマ·シネトワール·ロッシュビル（ル·カネ）、シネマ·オランピア（カンヌ）、シネマ·シネプラネット（アレス）、シネマ·マルリマージュ（マルリ）、シネマ·ユートピア（サン·トゥアン·ロモヌ）
主　　催： 国際交流基金、KINOTAYO映画祭実行委員会
協　　賛： 日本貿易振興機構（ジェトロ）、ヴァル=ドワーズ県、笹川日仏財団

©Hiroyuki Sawada

©Midori Fujioka

『FOUJITA』特別上映会

没後50年を記念して企画された「藤田嗣治：生涯の作品（1886-1968）」展にあわせ、小栗康平監督作品『FOUJITA』（2015）のフランス·プレミア上映を行いました。日仏合作ながらこれまでフランスで紹介される機会がなかった本作品がようやくフランスで披露されることが話題を呼び、パリ在住の同作制作スタッフやキャストも詰めかけて会場は満席、観客は映画と小栗監督のアフタートークを堪能しました。パリ日本文化会館でのプレミアの後は、会場をパリ市内の映画館ラルルカンに移して連日上映を行い、多くの映画ファンや美術ファンがFOUJITAの世界に浸りました。

期間·会場： 2019年1月18日（金）パリ日本文化会館
2019年1月19日（土）～27日（日）映画館ラルルカン
主　　催： 国際交流基金

「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ　日本食アトリエ<子ども向け>

楽しみながら日本の味に親しんでもらう子ども向け体験ワークショップを3回にわたって実施しました。現地で入手可能な材料で自宅でもつくれる「手まり寿司・巻き寿司」「お好み焼き」「どら焼き」を取り上げ、講師や父兄が優しく見守る中、初めて触れる海苔や粒あんに悪戦苦闘しながらも、一生懸命に調理に取り組みました。でき上がり後は皆で賑やかに試食、お腹いっぱいの子どもたちの笑顔が溢れた、アットホームなイベントとなりました。

期　　間： 2018年7月18日（水）、10月13日（土）
2019年2月23日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金
企　　画： 相原由美子
講　　師： 菅野麻美、相原由美子、村田崇徳

「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ　日本食アトリエ<調理師学校・シェフ向け>

これからのフランス美食界で影響力や波及力を発揮するであろうシェフやソムリエの「卵」たちに日本食の知識や技術を紹介して、自身のキャリアに生かしてもらうべく、パリや地方の調理師職業リセでデモンストレーションを行いました。繊細な出汁の仕込みや一級の包丁さばきの披露、季節を感じる和菓子の実演、日本酒・日本茶の試飲等、学生たちはときにメモを取ったり、スマートフォンで録画したりと、スキルアップに繋がるヒントやコツを見出そうと熱心に耳を傾けました。

期間・会場： 2018年9月27日（木）ジャン・ドルアン調理師職業リセ
2018年10月16日（火）ルネ・オフレイ調理師職業リセ
2018年11月19日（月）ギィヨーム・ティレル調理師職業リセ
2018年12月7日（金）トゥール大学食文化食物史欧州研究所
2019年1月22日（火）オクシタニー調理師職業リセ
2019年1月31日（木）アレクサンドル・デュマ調理師職業リセ
主　　催： 国際交流基金
企　　画： 相原由美子
講　　師： 奥田透（銀座小十店主）、川村浩司（つば甚料理長）、林大介（日本料理アカデミーUK副理事長）、宮川圭一郎（Kura Master運営委員会代表）、長江桂子（パティシエ）、村田崇徳（Takanori Murata主人）ほか

©MIHO

「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ　酒巡り in Paris

フランスの方々が日本酒をよりふつうに、より多様に、より深く楽しめる方法を紹介することを目的に、パリのさまざまなジャンルのレストラン、バーと日本各地の蔵元をそれぞれ公募により24軒ずつ選び、1対1でマッチングしたうえで、各店のシェフやソムリエにマッチングされた日本酒に合う料理を特別考案してもらいました。この特別料理は、期間中ジャポニスム2018記念メニューとして日本酒とともにそれぞれのレストランやバーで提供され、パリの街中が日本酒で盛り上がりました。あわせて同時期、一般向け日本酒セミナーや、日本酒インポーターやレストラン関係者等プロ向け日本酒ワークショップを開催し、酒器や酒の温度による味の違い、ワインとの違い、料理との相性等について実技と講義で説明を行い、より深く日本酒を楽しむためのアイディアを紹介しました。事業後も続けてマッチング相手のレストランで提供されることになった日本酒の銘柄もあり、参加蔵元からは、「日本酒を1つの日本文化として捉え、歴史、つくり方、味わい方を丁寧に説明した方がよいとわかった」「自分も驚くような日本酒のあわせ方だった」「今回の経験を大切に、今後も地道に取り組んでいきたい」といった声が聞かれました。

期　　間： 2018年9月29日（土）～10月5日（金）
会　　場： Pavillon Ledoyen, Le Bar d'Espace Japon, Lucas Carton, Breizh Café Odéon, Automne, Etude, Ground Control, Semilla, Bonvivant, Enyaa, Le sot l'y laisse, L'huîtrier, Buddha-Bar Restaurant, Botanique restaurant, Maguey, An di an di, Jaja, Tempilenti, Grand Cœur, Breizh Café Montorgueil
主　　催： 国際交流基金
協　　力： Salon du saké、株式会社パソナ農援隊、ふしきの（セミナー講師：宮下祐輔）
参加蔵元： 国稀酒造株式会社、月山酒造株式会社、株式会社男山本店、株式会社佐浦、永井酒造株式会社、株式会社外池酒造店、豊島屋酒造株式会社、八海醸造株式会社、株式会社豊島屋、宮坂醸造株式会社、川尻酒造場、伊藤酒造株式会社、美吉野醸造株式会社、黄桜株式会社、月桂冠株式会社、明石酒類醸造株式会社、剣菱酒造株式会社、利守酒造株式会社、株式会社加越、宗玄酒造株式会社、吉田酒造株式会社、株式会社今田酒造本店、株式会社八木酒造部、天吹酒造合資会社
企　　画： 関口涼子

「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ　日本のお酒試飲の夕べ

パリ市民が日々集う街中のワインバーを会場に、新潟県、佐賀県、広島県、石川県、島根県、奈良県がそれぞれ推薦する地元産日本酒を肩肘張らずに学び、楽しむ試飲会を6晩に分けて開催しました。県のPR動画上映、フランスのソムリエによる生き生きとしたレクチャー、県産おつまみ品の提供を交えたメリハリのある構成に、毎回顔を出すリピーターも現れました。心地よいほろ酔い加減の中で、銘柄ごとに異なる特色ある味わいを通じて、日本酒の醍醐味を感じてもらえました。

期間･会場： 2018年11月6日（火）　Le rouge et le verre（新潟県）
2018年11月12日（月）Goguette（佐賀県）
2018年11月21日（水）116 pages（広島県）
2019年1月24日（木）　Le Rouge et le Verre à Turin（石川県）
2019年2月11日（月）　Virtus（島根県）
2019年2月18日（月）　Cave « Soif d' ailleurs »（奈良県）
主　催： 国際交流基金、参加自治体
企　画： 相原由美子
協　力： Kura Master

「日本の食と文化を考える」シリーズ　Pompidou Extra Festival！「亡霊の饗宴」

食を芸術的な観点から捉え直す試みにおいて先駆者的存在であるフランスならではの分野横断企画。ポンピドゥ･センターによるバカンス明けの恒例文学週間Extra Festival！の一環として実施しました。日本人の祖先信仰にも繋がる「亡霊･幽霊」を着想点にして、多彩な発表とパリ在住日本人シェフによるディナー料理が交互に繰り出され、ゲストスピーカーと観客全員が同じテーブルを囲んで1つの世界観をつくり上げました。

期　　間： 2018年9月8日（土）
会　　場： ポンピドゥ･センター
主　　催： 国際交流基金、ポンピドゥ･センター
参 加 者： 関口涼子（著述家、翻訳家）、山口杉朗（レストランBotaniqueオーナーシェフ）、ジョゼフ･ゴースン（音楽評論家）、ヤマザキマリ（漫画家）、川上弘美（小説家）、木村朗子（日本文学研究者）、港千尋（写真家）ほか

「日本の食と文化を考える」シリーズ
日本へのクリエイティブな旅展「日本のガストロノミー：地方の食文化を中心に」

地域を活性化させるメカニズムとして食を捉え、「日本人の伝統的な食文化」と「地方」に焦点を当て、日本文化の幅と奥行きを展示やデモンストレーションを通じて多角的、総合的に紹介しました。日本茶、日本酒や泡盛、GI登録産品の数々を紹介するブースに加え、茶の湯やいけばなを披露する場も設置され、試食コーナーや体験コーナーは行列ができるほど好評を博しました。ユネスコ加盟国の関係者、ユネスコ本部関係者、各国外交団関係者等を多く含む来場者からは、「日本の各地に実際に行ってみたくなった」という声が多く聞かれました。

期　　間： 2018年10月15日（月）～19日（金）
会　　場： 国際連合教育科学文化機関（UNESCO）本部
主　　催： 国際交流基金、日本へのクリエイティブな旅展実行委員会
協　　力： evian

「日本の食と文化を考える」シリーズ　食文化シンポジウム

日仏の食文化を取り巻く現状や食を通じた協力･交流の展望について、両国の関係者が各々の立場･見地から意見を交わすシンポジウムを催しました。今や世界共通語となった「うま味」の効用の学術的立証、厨房でのエピソードも交えた両国料理人による日仏食文化談議、日本でのワインづくり、フランスでの日本酒醸造に携わる生産者同士の対談等、多岐にわたるテーマが聴衆の関心を惹きました。

期　　間： 2019年2月4日（月）～5日（火）
会　　場： ソルボンヌ大学
主　　催： 国際交流基金、ソルボンヌ大学
企　　画： 相原由美子
パネリスト： 高橋拓児（料亭「木乃婦」代表取締役）、玉村豊男（ヴィラデストワイナリーオーナー）、福田育弘（早稲田大学教授）、伏木亨（龍谷大学教授）、ニコラ･ボーメール（名古屋大学准教授）ほか

©MIHO

「日本の食と文化を学ぶ/楽しむ/考える」シリーズ　日本茶の世界

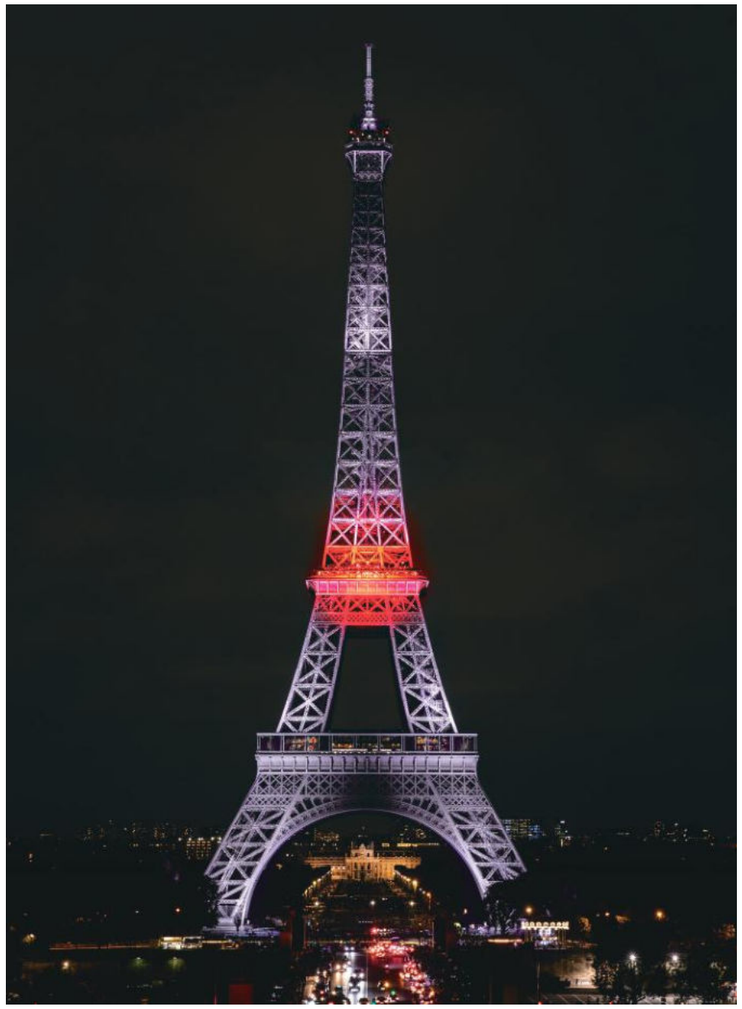
日本茶を体験し、楽しみ、学び、考察することで、フランスの日常生活の中に日本茶が溶け込むきっかけづくりを目指した複合的事業。まず11月に、今後の日本茶普及のキーパーソンとなる食関係者やジャーナリストに的を絞ったワークショップを行い、日本茶を味わうさまざまな可能性について具体的に紹介しました。このワークショップで得た知識や技をもとに、フランスのソムリエやパティシエがオリジナルの日本茶カクテルや日本茶スイーツを考案、12月には、パリ等のカフェやバー計15店舗でそれらを提供する「日本茶月間」を開催し、フランス人の嗜好にあわせた多様な日本茶の楽しみ方を広く提案しました。「月間」中には、専門家による講演会も実施して、文化的･科学的観点からも日本茶の魅力に迫りました。なお、一連の催しに先立ち、日本航空の協力により、日本茶を使ったジャポニスム2018記念デザートが羽田-パリ便ビジネスクラス機内食として乗客に振る舞われ、ジャポニスム2018と日本茶を盛り上げました。

期　　間： JAL機内食“ジャポニスム2018スペシャルデザート”：2018年6月～12月
日本茶アトリエ：2018年11月19日(月)
日本茶月間：2018年12月～2019年1月
日本茶講演会：2018年12月15日(土)

会　　場： 日本茶アトリエ：ル･コルドン･ブルー
日本茶月間：La Dame de Pic, Jaja, Vingt Vins d'Art, Pages, 116 pages, L'embrasser, Akatsuki, La Poudrière, Sôma, Alan Geaam, Le 6 Paul Bert, Soën 1738, Accents, La table du caviste Bio, Restaurant ES
日本茶講演会：パリ日本文化会館

主　　催： 国際交流基金、株式会社パソナ農援隊

協　　力： 日本航空株式会社、evian、スピリッツ&シェアリング株式会社、レストラン ES、Rika IIMORI / nihonchaparis



企画･プロデュース　石井幹子&石井リーサ明理　写真提供：石井幹子デザイン事務所

エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔 日本の光を纏う>

フランスのランドマークとも言えるエッフェル塔が、照明デザイナーの石井幹子と石井リーサ明理の手によって日本の光を纏いました。皇太子殿下のご点灯により、雅楽が鳴り響く中で日の丸を連想させる赤い太陽が塔を駆け上がると、続いて「自由、美、そして多様性」をテーマに、モダンでポップなモチーフや、富士山や風神雷神図等日本を象徴する図柄が「鉄の貴婦人」を彩りました。フィナーレでは黄金色の地に尾形光琳の描いた艶やかな「燕子花図」がゆっくりと揺蕩い、パリの夜空に大きな金屏風が飾られたようでした。合わせて10分間のこの光のパフォーマンスは両日25時まで繰り返され、エッフェル塔前やセーヌ川対岸の人権広場には大勢の観客が集まり、夜遅くまで光のアート作品を楽しんでいました。

期　　間： 2018年9月13(木)～14日(金)

会　　場： エッフェル塔

主　　催： 国際交流基金、ジャポニスム2018エッフェル塔ライトアップ実行委員会

協　　賛： パナソニック株式会社、スタンレー電気株式会社、株式会社島精機製作所、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社、NTTコミュニケーションズ株式会社、光文化フォーラム

特別協力： パリ市、エッフェル塔管理会社、国立シャイヨー劇場

協　　力： 東京国立博物館、根津美術館

企画･プロデュース： 石井幹子&石井リーサ明理

実施デザイン･制作： 石井幹子&石井幹子デザイン事務所、石井リーサ明理&I.C.O.N., Paris

伝統工芸シリーズ① TEWAZA

シリーズ第1弾は、東京染小紋、京都の西陣織、岡山の備前焼を紹介しました。陳列された工芸品を鑑賞するだけでなく、製作実演を見て、ワークショップで実際に製作を体験し、講演会で理解を深め、各工芸品の成り立ちや職人の熱い思いに触れた参加者からは、感嘆の声が上がりました。

期　　間： 2018年9月15日（土）～22日（土）
会　　場： パリ日本文化会館、エスパス・デンサン（Maison WA内）
主　　催： 国際交流基金、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会
参加店舗： 株式会社 富田染工芸、備前焼のお店DAIKURA
株式会社 白龍庵勝山

伝統工芸シリーズ② 日本の木で繋ぐ「和」の空間

シリーズ第2弾では、ストラスブールの工芸見本市「サロン・レゾナンス」に日本が招待国として参加。日本の生活と文化に欠かせない「木」をメイン・コンセプトに、建具、組子細工等木製工芸品を展示して人々を魅了。木工職人による講演も実施しました。会期後半はパリにおいて、鎌倉彫や南木曽のろくろ細工の展示と職人による実演を行いました。

期　　間： 2018年11月9日（金）～12日（月）、17日（土）～24日（土）
会　　場： パルク・エクスポ/ヴァッケン（ストラスブール・サロン・レゾナンス）、エスパス・デンサン（Maison WA内）
主　　催： 国際交流基金、一般社団法人日本木材輸出振興協会、一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会
出展事業者（ストラスブール）： 全国建具組合連合会、東京大学、ジャパン建材株式会社営業本部推進グループ、輪島塗ぬり工房 楽、宮崎大学、株式会社イクタ、猪俣美術建具店、大利木材株式会社、株式会社タニハタ、有限会社森田建具、有限会社豊岡クラフト、有限会社森本建具店、SPACE MAGIC MON Co.
出展事業者（パリ）： 青山工房（鎌倉彫）、ヤマイチ小椋ロクロ工芸所（南木曽ろくろ細工）

伝統工芸シリーズ③ 伝統と先端と—日本の地方の底力

シリーズ最後の第3弾では、15の地方自治体とタッグを組み、各地を代表する工芸品の展示と工芸職人による実演やワークショップを行いました。会期前半はパリにおいて、工芸品を実際に製作する体験型のワークショップから伝統工芸をテーマとした映画上映まで幅広い事業を実施、後半はナントに場所を移し、日本の地方の魅力を工芸を通じてアピールしました。

期　　間： 2019年2月5日（火）～16日（土）、20日（水）～24日（日）
会　　場： パリ日本文化会館、ナント・コスモポリス
主　　催： 国際交流基金、一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）
共　　催（参加自治体）： 青森県、岩手県、大阪府、香川県、岐阜県、熊本市、高岡市（富山県）、鶴岡市（山形県）、富岡市（群馬県）、富山県、奈良県、新潟市、福井市、富士吉田市（山梨県）、真庭市（岡山県）

日仏ダイアローグ① 講演会「クローデルの『繻子の靴』」

フランスの劇作家・詩人にして、1920年代に駐日大使も務めたポール・クローデルの生誕150年を記念して、演出家の渡邊守章東京大学名誉教授による講演会を開催しました。クローデルの代表戯曲『繻子の靴』を、原作に近い8時間にも及ぶ舞台に仕上げた渡邊教授。子息の映像作家・渡邊敦彦が撮影した映像を挟みながら、演出の意図や裏話等をフランス語で解説しました。講演後は、聴衆が挨拶や質問、サインを求め長い列ができました。

期　　間： 2018年9月25日（火）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金

日仏ダイアローグ② 講演会「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」

国際アンドレ・マルロー協会副会長の田中英道東北大学名誉教授を招き、葛飾北斎とポール・セザンヌの関係に迫る講演会を実施しました。従来関連づけて語られることが稀だったジャポニスムと画家のセザンヌについて、フランスの作家で文化大臣も務めたマルローの視点を加味しながら、自説が展開されました。会場は美術史に関心のあるフランス人観客で満員となり、熱心にメモを取る様子が多く見られました。

期　　間： 2018年11月22日（木）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金

日仏ダイアローグ③ シンポジウム「グローバル・プレイヤーとしての日仏協力：日仏協力の現実と未来」

日仏の知的プラットフォームの活性化と対話チャンネルの多層化を目的に過去4回実施されてきた「日仏対話週間」の第5回をジャポニスム2018にあわせて開催しました。ちょうど騒動の頂点にあったフランスの「黄色いベスト抗議運動」の話題にも触れながら、両国の政治情勢や近隣諸国との今後の関係、世界規模の課題に対する日仏協力の可能性、文化外交が担うべき役割等について、3日間にわたって活発な議論が繰り広げられました。

期　　間： 2018年12月6日（木）～8日（土）
会　　場： パリ日本文化会館、笹川日仏財団
主　　催： 国際交流基金、日仏知的交流会議実行委員会
助　　成： 笹川日仏財団
パネリスト： 伊豆見元（東京国際大学教授）、片岡貞治（早稲田大学教授）、國分良成（防衛大学校長）、坂井一成（神戸大学教授）、田中明彦（政策研究大学院大学学長）、野中尚人（学習院大学教授）、渡邊啓貴（東京外国語大学教授）、ローランス・バデル（パリ第1大学教授）、ギブール・ドラモット（フランス国立東洋言語文化研究学院教授）、パスカル・ペリノー（パリ政治学院教授）、ドミニク・レニエ（政策刷新基金事務局長）

日仏ダイアローグ④ シンポジウム「日本人が見たフランス、フランス人が見た日本」

160年にわたりさまざまな面で交流を深めてきた日仏両国が、互いにいかなる魅力を見出し、どう相手を受容してきたのかを振り返りました。まずエマニュエル・トロンコワのコレクションを通して日仏文化表象のイメージを考え、続いて、若き日の福沢諭吉や木版画家・合田清をはじめとする日本人のフランス体験事例から日仏関係の変化を探りました。さらにテーマを食に絞って「日本人のフランス料理」と「フランス人の和食」それぞれの印象の変化を探究。最後は、それまでのセッションを踏まえ、日本を代表する文化社会学者とフランスを代表する地理学者が講演を行いました。

期　　間： 2019年1月11日（金）～12日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金、人間文化研究機構
登 壇 者： 講演：吉見俊哉（東京大学教授）、オギュスタン・ベルク（フランス国立社会科学高等研究院教授）
パネル・ディスカッション：荒木浩（国際日本文化研究センター教授）、クリストフ・マルケ（フランス国立東洋言語文化研究学院教授）、ロール・アベルシル（装飾芸術図書館司書）、柏木隆雄（大阪大学名誉教授）、柏木加代子（京都市立芸術大学名誉教授）、谷川恵一（総合研究大学院大学教授）、山口昌子（ジャーナリスト）、佐野真由子（京都大学教授）、石井香絵（早稲田大学招へい研究員）、和田博文（東京女子大学教授）、佐藤洋一郎（京都府立大学和食文化研究センター特任教授）、石毛直道（元国立民族学博物館館長）、橋本周子（滋賀県立大学助教）、ジャン・ロベール・ピット（パリ地理学会会長、フランス・ワイン・アカデミー会長）

©Takeshi Miyamoto

日仏ダイアローグ⑤ シンポジウム「日仏文学の今」

現在活躍中で高い人気を誇る日本とフランス語圏の作家たちをパネリストとして迎え、ラウンドテーブルを開催しました。それぞれの国における文学のあり方を比較しながら、文学界における女性の位置づけや役割、出版界における課題等について鋭い指摘がなされ、議論が繰り広げられた後は、日仏の関係者が交流を深めました。

期　　間： 2019年1月18日（金）
会　　場： オテル・ベッドフォード
主　　催： 国際交流基金
ディレクター： 辻仁成
パネリスト： 林真理子、桐野夏生、角田光代、ナンシー・ヒューストン（カナダ）、ステファニー・ジャニコ（フランス）

日仏ダイアローグ⑥ 俳句討論会「クローデルの日本―『百扇帖』をめぐって」

ポール・クローデルを巡るダイアローグの第2弾。クローデルが日本大使として勤務していた最後の年にフランス語でまとめた句集『百扇帖』（1927）について、その豊かな意味と可能性を、現代日本における前衛俳人とフランス・米国の俳人・俳句研究者らが、比較文学・比較文化の視点から議論を交わしました。クローデルの作品を通じて、日本とフランスにおける詩的表現について考察を深める機会となりました。

期　　間： 2019年2月5日（火）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金
モデレーター： 芳賀徹（比較文学者、東京大学名誉教授）
パネリスト： 金子美都子（聖心女子大学名誉教授）、夏石番矢（俳人、明治大学教授、世界俳句協会代表理事）、恩田侑布子（俳人）、アビゲール・フリードマン（俳人）、アラン・ケルヴェルン（俳人、俳句研究家）

禅文化週間

日仏の臨済禅僧の協力のもと、書画、庭園、茶道等多くの文化･習慣に影響を与えてきた禅文化の精神を、パネル展示、映像上映、坐禅会、写禅語体験、老師による法話講演を通じて多角的に紹介しました。坐禅会は実施2週間前には全7回のチケットが完売となる人気ぶりで、中には、社員教育の一環として従業員一同で申し込んだ企業もありました。参加者は指導僧の所作を参考にして、教授された姿勢や呼吸法を早速実践していました。また、写禅語体験では小学生向け特別セッションも設けて、初めて持つ筆ペンで真剣に禅語をなぞった子どもたちにとって充実した課外授業となりました。締めくくりとなったエスパス･カルダンでの法話講演には、日曜日にもかかわらず多くの来場者が訪れ、壇上にずらりと座した僧侶たちによる坐禅披露は圧巻の一幕でした。ジャーナリズム学科の学生による卒業制作用取材も入り、あらためてフランス人のZENへの関心の高さをうかがい知ることができました。

期間･会場： 2018年10月2日(火)～6日(土)パリ日本文化会館
2018年10月7日(日)パリ市立劇場 エスパス･カルダン
主　　催： 国際交流基金
企画協力： 臨済宗黄檗宗連合各派合議所/公益財団法人禅文化研究所
参 加 僧： 横田南嶺、堀尾和良、平井正修、森昌寛、山﨑正紘、山本義寛、松下昌弘、細川晋輔、竹林士哲、羽賀浩大、Taïkan Jyoji、Taishin Sōmyō

「地方の魅力」—祭りと文化

日本全国14自治体がそれぞれの地域を代表する魅力溢れる文化を携えてパリに集結。パリ近郊にあるアクリマタシオン庭園では日本を代表する7つの祭り/踊りが披露され、開催された3日間で約6万人もの来場者を呼び込み、多くの家族連れを含むパリっ子たちを大いに魅了しました。同会場には日本のB級グルメが味わえる屋台も並び、日本の祭り文化を堪能できる3日間となりました。パリ日本文化会館ではそれぞれの地方に根づく、芸能や工芸をはじめ魅力ある文化を紹介する公演、展示、ワークショップ等15の多種多様なイベントが連日開催され、こちらも連日地方文化の奥深さを味わい楽しむ人で溢れました。

期　　間： 2018年10月17日(水)～27日(土)
(祭り/踊り)2018年10月20日(土)～22日(月)
(地方文化)2018年10月17日(水)～19日(金)
2018年10月23日(火)～27日(土)
会　　場： (祭り/踊り)アクリマタシオン庭園
(地方文化)パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金、市川市(千葉県)、岩手県、木曽町(長野県)、岐阜県、高知県、五所川原市(青森県)、徳島県、鳥取県、奈良県･奈良市、新潟市、兵庫県、山梨県･甲府市
共　　催： アクリマタシオン庭園
日本政府観光局(JNTO)
一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR)
特別協力： パリエールグループ、evian

©Isabelle Geiger / FFJudo

©Yukinobu Kato

柔道　ジャポニスム2018 JITA-KYOEI PROJECT

「JITA-KYOEI（自他共栄）」とは「その団体・社会を組織している各成員が、その他の成員と相互に融和協調して、ともに生き栄えること」という意味で、講道館柔道の創始者、嘉納治五郎による教えの中で最も重要な言葉の1つです。本「PROJECT」では柔道大国フランスでも「自他共栄」を実現するべく、さまざまな交流事業を開催しました。「上村春樹・野村忠宏 特別講習会」では上村講道館長やオリンピック3連覇の野村七段に技の極意を教わるために総勢1,000人もの老若男女の柔道愛好家、指導者が集まり、ともに学びました。初心者の少女が野村七段に背負い投げを決め、自らに驚くと同時に見せた喜びの表情に会場全体が和む場面もありました。フランス柔道連盟の年始の式典「鏡開き」や柔道の国際大会「グランドスラム・パリ」の折には、大勢の観客が見守る中、講道館の鮫島元成八段と南保徳双六段が真剣を用いた「極の形」を披露しました。展示ではその「極の形」についても紹介し、来場者は柔道と日本刀との知られざる関係に新たな発見を見出しました。そのほか、嘉納治五郎の言葉や自筆の書等も紹介され、訪れた人々に柔道が競技だけではなく、精神修養の「道」でもあることを伝えることができました。

期　　間： ①上村春樹・野村忠宏 特別講習会 2018年12月7日（金）～9日（日）
②展示：Japonismes 2018 JITA-KYOEI PROJECT 2019年1月15日（火）～26日（土）
③鏡開き 新年挨拶、「極の形」デモンストレーション 2019年1月19日（土）
④グランドスラム・パリにおける展示、「極の形」デモンストレーション 2019年2月9日（土）～10日（日）

会　　場： ①アンスティテュ・デュ・柔道、ル・グラン・ドーム（ヴィルボン＝シュル＝イヴェット）、トゥールーズ市スポーツ資源・専門技術・競技力向上センター（CREPS）（トゥールーズ）
②パリ日本文化会館
③アンスティテュ・デュ・柔道
④アコーホテルズ・アリーナ

主　　催： 国際交流基金、公益財団法人講道館、フランス柔道連盟

特別協力： バリエールグループ

©keiko sumino-leblanc

いけばな

池坊、一葉式いけ花、小原流、草月流、未生流の5つの流派の家元・次期家元がパリで一堂に会して、展覧会、ワークショップ、シンポジウムを通じて、いけばなの魅力を華やかに紹介しました。花展会場には、日仏の花材を織り交ぜて制作された、迫力ある艶やかな大作や各流派の特徴際立つ様式展示が並び、フランス国内はもとより、スイス、イタリア、ポーランド等近隣国からの来館者も含めて、この会期の展示としては会館史上最高となる3,600人以上の入場を記録しました。また、シンポジウムも予約開始2時間足らずで定員に達し、別室にモニター会場まで用意する盛況振りで、「いけばなのユネスコ無形文化遺産登録を目指しましょう」という壇上からの力強いアピールには、聴衆からも賛同の拍手が送られました。ル・モンド紙でも報道されたほか、来場者からも「4日間で終わるのは惜しい」との称賛の声が聞かれ、世界に広がるIKEBANA文化の根強い人気がうかがえました。

期　　間： 2019年1月30日（水）～2月2日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 国際交流基金
協　　力： 公益財団法人日本いけばな芸術協会
いけばなインターナショナル

©Graziella Antonini

茶の湯

「ウィークエンド・ジャポニスム」と銘打って、春の自然光の入る美しいプティ・パレ美術館を会場に、2日間にわたって茶道事業を開催しました。同美術館の南パビリオンに金屏風や掛け軸等をしつらえて準備されたお茶会は、週末を使ってプティ・パレに来館した人たちがひっきりなしに訪れる大人気事業となりました。ひとたび会場に入り、暫しの間喧噪を離れ、心を静めて味わうお茶の味はまた格別だったようです。また茶会に加え、今日庵の伊住禮次朗茶道資料館副館長を講師に迎え、2つのテーマで講演会を行い、初日は茶道とは何かについて基本的なレクチャーを、2日目は茶の湯の文化史・美術史的側面を専門的な部分も含め紹介しました。

期　　間： 2019年2月23日（土）～24日（日）
会　　場： パリ市立プティ・パレ美術館
主　　催： 国際交流基金
一般社団法人茶道裏千家淡交会
パリ市立プティ・パレ美術館

高校生ニッポン文化大使

「縄文」をテーマに、作文等の審査を経て選抜された12名の高校生が、東京・上野の東京国立博物館等で4日間の研修・発表を行い、「高校生ニッポン文化大使」に任命されました。その中の代表3名がパリに派遣され、「縄文―日本における美の誕生」展を開催中のパリ日本文化会館で、フランスの聴衆を相手に「縄文」の魅力をアピールしました。前日にはパリ郊外の高校を訪問し、普段の学校生活や趣味等について、フランスの高校生と活発な意見交換も行いました。

期　　間： 2018年11月17日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： 文化庁、朝日新聞社
共　　催： 国際交流基金
協　　力： 外務省、東京国立博物館

©MIHO

高校生プレゼンテーション発表会

今年で3回目の開催となる、日本語を学ぶフランスの高校生による「全仏高校生日本語プレゼンテーション発表会」。今年はジャポニスム2018の公式企画として、フランス語を学ぶ日本の高校生も初参加。「日仏交流、この人に注目！―ジャポニスム2018に繋がる人と歴史―」をテーマに、日仏の高校生が自分たちで調べ、考えたことを発表した後、互いのプレゼンテーションへの質問・意見交換を行いました。フランスの中高生が「ジャポニスムと私」をテーマに自由な発想で描いたポスターコンクールも同時開催しました。

期　　間： 2019年2月9日（土）
会　　場： パリ日本文化会館
主　　催： パリ日本文化会館
後　　援： 在フランス大使館
協力支援： パリ日本文化会館支援協会
特別協賛： 全日本空輸株式会社
協　　賛： 日本航空株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、日本政府観光局（JNTO）、NHKコスモメディア

公式企画　在外公館事業・特別企画

在外公館事業

ジャポニスム2018の公式企画の一環として、フランスの在外公館により、
日本文化に関する多様な催しが行われました。

和太鼓を通じた日仏友好関係発信事業
（オーケニクスブルク城での公演）

スポーツ交流／子ども空手ワークショップ

❶ ジャポニスム 2018 広報を兼ねた茶道・日本茶レクチャー

文化ジャーナリストやインフルエンサー等を対象とした、日本茶とマカロンをコラボレーションさせた茶会。
期間：2018年6月25日（月）**会場：**メゾン・ピエール・エルメ・パリ **主催：**在フランス大使館

❷ ジャパン・エキスポにおける日本文化紹介事業

ジャパン・エキスポの来場者を対象に、ジャポニスム2018に関するプレゼンテーションを実施。
期間：2018年7月5日（木）**会場：**ジャパン・エキスポ **主催：**在フランス大使館

❸ ヌヴィル・シュル・ソーヌ市日本祭

伝統楽器のコンサートや着物・いけばなの展示、禅・茶道・盆栽に関する講演会のほか、和食やマンガのワークショップ等を実施。
期間：2018年9月14日（金）～16日（日）**会場：**エスパス・ジャン・ヴィラーほか **主催：**在リヨン領事事務所 **共催：**ヌヴィル・シュル・ソーヌ市

❹ 和太鼓を通じた日仏友好関係発信事業

日仏友好160年を記念した、和楽器演奏集団「独樂」による和太鼓公演。
期間：2018年10月10日（水）～12日（金）**会場：**オーケニクスブルク城（オルシュヴィラー）、ヴェッサーラン公園（ユスラン=ヴェッサーラン）、ルトゥルフ劇場（リクスハイム）、フランシュ・コンテ現代美術館（ブザンソン）**主催：**在ストラスブール総領事館 **共催：**アルザス欧州日本学研究所

❺ 着物着付けレクチャー・デモンストレーション

着物の製法・素材、着付け、及び着物の現代的なアレンジに関するレクチャー・デモンストレーション。
期間：2018年11月10日（土）～12日（月）**会場：**ストラスブール・サロン・レゾナンス、コルマール国際観光博
ストラスブール総領事公邸 **主催：**在ストラスブール総領事館

❻ 繭が紡いだ日仏交流

日仏交流の歴史と関係の深い絹・繭に関する講演会、及び酒井登巳子による繭アートのワークショップ。
期間：2018年11月17日（土）、19日（月）**会場：**ソワリボネ製糸工場（ジュジュリュー）、サンテティエンヌ市芸術産業博物館 **主催：**在リヨン領事事務所

❼ 講演会「村上春樹の世界」

村上春樹作品をフランス語に翻訳したコリーヌ・アトランによる講演。
期間：2018年12月3日（月）**会場：**パリ日本文化会館 **主催：**在フランス大使館 **共催：**日仏記者協会

❽ ジャポニスム 2018 記念座談会「フランスにおけるマンガの30年」

フランスにおけるマンガの受容と普及やマンガの現在と未来をテーマとする座談会。
期間：2018年12月11日（火）**会場：**パリ日本文化会館 **主催：**在フランス大使館

❾ 講演会「香」

調香師ドラ・バグリッシュ及びShiseido Parfum社のギヨーム・ジェルソーによる講演会。
期間：2018年12月12日（水）**会場：**パリ日本文化会館 **主催：**在フランス大使館 **共催：**日仏記者協会

❿ スポーツ交流／子ども空手ワークショップ

日仏の空手協会主催による、子どもを対象とした空手のワークショップ。
期間：2019年1月30日（水）**会場：**アンスティテュ・デュ・柔道 **主催：**日本空手協会、フランス空手協会 **協力：**在フランス大使館

⓫ 日本食レクチャー・デモンストレーション

「和牛」をテーマとした日本食文化のレクチャー・デモンストレーション。
期間：2019年2月4日（月）**会場：**レストラン協会運営料理家育成校、ストラスブール総領事公邸 **主催：**在ストラスブール総領事館

⓬ 日本映画に関する講演会

映画監督の広瀬奈々子による日本映画に関する講演会、及び同監督の作品『夜明け』の上映会。
期間：2019年2月8日（金）**会場：**ヴズール国際アジア映画祭 **主催：**在ストラスブール総領事館 **共催：**ヴズール国際アジア映画祭

⓭ ジャポニスム 2018 記念講演会「日仏文化関係の歴史」

日本研究者アラン・ブリオによる、日仏文化関係の歴史に関する講演。
期間：2019年2月21日（木）**会場：**パリ日本文化会館 **主催：**在フランス大使館

⓮ 日本の飴細工の伝統・職人文化

飴細工師の手塚新理による講演と飴細工の実演、及び在フランス大使館による日本文化に関する講演。
期間：2019年2月28日（木）**会場：**パリ日本文化会館 **主催：**在フランス大使館

特別企画

姉妹都市である東京都とパリ市及びアンスティチュ・フランセが中心となって実施した文化交流事業「パリ東京文化タンデム2018」のうち以下4企画が、ジャポニスム2018の特別企画として位置づけられました。

撮影：市岡祐次郎（株式会社TAM）　写真提供：東京都

FUROSHIKI PARIS

世界初のエコバッグとされる風呂敷をテーマに、風呂敷包みをイメージしたバビリオンをパリ市庁舎前に設置し、風呂敷の展示等を行いました。また、市庁舎の石像にも風呂敷インスタレーションを行ったほか、パリ日本文化会館においても風呂敷のワークショップや展示を実施しました。

期　　間：①2018年11月1日（木）～6日（火）
②2018年11月2日（金）、10日（土）、15日（木）
17日（土）、24日（土）、30日（金）
会　　場：①パリ市庁舎前広場　②パリ日本文化会館
主　　催：東京都、公益財団法人 東京都歴史文化財団
風呂敷プロジェクト実行委員会
共　　催：国際交流基金、一般財団法人自治体国際化協会
（CLAIR）

写真提供：東京都

アール・ブリュット ジャポネⅡ

「アール・ブリュット ジャポネ」（2010-2011）に続く第2弾として、現代アートの領域で独自の存在感をもつ日本のアール・ブリュットを、日本の作家52組による約640点の作品を通して紹介しました。

期　　間：2018年9月8日（土）～2019年3月10日（日）
会　　場：アル・サン・ピエール美術館
主　　催：東京都、アル・サン・ピエール美術館
社会福祉法人愛成会

©Naoki Honjo　写真提供：東京都

©Yukinori Tokoro　写真提供：東京都

東京画 SHIBUYA - TOKYO CURIOSITY

東京・渋谷の個性に焦点を当てた本展では、アートプロジェクト「東京画」の写真家100人が捉えた、渋谷の貴重な光景、驚くような場面、わくわくする非日常そして穏やかな日常のシーンの写真を展示しました。

期　　間：2018年10月19日（金）～11月17日（土）
会　　場：パリ4区庁舎
主　　催：パリ市

写真提供：東京都

からくり人形の動態展示

本展示では、19世紀前半に「からくり儀右衛門」こと田中久重が日本各地で行った「からくり人形」の見世物興行を再現し、「からくり人形」が制作された江戸時代から現代まで脈々と息づく日本のものづくりの原点を紹介しました。

期　　間：2018年11月2日（金）～3日（土）
会　　場：パリ日本文化会館
主　　催：公益財団法人 東京都歴史文化財団
東京都江戸東京博物館、東京都

参 加 企 画

凡例：期会期 主主催者 事事業タイプ 場会場 開開催都市

ジャポニスム事務局が実施する「ジャポニスム2018 公式企画」に加え、より多くの方々にジャポニスム2018に参加していただくため、「ジャポニスム2018 参加企画」の枠組みを用意しました。「参加企画」に認定された催しは204件に達し、パリを含むフランスの60以上もの市町村において、バラエティに富んだ日本文化が紹介されました。個人・団体、官・民問わず多くの方々にご賛同いただいた「参加企画」の総入場者は約130万人に達しました。

日本庭園写真展
期2018年4月1日～11月15日 主モーレヴリエ東洋公園 事展示
場モーレヴリエ東洋公園 開モーレヴリエ

清水伸 絵画展
期2018年4月5日～11月18日 主ショルバッハ文化センター 事展示
場ショルバッハ文化センター 開ショルバッハ

モーレヴリエ東洋公園での日本文化紹介
期2018年5月1日～11月15日 主モーレヴリエ東洋公園 事展示、その他
場モーレヴリエ東洋公園 開モーレヴリエ

「新宮 晋―コスモス」展
期2018年5月14日～9月22日
主GALLERY JEANNE BUCHER JAEGER 事展示
場GALLERY JEANNE BUCHER JAEGER 開パリ

「KODOMO NO KUNI ―日本での子ども時代とその記憶―」展
期2018年5月16日～7月8日
主La Maréchalerie - centre d'art contemporain 事展示
場La Maréchalerie - centre d'art contemporain 開ヴェルサイユ

「La Petite Escalère―日本の痕跡」展
期2018年6月2日～10月7日 主La Petite Escalère友の会 事展示
場La Petite Escalère 開パリ

福田毅展
期2018年6月2日～11月4日 主トルヴィル＝シュル＝メール市 事展示、講演会
場Galerie du Musée 開トルヴィル＝シュル＝メール

写真展～明治期のフォトアルバムから読み解く～「クレマンソーと日本人」
期2018年6月5日～7月31日 主クレマンソー記念財団 事展示
場クレマンソー美術館 開パリ

Ryo TakahashiとMarie-France Jeanの展示会
期2018年6月7日～7月7日 主Galerie Arnaud Lefebvre 事展示
場Galerie Arnaud Lefebvre 開パリ

NATSU MATSURI 2018
期2018年6月14日～7月5日 主Centre André-Malraux 事展示
場Centre André-Malraux 開ルーアン

日本文化作品展示
期2018年6月23日～10月28日 主カンヌ市 事展示 場Musée de la Castre 開カンヌ

第5回セボン・ル・ジャポン（日本の食文化と観光のイベント）
期2018年6月29日～7月1日 主ユーロジャパンクロッシング 事展示
場La Halle des Blancs Manteaux 開パリ

金子菜生作品展：La vague et l'âme
期2018年6月30日～7月29日 主La Mirondela dels arts 事展示
場Hôtel des barons de Lacoste 開ベズナ

動くストリートアート
期2018年7月1日 主Mo2 事その他 場パリ1区内スペース 開パリ

禅のこころ・魂
期2018年7月1日～14日 主熊野晴子 事展示、レクデモ
場ギャラリー プラネット・ルージュ 開パリ

ピエール・スーラージュ 大相撲シラク杯特別展示
期2018年7月3日～9月2日 主ケ・ブランリー美術館 事展示
場ケ・ブランリー美術館 開パリ

九州合同プロモーション in フランス
期2018年7月5日～8日 主九州地域戦略会議 事展示
場パリ・ノール・ヴィルパント展示会会場 開ヴィルパント

日仏友好着物
期2018年7月5日～2019年1月31日 主NPO法人 パリ小町 事展示
場パリ・ノール・ヴィルパント展示会会場 開ヴィルパント

能と舞踏の先に～伝統と現代の対話
期2018年7月6日～7日 主HUMAN DANCE 事公演・コンサート
場Square Agricol Perdiguier 開アヴィニョン

「妖怪の島、日本の精神」展
期2018年7月6日～2019年8月25日 主コンフリュアンス博物館 事展示
場Musée des Confluences 開リヨン

「具体―空間と時間」展
期2018年7月6日～11月4日 主スーラージュ美術館 事展示
場スーラージュ美術館 開ロデーズ

公演「Ailleurs et Maintenant」（岡田利規作）
期2018年7月6日～2019年3月31日 主Compagnie des Lucioles 事公演・コンサート
場11avignon 開アヴィニョン

ボジョレーにおける日本のインプレッション
期2018年7月7日 主Espace Pierres Folles 事その他
場Espace Pierres Folles 開サン＝ジャン＝デ＝ヴィーニュ

映画『アナタハン』上映
期2018年7月10日～12月19日 主CAPRICCI FILMS 事映画・ビデオ上映会
場Mucem 開マルセイユ

Beyond/Au-delà
期2018年7月12日～8月30日 主NPO法人エナジーフィールド 事展示
場サンメリー教会 開パリ

ネオ・ジャポニスム～共鳴2018～
期2018年7月12日～9月29日 主アート・キュレーター・ジャパン 事展示
場Vaison-la-Romaine LA FERME DES ARTS 開ヴェゾン＝ラ＝ロメーヌ

エアリーモモコ　ソロコンサート
期2018年7月14日 主ONDISSEY SARL 事公演・コンサート 場Au chat noir 開パリ

第10回夏のシャンパーニュ祭り
期2018年7月16日 主山本一人 事その他 場トー宮殿 開ランス

日仏友好160周年記念 鼓童 × 太陽劇団交流企画 太鼓芸能集団鼓童　フランス公演
期2018年7月16日～22日 主公益財団法人 鼓童文化財団 事公演・コンサート 場太陽劇団野外公演会場 開パリ

活動50周年「日本の美」パリファッションショー「時の流れを越えて、感動をあなたに！」
期2018年7月16日 主藤本ハルミ 事展示
場ホテル サンジェームズアルバニー内　サントノレの間 開パリ

日本の美―祝い唄と詩歌による創作書道展―
期2018年7月16日～18日 主書道白豊会 代表 喜田祥園 事展示
場兵庫県パリ事務所「ひょうご交流センター」 開パリ

全国いけばな展
期2018年7月20日～22日 主モーレヴリエ東洋公園 事展示、レクデモ
場モーレヴリエ東洋公園 開モーレヴリエ

Le goût du Japon
期2018年7月20日～2019年3月31日
主日本航空、ヤマトホールディングス 事その他 場Workshop ISSE bis 開パリ

Yves Dimier書道展
期2018年7月28日～9月30日
主ジョルジュ・サンド美術館 / ラ・シャトル市 事展示 場Hôtel de Villaines 開ラ・シャトル

第17回朗読・演劇を楽しむ夏の夕べ「J'émerveille」
期2018年8月3日 主COMPAGNIE P.M.V.V. LE GRAIN DE SABLE
事講演会、その他 場Musée Villa Montebello 開トルヴィル＝シュル＝メール

沖縄伝統芸能・物産・観光連携事業 in パリ
期2018年8月3日～4日 主沖縄県 事公演・コンサート、その他 場ユニクロ・マレ店 開パリ

現代陶芸展「Un Panorama japonais très actuel」
期2018年8月12日～10月4日 主Galerie du Don
事展示 場Galerie du Don 開ル・フェル

世界平和の祈り in パリ 2018.8.14 / 日本人書家による席上揮毫
期2018年8月14日
主和プロジェクトTAISHI事務局 事展示 場パリ国際大学都市-日本館 開パリ

室内音楽祭Festival Hirondelle
期2018年8月15日～19日 主Association Amirondelle
事公演・コンサート、映画・ビデオ上映会、その他 場サント・マリー教会 開サント・マリー

備前窯業プロジェクト　2018
期①2018年8月16日～9月2日②2018年9月5日～9日
主早崎佳代子 事ワークショップ、講演会、展示
場①L'Ecomusée Tuilerie de Pouligny②Galerie Hayasaki Paris
開①シェエエ②パリ

KOKORO　JAPON展
期①2018年8月18日～29日②2018年9月17日～22日
主一般社団法人 アートシップインターナショナル 事展示
場①Vieille Halle de Bracieux②マドレーヌ教会 開①ブラシュー②パリ

現代美術作家ヤノベケンジ×和紙作家堀木エリ子「SHIP'S CAT」展
期2018年8月22日～28日
主学校法人瓜生山学園 京都造形芸術大学、株式会社レーサム 事展示 場カルーゼル・デュ・ルーブル 開パリ

日仏学生フォーラムのシンポジウムとジャパンデイ
期2018年8月30日 主Forum Franco-Japonais des Etudiants (FFJE)
事レクデモ、講演会、その他 場Labo Oikos 開パリ

Japonismes 2018「L'Art de vivre régional」（地方のアール・ドゥ・ヴィーヴル）
期2018年9月1日～2019年3月31日 主SAS ENIS 事展示、レクデモ
場DISCOVER JAPAN 開パリ

三人の侍（アレクサンドル・デュマの『三銃士』に基づく）
期2018年9月3日～6日 主Compagnie Le Mystère Bouffe
事公演・コンサート 場モンマルトル円形劇場（Arènes de Montmartre） 開パリ

展覧会「夢と現実の間に佇む日本の女性たち」
期2018年9月3日～15日 主Corinne Bandeira de Mello
事展示 場Maison des Relations Internationales de Montpellier 開モンペリエ

名和晃平個展 PixCell Deer
期2018年9月4日～12月2日
主狩猟自然博物館 / ヴィラ九条山 事展示、映画・ビデオ上映会 場狩猟自然博物館 開パリ

鉱物博物館内特別展示 RESPIRATION MINERALE-Les gestes vécus
期2018年9月6日～10月27日 主鉱物博物館（MINES ParisTech） 事展示
場鉱物博物館 開パリ

第6回全国盆栽見本市
期2018年9月8日～9日 主モーレヴリエ東洋公園 事展示、レクデモ、その他
場モーレヴリエ東洋公園 開モーレヴリエ

GALERIE 48
期2018年9月8日～2019年3月2日 主GALERIE 48 事展示 場GALERIE 48 開リヨン

パリ水族館におけるJaponisme 2018
期2018年9月12日～12月31日 主パリ水族館 事展示 場パリ水族館 開パリ

「第6回和食ワールドチャレンジ」パリ予選大会
期2018年9月13日 主農林水産省 事講演会、その他 場ル・コルドン・ブルー パリ校 開パリ

書道家万美展「Calligra2ity」
期2018年9月13日～22日 主Galerie Lehalle 事展示 場Galerie Lehalle 開パリ

エッフェル塔茶会
期2018年9月14日 主日仏茶道交流会 事展示、レクデモ
場エッフェル塔展望台（58m地点） 開パリ

「フジタ、本の芸術家」展「フジタ、描線のエレガンス」展
期①2018年9月14日～2019年1月12日②2018年11月10日～2019年2月11日
主Musées de la Ville de Reims 事展示
場①カーネギー図書館②ランス美術館 開ランス

Musubi
期2018年9月15日～11月10日 主Galerie Da-End 事展示 場Galerie Da-End 開パリ

ミュールーズ・ラブ・ジャパン
期2018年9月15日～11月15日 主ミュルーズ市
事展示、公演・コンサート、講演会、その他 場Parc des Expositions 開ミュルーズ

日仏アートハーモニーHIBIKI展
期2018年9月16日 主M.Y.Y.コミュニケーションズ株式会社 事展示
場パヴィヨン・ド・ベルシー 開パリ

日本語講座と日本芸術アトリエ
期2018年9月18日～2019年5月28日
主URUSHI - Association pour la sauvegarde de la laque traditionnelle japonaise 事セミナー・ワークショップ 場パリ国際大学都市-日本館 開パリ

Festival ARETh é 2018
期2018年9月18日～11月30日 主World Art Bridge
事展示、レクデモ、講演会、その他 場パリ7区庁舎 開パリ

展覧会「Nouvelle Ère du Japon Ⅲ」
期2018年9月20日～10月20日 主Galerie Tamenaga France 事展示
場Galerie Tamenaga France 開パリ

「Beyond KIMONO ―はごろも―」パリ・ユネスコ本部公演
期2018年9月21日 主特定非営利活動法人 美・JAPON 事公演・コンサート
場パリユネスコ本部ルーム1 開パリ

日本の伝統を現代アートへ けみ芥見&男塾。和の現代アート&パフォーマンス展　大江戸ルネッサンス
期2018年9月21日 主株式会社GHKクリエーションズ 事展示、公演・コンサート
場Les Rendez-Vous D'Ailleurs 開パリ

第4回 シャ・ペルシェのフードイベント
期2018年9月21日～23日 主Association Gourmande du Chat Perché
事展示 場ドル市内 開ドル

日本食キャラバン
期2018年9月22日～2019年2月17日 主日本貿易振興機構（ジェトロ）パリ事務所
事セミナー・ワークショップ 場アラン・デュカス料理学校 開パリ

宮島展
期2018年9月24日～29日 主廿日市市 事展示 場ブルス広場 開パリ

勅使川原三郎「Idiot」
期2018年9月27日～10月5日 主国立シャイヨー劇場 事公演・コンサート
場国立シャイヨー劇場 開パリ

日本の道―茶道・書道・華道・香道―
期2018年9月28日～10月1日
主Association Art Floral Japonais - Ecole OHARA Lyon 事展示
場Chapelle Saint Joseph 開カリュイール＝エ＝キュイール

凡例：期会期 主主催者 事事業タイプ 場会場 開開催都市

フランス美食の殿堂「レアール・ド・リヨン ポール・ボキューズ」における日本酒プロモーションイベント
期2018年9月28日～29日 主由紀ダルモン市川（おもてなしキュイジーヌ代表）
事その他 場レアール・ド・リヨン ポール・ボキューズ 開リヨン

日本の色に染まる植物園
期2018年9月29日 主トゥール市
事公演・コンサート、セミナー・ワークショップ、講演会、その他 場トゥール植物園 開トゥール

小原流いけばなワークショップ「小さな景観―方寸―」
期2018年9月29日 主いけばなインターナショナル 事セミナー・ワークショップ
場American Church in Paris 開パリ

着物でGO
期2018年9月29日～30日 主VERTCOQUELICOT 事レクデモ
場スタニスラス広場 開ナンシー

名工酒器と日本酒とのコラボレーション及び酒器展示
期2018年9月29日～10月12日 主SAS ENIS 事展示、その他
場Discover Japan 開パリ

特設庭園Japonica
期2018年9月29日～11月11日 主ナンシー市 事その他 場スタニスラス広場 開ナンシー

オアーズにおけるニッポン・アート
期2018年10月2日～14日 主Traces & Cie
事公演・コンサート、映画・ビデオ上映会、セミナー・ワークショップ、その他
場Cité des brossiers 開トラシー＝ル＝モン

高橋幸子作品展「日本の風景美を描く」
期2018年10月5日～11日 主高橋幸子 事展示
場ギャラリーメタノイア 開パリ

「日本での700日」展
期2018年10月5日～13日 主ニコラ・デベトリス 事展示 場Sway Gallery 開パリ

ジャポニスム・レンヌ
期2018年10月5日～20日 主Michel Dupaquier
事展示、公演・コンサート、セミナー・ワークショップ、講演会
場Village des sciences (レンヌ第2大学) 開レンヌ

イシーにおける日本の時間
期2018年10月5日～12月22日 主CLAVIM
事展示、公演・コンサート、映画・ビデオ上映会、セミナー・ワークショップ、講演会、その他
場Espace Andrée Chedid 開イシー＝レ＝ムリノー

「日本の魅力～明治時代への旅、明治時代コレクション～」展
期2018年10月5日～2019年1月13日 主Musées de la Ville de Reims
事展示 場サン・レミ博物館 開ランス

トージア庭園祭
期2018年10月5日～7日 主Association "Les Amis de Tauzia"
事展示、公演・コンサート、レクデモ、セミナー・ワークショップ、講演会、その他
場トージア城 開グラディニャン

新しい波―1900年～1960年代の日本版画
期2018年10月6日～2019年1月6日 主Fondation Custodia 事展示
場Fondation Custodia 開パリ

ル・マンにおける本のサロン「日本へようこそ！」
期2018年10月6日～7日 主Association La 25e Heure du Livre 事その他
場Les Quinconces Jacobin Le Mans公園 開ル・マン

井本整体パリによるセミナー
期2018年10月6日～7日 主Imoto Seitai France 事セミナー・ワークショップ
場Forum 104 開パリ

第5回サロン・デュ・サケ
期2018年10月6日～8日 主Académie du Saké 事その他
場New Cap Event Center 開パリ

～ジャポニスム2018に染まるメゾン・デュ・ヴォヤージュ～ 鈴木秀総　写真展
期2018年10月8日～2019年3月2日 主Les Maisons du Voyage 事展示
場メゾン・デュ・ヴォヤージュ 開パリ

AKI MATSURI JAPON
期2018年10月10日 主寿月堂パリ店 事セミナー・ワークショップ 場寿月堂パリ店 開パリ

書家海老原露巌展とスーツケース茶室禅庵
期2018年10月11日～11月10日 主日動画廊パリ支店 事展示 場日動画廊パリ支店 開パリ

ラ・シテ・デュ・ヴァンにおけるジャポニスム
期2018年10月11日～13日 主La Cité du Vin 事セミナー・ワークショップ、その他
場La Cité du Vin 開ボルドー

日本のコメ・コメ粉にふれる
期①2018年10月11日②2018年10月13日 主日の本穀粉株式会社 事レクデモ
場①フェランディ・フランス料理高等専門学校②Maison Poilâne 開パリ

JAPAN'S SOUL―Team<C.N.U.J.>による書ART展
期2018年10月12日～17日
主「書ART海外発信プロジェクト」実行委員会　代表 秋山由美 事展示
場ギャラリーメタノイア 開パリ

林英哲 × 若冲の翼　プティ・パレ特別公演
期2018年10月13日 主株式会社KAJIMOTO 事公演・コンサート
場パリ市立プティ・パレ美術館 開パリ

俳句の日
期2018年10月13日 主Association Francophone de Haiku
事セミナー・ワークショップ 場Bistrot du Jardin 開パリ

京都市・パリ市友情盟約都市60周年記念講演会
期2018年10月15日 主一般財団法人本願寺文化興隆財団
事講演会 場パリ第4区役所2F慶祝の間 開パリ

こ・と・だ・ま～四人の女流書家が描く四季～
期2018年10月15日～20日 主森岡静江 橋本弓月 中沢妍洋 長沼玲子
事展示、レクデモ、セミナー・ワークショップ
場エスパス ベルタン ポワレ（天理日仏会館）開パリ

井本整体パリによるセミナー及び連続講義「文化と発見」
期2018年10月15日～2019年3月25日 主Imoto Seitai France
事セミナー・ワークショップ 場Forum 104 開パリ

～ジャポニスム2018に染まるメゾン・デュ・ヴォヤージュ～ 講演会「京都、日本の古都の空想と現実」
期2018年10月15日 主Les Maisons du Voyage 事講演会
場メゾン・デュ・ヴォヤージュ 開パリ

パトリック・ジャニン展―MAD IN JAPAN
期2018年10月16日～11月3日 主Sway Gallery 事展示 場Sway Gallery 開パリ

ASIA NOW 2018―ジャパニーズ・プラットフォーム
期2018年10月17日～21日 主ASIANOW 事展示、講演会
場9, avenue Hoche, 75008 Paris 開パリ

「マンガの“ヒーロー／鷺”―日本のデザイン」展
期2018年10月17日～12月31日 主ナント市 事展示、セミナー・ワークショップ、講演会
場Maison de l'Erdre Île de Versailles à Nantes 開ナント

オクヤマの時間～造形美術の展示会～
期2018年10月18日～11月30日 主Galerie Zemma 事展示
場Galerie Zemma 開マルセイユ

「阿波藍」魅力創造発信プロジェクト
期2018年10月18日～21日 主藍魅力創造発信プロジェクト組合化準備組合
事展示、セミナー・ワークショップ 場Japan Blue 開パリ

DISCOVER THE ONE JAPANESE ART 2018 in Paris
期2018年10月19日～23日
主DISCOVER THE ONE JAPANESE ART 実行委員会 事展示
場Galerie JOSEPH Minimes 開パリ

YOSHITAKA Europe Tour 2018 Dance “Japan” in Paris
期2018年10月19日 主Yoshitaka Suzuki 事公演・コンサート
場パリ国際大学都市・日本館 開パリ

ジャポニスムと自由花展
期2018年10月19日～20日 主池坊フランス支部 事展示
場Atelier Ikebana IKENOBO 開パリ

日本茶AWARD2018 in Paris
期①2018年10月19日②2018年10月22日
主特定非営利活動法人日本茶インストラクター協会 事その他
場①11区区役所②ル・コルドンブルーパリ校 開パリ

第26回Paris マンガ&SFイベント
期2018年10月20日～21日 主ABYSSIUM 事その他
場ポルト・ド・ヴェルサイユ見本市会場 開パリ

京都市・パリ市友情盟約都市60周年記念コンサート
期2018年10月20日 主一般財団法人本願寺文化興隆財団 事公演・コンサート
場CRR de Paris（パリ市立地方音楽院）オーディトリウム 開パリ

テルミンふれあいコンサート
期2018年10月20日 主有限会社 浜野クリエイト 事公演・コンサート
場Théâtre Nô 開エクス＝アン＝プロヴァンス

ノスタルジア
期2018年10月21日 主トリオ・ココラヤ 事公演・コンサート
場パリ国際大学都市・ドイッチュ・ド・ラ・ムルト財団館 開パリ

日本の治療：植物と17～20世紀の薬学方
期2018年10月22日～2019年1月9日 主BIU Santé Pole pharmacie-biologie-cosmétologie（BIU Santé薬局・生物学・美容部門）事展示
場パリ・デカルト大学内医学史博物館 開パリ

侍からカワイイまで―日本と西洋の歴史の交差
期2018年10月25日～2019年6月24日 主ドフィノワ美術館 事展示、その他
場ドフィノワ美術館 開グルノーブル

水口麟太郎展 ―Colonie de lumière―
期2018年10月29日～11月10日 主水口麟太郎 事展示
場Galerie Monod Paris 開パリ

EKIBEN　JAPON　～Bento de la Gare～
期2018年10月30日～11月30日 主株式会社日本レストランエンタプライズ 事その他
場パリ・リヨン駅（HALL2内）開パリ

サロン デュ ショコラ パリ 2018
期2018年10月31日～11月4日 主株式会社 明治 事展示、レクデモ
場PORTE DE VERSAILLES PAVILLON4 開パリ

―OASIS特別展―　日本美術・和魂洋才
期2018年11月1日～12月5日 主オアシス実行委員会 事展示
場リンダ・ファレル・ギャラリー 開パリ

ゴネスの日本月間
期2018年11月1日～30日 主ゴネス市立クーランジュ図書館
事展示、公演・コンサート 場ゴネス図書館 開ゴネス

“ふじのくに”魅力発信事業 ～Mt. FUJI×TOKAIDO～
期2018年11月1日～30日 主静岡県 事展示、レクデモ、セミナー・ワークショップ
場ラ・ヴィレット 開パリ

SAMURAI JAPON 2018 ～第13回日本の心・日本の文化フェスティバル～
期①2018年11月2日～3日②2018年11月4日
主非営利活動法人 SAMURAIJAPON
事展示、公演・コンサート、映画・ビデオ上映会、レクデモ、セミナー・ワークショップ、講演会
場①バレデコングレ文化会館・見本市会場（ル・マン）②バビヨン・ド・ベルシー
開①ル・マン②パリ

藤雅会40周年記念パリ公演2018
期①2018年11月2日②2018年11月3日～4日 主能楽宝生流 藤雅会
事公演・コンサート 場①パリ市立劇場MPAA サン・ジェルマン②マンダバ 開パリ

和蝋燭と萩焼の茶道
期2018年11月3日 主日仏茶道交流会 事展示、レクデモ、セミナー・ワークショップ
場Maison de The Neo-T 開パリ

ジャパン・カルチャー 文化の日2018
期2018年11月3日～4日 主Association EMAHO
事展示、公演・コンサート、レクデモ、セミナー・ワークショップ
場Centre culturel Les Clévos-Cité des savoirs 開エトワール＝シュル＝ローヌ

子どものためのジャポニスム2018
期2018年11月3日～2019年2月24日
主SHIPS Europe 事その他 場パリ日本文化会館 開パリ

萩焼と茶の湯の世界
期2018年11月6日～7日 主日仏茶道交流会 事展示、レクデモ、講演会
場グルノーブルアルプ大学 開サン＝マルタン＝デール

大原保人コンサート・日本の抒情
期2018年11月7日 主有限会社オフィスエイティワン 事公演・コンサート
場パリ日本文化会館 開パリ

能と狂言のセミナー・ワークショップ
期2018年11月7日
主SHIOSAI, Association Franco Japonaise de La Rochelle
事セミナー・ワークショップ
場Maison de l'étudiant de l'Université de La Rochelle 開ラ・ロシェル

第4回 A Propos du Japon
期2018年11月8日～18日 主Association A Propos du Japon
事展示、公演・コンサート、映画・ビデオ上映会、レクデモ、セミナー・ワークショップ、講演会、その他
場カストリー城 開カストリー

萩焼と茶道
期2018年11月8日～9日 主日仏茶道交流会 事展示、レクデモ、講演
場兵庫県パリ事務所 開パリ

Japonographie
期2018年11月8日～11日 主FOTOFEVER 事展示、講演会、その他
場カルーゼル・デュ・ルーブル 開パリ

映画『A PERDITA D'OCCHIO』上映及び討論会
期2018年11月10日～17日 主ReEXISTER 事映画・ビデオ上映会
場Cinéma Saint André des Arts 開パリ

日仏の人間国宝を囲んでのシンポジウム
期①2018年11月12日②2018年11月16日 主TAKUMI - Art du Japon 事講演会
場①ストラスブール市展覧会場②パリ装飾美術館 開①ストラスブール②パリ

「パリと浮世絵―19世紀の日仏の対話」展
期2018年11月14日～24日 主Sway Gallery 事展示 場Sway Gallery 開パリ

「日本文化の多様性を讃える」
期2018年11月14日～12月11日 主トゥールーズ図書館
事公演・コンサート、セミナー・ワークショップ、講演会
場Médiathèque des Izards 開トゥールーズ

Pierre CHRISTIN「日本との50年」
期2018年11月15日～12月22日 主日動画廊パリ支店 事展示 場日動画廊パリ支店 開パリ

吉川民仁展
期2018年11月15日～12月6日 主Galerie Tamenaga France 事展示
場Galerie Tamenaga France 開パリ

黒田泰三展：シンプルなフォルム
期2018年11月15日～12月15日 主Tristan Hoare Gallery 事展示
場La Frontiera 開パリ

A MUSEUM HOTEL of JAPAN BEAUTY Hotel Gajoen Tokyo
期2018年11月15日 主ホテル雅叙園東京 事展示、映画・ビデオ上映会、レクデモ
場Secret Gallery 開パリ

富士山を世界に展
期2018年11月16日～22日
主Art Project International G2／GINZA GalleryG2 事展示
場ギャラリーメタノイア 開パリ

リヨンで日本体験
期2018年11月16日～17日 主リヨン日本人会
事公演・コンサート、セミナー・ワークショップ 場ユニクロ・リヨン店 開リヨン

2018 パスカルズ ビッグ・ピンク・ツアー in ヨーロッパ
期2018年11月17・18・20・22日 主永畑雅人（ステージネーム：ロケット・マツ）
事公演・コンサート 場①Festival les Z'Ecletiques②Centre culturel Jean Gagnant③Espace Paul B④Théâtre de Privas
開①シュミエ＝アン＝アンジュー②リモージュ③マシー④プリヴァ

～ジャポニスム2018に染まるメゾン・デュ・ヴォヤージュ～ 講演会「日本の皇室：千年続く王朝に迫る」
期2018年11月19日 主Les Maisons du Voyage 事講演会
場メゾン・デュ・ヴォヤージュ 開パリ

SHISEIDO JAPANESE BEAUTY STATION
期2018年11月22日～12月2日 主株式会社 資生堂 事展示、セミナー・ワークショップ
場パリ3区内（18 rue de turenne 75003 Paris）開パリ

能と舞踏の先に～伝統と現代の対話（追加公演）
期2018年11月23日～24日 主HUMAN DANCE 事公演・コンサート、レクデモ
場L' Abribus 開クリエル＝シュル＝メール

『Sur la piste des senteurs - Japon』 完成披露試写会&日本物産品PRイベント
期2018年11月23日 主日本テレビ放送網株式会社 事その他 場Hôtel Raphael 開パリ

桜流鏑馬日仏文化交流事業
期2018年11月24日～29日 主十和田乗馬倶楽部
事公演・コンサート、セミナー・ワークショップ、講演会、その他（馬事文化交流会）
場パリ・ノール・ヴィルパント展示会会場 開ヴィルパント

陶芸展示会「...comme le feu fixe l'écriture」
期①2018年11月24日～25日②2018年12月1日～2日
主Atelier Le Poisson terre 事展示、レクデモ、講演会
場①Atelier Le Poisson terre②日本食レストラン「むびょうたん」 開リヨン

堀内誠一の絵本・紙芝居作品紹介
期2018年11月25日～12月16日 主Petite Bibliothèque Ronde
事セミナー・ワークショップ 場Petite Bibliothèque Ronde 開クラマール

Anim'Est
期2018年11月25日～26日 主Association Anim'Est
事公演・コンサート、その他 場Centre Prouvé Nancy 開ナンシー

凡例：期会期 主主催者 事事業タイプ 場会場 開開催都市

～ジャポニスム2018に染まるメゾン・デュ・ヴォヤージュ～ 講演会「日本と日本人は自然と特別な関係があるか」
期2018年11月26日 主Les Maisons du Voyage 事講演会
場メゾン・デュ・ヴォヤージュ 開パリ

「横山大観の真実」講演会
期2018年11月26日 主地域共働近代日本文化国際発信実行委員会 事講演会
場Hôtel Napoléon Paris 開パリ

三人の侍（アレクサンドル・デュマの『三銃士』に基づく）（追加公演）
期2018年11月27日～2019年1月25日 主Compagnie Le Mystère Bouffe
事公演・コンサート 場①Espace Icare②Centre Ken Saro-Wiwa
開①イシー＝レ＝ムリノー②パリ

日本竹細工芸術展「Fendre l'air」
期2018年11月27日～2019年4月7日 主ケ・ブランリー美術館 事展示
場ケ・ブランリー美術館 開パリ

ジャポニスム2018会議
期2018年11月27日
主SHIOSAI, Association Franco Japonaise de La Rochelle 事講演会
場Amphithéâtre de FLASH de l'Université de La Rochelle 開ラ・ロシェル

～いのちを巡る赤い旅～ 日 × 仏のアーティストによるダンス、音楽、絵画、光のコラボレーション
期①2018年11月30日②2018年12月2日③2018年12月8日
主Compagnie Insolit'a Danse 事公演・コンサート
場①Auberge de Jeunesse de Lille②Jardin Ecologique de Lille③マンダバ
開①②リール③パリ

BEFORE Japon
期2018年11月30日 主ケ・ブランリー美術館
事展示、公演・コンサート、セミナー・ワークショップ、その他 場ケ・ブランリー美術館 開パリ

パリ日本食スタンプラリー
期2018年12月3日～2019年1月12日 主寿月堂パリ店 事その他 場寿月堂パリ店 開パリ

Taste of JAPAN Forum in Paris ～GIの魅力を語り味わい尽くす1日～
期2018年12月3日 主農林水産省 国税庁 事セミナー・ワークショップ
場Le Purgatoire-54 Paradis 開パリ

「プラネタムールの調和～その抱擁の海と永遠の空～」展
期2018年12月4日～16日 主アール・プラネタムール 事展示
場ギャラリード・ラングル 開パリ

松井宏之 備前焼陶展
期2018年12月4日～15日 主松井宏之 事展示
場エスパス ベルタン ポワレ（天理日仏会館）開パリ

OTAKU オービュッソン
期2018年12月5日～12日 主Le Cinéma Le Colbert
事展示、映画・ビデオ上映会、レクデモ、講演会 場Cinéma Le Colbert 開オービュッソン

ハラキリ、なぜ蝶々婦人なのか?―フリッツ・ラングの映画に基づくシネマ・コンサート
期2018年12月6日～7日 主Association BARBARIN & FOURCHU
事公演・コンサート、その他 場La Salle Noire 開グルノーブル

沖縄伝統工芸文化展
期2018年12月6日～9日 主沖縄欧州文化連合会 事展示、その他
場カルーゼル・デュ・ルーブル 開パリ

～ジャポニスム2018に染まるメゾン・デュ・ヴォヤージュ～ 旅行情報「日本、見逃せないクラシックで偉大な景色」
期2018年12月10日 主Les Maisons du Voyage 事その他
場メゾン・デュ・ヴォヤージュ 開パリ

サロン・デ・ボザール2018
期2018年12月13日～16日 主Société Nationale des Beaux Arts 事展示
場カルーゼル・デュ・ルーブル 開パリ

RESONANCES CROISEES　響きの交差
期2018年12月14日～2019年1月19日 主HUSSON EMIKO
事展示、公演・コンサート、レクデモ 場GALERIE IMPRESSIONS 開パリ

Instant' Japan
期2018年12月15日～16日 主Instant'Culture
事展示、セミナー・ワークショップ、その他 場Galerie Joseph 開パリ

和凧 遊戯と美術とのはざまで
期2018年12月20日～21日 主Cecile LALY
事講演会 場Institut national d'histoire de l'art (INHA) 開パリ

ジャポニスム：伝統と伝達
期2019年1月5日～3月2日 主シャモニーモンブラン図書館 事展示、レクデモ、講演会
場シャモニーモンブラン図書館 開シャモニー＝モン＝ブラン

内山アキラ作品展　白鳥賛歌・命の輝き
期2019年1月10日～24日 主内山晟 事展示 場Galerie Thuillier 開パリ

大相撲錦絵展
期2019年1月10日～23日 主株式会社徳間書店 事展示、その他
場ユニクロ・マレ店 開パリ

第4回 エコール・ポリテクニック―日本の写真展「あなたが見た日本、あなたが思い描く日本」
期2019年1月10日～2月28日 主前原早苗 事展示
場Bibliothèque Centrale École polytechnique 開パレゾー

PEAURIGAMI®
期2019年1月15日～2月2日 主DECHELETTE CORINNE 事展示、講演会
場LE CINQ 開ラバスタン

在仏20周年記念演奏会「真島敦子 ソプラノ リサイタル」フランス歌曲、日本歌曲で綴るパリ郊外の生活
期2019年1月18日 主Association Compagnie Princesse Lierre
事公演・コンサート 場パリ国際大学都市・日本館 開パリ

DASHI と UMAMI
期2019年1月18日～19日 主北海道放送株式会社 事その他 場Issé et cie 開パリ

彫刻家Antoine Bourdelleのレリーフに基づくダンスパフォーマンス
期2019年1月19日 主HUMAN DANCE 事公演・コンサート
場アントワーヌ・ブールデル美術館 開パリ

KINOTAYO現代日本映画祭でのTSURUKAMIによるバレエ公演「ダンスとマリオネット」
期①2019年1月20日②2019年2月16日
主Association d'amitié Franco-Japonaise LES AMIS DU JAPON
事公演・コンサート
場①Centre socio-culturel LA LOUVIERE de Marly②Nouvel Espace Culturel Marly 開マルリー

パリ・オートクチュールブランド「on aura tout vu」創立20周年記念 × 丹後ちりめんコラボ事業
期2019年1月21日 主On Aura tout Vu 有限会社 事その他
場パリ第4区役所 2F慶祝の間 開パリ

Yumi Katsura Paris 2019 コレクション ジャポニスム2019
期2019年1月21日 主株式会社 ユミカツラインターナショナル 事その他
場ウェスティン パリ　The Westin Paris - Vendome 開パリ

Formes Limites
期2019年1月25日～2月24日 主エコール・デ・ボザール（パリ国立高等美術学校）
事展示 場Chapelle des Petits-Augustins（エコール・デ・ボザール内）開パリ

1500年の継承を見る雅楽の楽器と装束
期①2019年1月25日②2019年1月26日 主公益社団法人北之台雅楽アンサンブル
事公演・コンサート 場①パリ国際大学都市・日本館②リュエイユ・マルメゾン・アテネ劇場
開①パリ②リュエイユ＝マルメゾン

日本文化の精神、美、伝統
期2019年1月25日 主公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団 事講演会
場Hôtel de l'industrie 開パリ

日本の音に関する講演会・シンポジウム
期2019年1月25日 主フランス国立図書館ロワール地域圏言語学研究所 事講演会
場フランス国立図書館フランソワ・ミッテラン館内 小ホール 開パリ

展覧会「KODOMO NO KUNI – REPLAY」
期2019年1月26日～3月24日 主Fonds regional d'art contemporain
事展示 場FRAC Grand Large 開ダンケルク

映画『A PERDITA D'OCCHIO』上映及び討論会（追加開催）
期2019年1月27日 主ReEXISTER 事映画・ビデオ上映会
場Halle Saint-Pierre 開パリ

フルートカルテットSYLPHIDEによる室内楽演奏会
期2019年1月27日 主フルートカルテットSYLPHIDE 事公演・コンサート
場AAA言語学院 開パリ

わび～前衛の美学～
期2019年1月31日～2月23日 主株式会社クレー・インク 事展示、レクデモ
場Pierre-Yves Caer Gallery 開パリ

日本のちょうちん展「As movable as butterflies」
期2019年1月31日～5月19日 主装飾芸術・デザイン美術館
事展示、映画・ビデオ上映会 場装飾芸術・デザイン美術館 開ボルドー

モダンアートエナジー パリ展
期2019年2月1日～7日 主株式会社オブリークデザインアソシエイト 事展示
場ギャラリーメタノイア 開パリ

第6回国際合気道講習大会 in NICE
期2019年2月1日～3日 主Aikido Club du Baou 事セミナー・ワークショップ
場Salle Saint Barthélémy (Malatesta) 開ニース

講演会「ジャポニスムと写真」
期2019年2月1日～28日 主République & Meiji協会 事講演会
場Caserne Gallieni 開ベルビニャン

グレー村―21世紀の日本人画家たち―黒田清輝の足跡を訪ねて
期2019年2月2日～3月3日 主COMMUNE DE GREZ-SUR-LOING 事展示
場le Prieuré（村役場内イベントスペース）開グレ＝シュル＝ロワン

田原尚子 鉛筆画の世界
期2019年2月4日～11日 主柴田稚子 事展示
場GALERIE BERTHET-AITTOUARES 開パリ

妖怪、マンガ、村上隆―3歳から100歳までのための妖怪展
期2019年2月7日～9月22日 主Musée en Herbe 事展示
場Musée en Herbe 開パリ

第32回パリ国際サロン
期2019年2月7日～10日 主欧州美術クラブ 事展示
場①エスパス・コミンヌ ②ギャラリー・デュ・マレ 開パリ

ボルテ・ル・キモノ
期2019年2月9日～11日 主岡田 さお理 事セミナー・ワークショップ
場ANNE BECKER Paris 開パリ

Salon Maison d'Exceptions
期2019年2月12日～14日 主ヴィラ九条山 事展示
場パリ・ノール・ヴィルパント展示会会場 開ヴィルパント

第27回Paris マンガ&SFイベント
期2019年2月16日～17日 主ABYSSIUM 事その他
場ポルト・ド・ヴェルサイユ見本市会場 開パリ

俳画展示会
期2019年2月18日～28日 主BOOKLOAN EUROPE SARL 事展示
場パリ・ジュンク堂書店 開パリ

上級日本茶セミナー<シェフ・料飲プロフェッショナル向け>
期2019年2月19日 主日本茶輸出促進協議会 事セミナー・ワークショップ
場①Restaurant DOMINIQUE BOUCHET②WA Salon 開パリ

JAPANESE TIPS
期2019年2月20日～3月2日 主SYLVIE CHEVALLIER（oriented 代表）事展示
場Espace Japon 開パリ

落語～日本の滑稽な演芸～
期2019年2月21日 主LES TANUKI A L'OUEST 事公演・コンサート
場Ancienne église 開メゾン＝ラフィット

福島発障がい者協働プロジェクトによるものづくりとフランスの子どもたちとの新たな協働のかたち
期2019年2月21日～3月28日 主特定非営利活動法人（NPO）しんせい 事展示
場Maison WA 開パリ

Japan Tours Festival 2019
期2019年2月22日～24日 主Tours événements 事その他
場Parc Expo de Tours 開トゥール

地歌舞・地歌公演～日仏の共演～
期2019年2月28日～3月1日 主古澤裕子 事公演・コンサート
場エスパス ベルタン ポワレ（天理日仏会館）開パリ

第4章

反響・成果

ジャポニスム2018の成果を
データやSNSの反響、シンポジウムの内容等をもとに
多角的に検証します

数字で見るジャポニスム 2018…100
ジャポニスム 2018 の意義・成果…102
省庁連携・地方連携……104
現代演劇シリーズ　シンポジウム…106
関係者の声……108
高校生の声……110
来場者の声……112

数字で見るジャポニスム2018

来場者数

公式企画及び特別企画ではのべ223万3,237人、参加企画ではのべ129万9,741人*1もの方が来場しました。パリ市の人口約220万人を大きく上回る350万人超が、ジャポニスム2018を通して日本文化に触れたことになります。

353万2,978人

入場者数　第4位

展覧会事業の来場数は、公式企画の17件に限っても合計110万人を突破しました。中でも30万人を超える入場者数を記録した「teamLab：Au-delà des limites（境界のない世界）」展は、2018年に実施されたパリの展覧会入場者数第4位（テレラマ誌発表）にランクインしました。

伝統芸能シリーズは全公演が超満員

フィルハーモニー・ド・パリで2018年10月に行われた日本の伝統芸能シリーズ*2は、全公演が有効客席数に対して100%を越える超満員となりました。

*1 参加企画の来場者数は、2019年3月28日時点での企画主催者の報告値に基づきます。
*2「文楽」、「伶楽舎 × 森山開次」、「太鼓 林英哲と英哲風雲の会」、「日本舞踊」の4事業。

企画数

さまざまな分野の一級のアーティスト・作品が集結した公式企画の数は101件*3にのぼりました。特別企画4件及び参加企画204件を合わせると、合計309件もの企画がジャポニスム2018の枠組みで実施されました。

300以上

*3 在外公館事業を含む。

関係機関・団体

101件の公式企画は、会場も含め320余りの日仏官民の機関・団体による協力・連携のもと実施されました。ジャポニスム2018をきっかけに、日本とフランスに新たな交流・協力関係が生まれ、今後発展していくことが期待されます。

320以上

開催都市数

公式企画及び特別企画はフランスの20都市以上、参加企画は60都市以上において開催されました*4。これらの開催都市は、フランス本土にある12の地域圏全てに及びました。首都パリのみならず、マルセイユ・リヨン・トゥールーズ・ニースといった主要な地方都市、そして普段日本文化に触れる機会が少ない地域を含むフランス全土においてジャポニスム2018の企画が実施されたことで、フランスにおける日本や日本文化に対する関心を高めることができました。

60以上

*4「都市」はフランスの地方行政単位である「コミューン」を指します。

報道露出件数

ジャポニスム2018では、開催地となったフランスはもちろんのこと、日本国内においても広報活動に力を入れました。その結果、日仏両国の主要なメディアを含む多くの媒体にジャポニスム2018が取り上げられました。

10,000件以上

新聞	ウェブ・雑誌等*5	テレビ*6
1,718件	8,768件	143件

日本・フランス合計の件数（原則としてジャポニスム2018に言及している報道の件数）です。　期間：2017年9月1日～2019年2月28日
*5 ラジオ、通信社による配信を含む。*6 地上波・BSでの放送を確認できたもの（再放送を除く）の件数。

ウェブサイト・SNS実績

ジャポニスム2018では日・仏・英3言語の公式ウェブサイトを開設し、広報と情報発信のベースとしました。また、ウェブサイトと連動してツイッター、フェイスブック及びインスタグラムの公式アカウントを開設し、世界に向けて最新の情報を発信しました。

公式ウェブサイト　ページビュー数
期間：2017年11月22日～2019年2月28日
1,821,499件

公式ツイッター　フォロワー数
（日本語アカウント 6,939人、フランス語アカウント 4,765人）
（2019年2月28日時点）
11,704人

公式フェイスブック　フォロワー数
（日本語アカウント 1,441人、フランス語アカウント 44,584人）
（2019年2月28日時点）
46,025人

公式インスタグラム　フォロワー数*7
（2019年2月28日時点）
13,351人

*7 インスタグラムはフランス語アカウントのみ開設しました。

ジャポニスム2018の意義・成果

幅広い時代、さまざまな分野の珠玉の作品・アーティストが集結

伊藤若冲の最高傑作《動植綵絵》（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）、国宝の俵屋宗達《風神雷神図屏風》（建仁寺蔵）等の欧州初公開、火焔型土器をはじめとする多数の国宝・重要文化財を含む縄文時代の出土品、宮内庁式部職楽部の雅楽、能楽・狂言・日本舞踊における人間国宝の出演等、各分野の最高峰といえる作品・出演者による事業を実施しました。
また、チームラボ、2.5次元ミュージカル、初音ミク等現代の文化も紹介し、人気を集めました。

- 「日本舞踊」公演に出演した井上八千代氏・富山清琴氏、「能楽」公演に出演した野村萬氏、梅若実氏、浅見真州氏に対し、フランス政府が芸術文化勲章を授与しました。
- 欧州を代表する舞台芸術祭、「フェスティバル・ドートンヌ・パリ」にジャポニスム2018の公式企画から舞台10演目と映画1企画が選定されました。
- 2.5次元ミュージカルや初音ミクには欧州各地から観客が集い、世界的な集客力があることを証明しました。
- ジャポニスム2018に関するテレビ番組の放送や出演者のテレビ出演が多数ありました。事業のクオリティと人気の高さを証明するものといえます。

フランスにおける反応

ジャポニスム2018に対し、フランスのメディア、国民は高い関心を示しました。公式企画の来場者数は200万人を超え、展覧会だけで110万人を突破しました。特別企画の「パリ東京文化タンデム2018」、及び「ジャポニスム2018 参加企画」として認定された日本文化紹介事業とあわせると合計350万人以上の来場者を集めました。
フランスメディアによるジャポニスム2018に関する報道は、2018年11月～2019年2月の間で1,700件以上に及びました。

- 最も入場者数の多かった展覧会は、2018年5月15日から9月9日までラ・ヴィレットで開催された「teamLab : Au-delà des limites（境界のない世界）」展。30万人を超える入場者を集め、最後の数日間は1日7,000人が2時間～2時間半待ちの列をつくるほどの盛況となりました。
- 1か月で7万5,000人超の来場者があった「若冲―〈動植綵絵〉を中心に」展では、2時間待ちの行列もできたほか、カタログの初版は1週間で完売し、すぐに増刷となりました。
- フィルハーモニー・ド・パリで行われた伝統芸能公演（「雅楽 宮内庁式部職楽部」、「文楽」、「伶楽舎 × 森山開次」、「太鼓 林英哲と英哲風雲の会」、「日本舞踊」、「能楽」）は、全公演で満席、キャンセル待ちが出るほどの盛況で、日本の伝統芸能に対するフランス人の強い関心が示されました。
- 現代演劇シリーズの岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』は、パリ市近郊の移民等が多いジュヌビリエにおいて地元の参加者を募集し、これまでの人生の困難等を聞き取ってそれを演出・上演するという手法をとり、出演者にも地元の観客にも深い感動を与えるとともに、劇評でも高評価を得ました。
- 2018年10月にアクリマタシオン庭園で行われた「『地方の魅力』―祭りと文化」の祭り／踊り企画は、好天に恵まれ、週末の3日間で6万人を集客しました。日本各地の伝統的な祭りや踊りのパフォーマンスに加え、日本食の屋台も盛況で、早々に売り切れるものもありました。
- 在仏の日本人社会においても、ジャポニスム2018は高い評価を得ました。「普段日本に関心のない人がジャポニスム2018の企画の話をしていた」「日本への旅行に関心をもつ人が増えた」「日本人であることに誇りを感じた」等の感想が聞かれました。

日本各地の文化・魅力を発信

祭り・踊り、工芸品、日本酒等日本各地の文化を多様な事業形態の中で紹介しました。日本各地の地方自治体等も、地域の文化がパリでお披露目されるということに大きな期待をし、活発な広報活動を行いました。

- ジャポニスム2018に関する国内地方紙の報道は980件ありました（2018年9月～2019年2月）。ジャポニスム2018に関する全般的な報道に加え、各地方からのジャポニスム2018への参加、ゆかりの作品への言及が多く見受けられました。
- ジャポニスム2018の企画に関係する自治体の県知事が8名、市町村長が8名訪仏し、事業に参加しました。
- 宮城聰演出『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』の公演に際し、静岡県が行ったPR事業において、静岡県に関心をもつようになった来場者が数多くいたため、静岡県では2019年の米国公演でもPRを行うことを決定しました。

未来に向けた日仏の友好

ジャポニスム2018においては、青少年の交流事業、子どもや家族連れを対象にした事業も数多く実施され、将来の日仏関係の下地づくりにも貢献しました。

- 「teamLab : Au-delà des limites（境界のない世界）」展、「MANGA⇔TOKYO」展、アクリマタシオン庭園で実施した「『地方の魅力』―祭りと文化」の祭り／踊り企画には数多くの家族連れが訪れ、地方の伝統行事からB級グルメ、最新のデジタルアートまで、幅広い日本文化を楽しみました。また、「日本の食と文化を学ぶシリーズ」、「柔道 ジャポニスム2018 JITA-KYOEI PROJECT」等では、子どもを対象にした企画を実施し、若年層の日本文化体験を促進しました。
- 「高校生ニッポン文化大使」、「高校生プレゼンテーション発表会」等、日本の高校生がフランスにおいて日本文化について発信し、日仏の高校生が交流する事業を実施しました。
- 長年日仏の高校生交流に関わってきた教育関係者を教育交流アドバイザーとして1年間日本からパリに派遣しました。同アドバイザーは期間中37の学校訪問を行い、ジャポニスム2018の広報や日本文化の紹介を行いました。
- フランス教育省内の「アカデミー・ド・パリ」（日本の教育委員会に相当）は2017年9月～2019年6月を「日本の芸術文化シーズン」と位置づけ、パリ日本文化会館と連携のうえ、教師の日本文化体験や研修事業等の取組を推進しました。今後もパリの教育機関とパリ日本文化会館は協力関係を継続することとしています。

ジャポニスム2018実施による成果

文化発信・文化交流事業による成果は、必ずしも短期的に目に見える形で発生するものではありませんが、以下のような例が挙げられます。

- 「酒巡り in Paris」に参加したレストランのうち3店舗では、終了後も日本酒を恒常的に取り扱うことを決定しました。「日本茶月間」で提供したスイーツ、カクテルを採用したカフェもありました。
- ジャポニスム2018で展覧会を共催した日仏の美術館が、次なる展覧会の巡回実施に向けて検討を開始しました。
- 2018年のフランスからの訪日旅行者数は30万4,900人と初めて30万人を突破（対前年比13.5%増）しました。ジャポニスム2018では事業実施時にインバウンド広報に努めており、今後の動向が注目されます。
- ジャポニスム2018事業の来場者アンケートでは、イベント参加によって日本についてより知りたいと感じるようになったとの回答が85%、日本により親近感を感じるようになったとの回答が96%と、高い数値を示しました。

省庁連携・地方連携

省庁連携

ジャポニスム2018は、日本の文化･芸術をフランスにおいて紹介するのと同時に、東京2020オリンピック･パラリンピック競技会の機運醸成や、インバウンド観光の推進、日本産品の輸出促進等にも政府レベルで取り組んでいくことも視野に入れ、関係府省･独立行政法人等と情報交換を行いながら準備にあたりました。
公式企画の主催･共催、事業会場における広報協力等の連携を行ったほか、関係府省･独立行政法人においてもジャポニスム2018の機会に、関連する独自企画等を実施しました。

日本政府機関・独立行政法人等が主催・共催・連携を行った公式企画

・ジャポニスム2018開会式レセプション：国税庁（日本産酒類提供）

【展覧会】
・「深みへ ―日本の美意識を求めて―」展：日本酒造組合中央会（協力）
・「井上有一 1916-1985 ―書の解放―」展：京都国立近代美術館（特別協力）
・「若冲―〈動植綵絵〉を中心に」展：宮内庁三の丸尚蔵館（主催）
・「縄文―日本における美の誕生」展：東京国立博物館、文化庁（いずれも主催）
・「京都の宝―琳派300年の創造」展：京都国立近代美術館（主催）
・「ジャポニスムの150年」展：東京国立近代美術館（特別協力）
・「MANGA⇔TOKYO」展：国立新美術館、文化庁（いずれも主催）
・「藤田嗣治：生涯の作品（1886–1968）」展：京都国立近代美術館（主催）
・「古都奈良の祈り」展：奈良国立博物館、東京国立博物館（いずれも特別協力）

【舞台公演】
・雅楽 宮内庁式部職楽部：宮内庁（主催）、宮内庁式部職楽部（出演）
・松竹大歌舞伎：文化庁（主催）
・2018ジャポン×フランス プロジェクト（日本の障害者による舞台芸術の発信／瑞宝太鼓 in フランス）：文化庁（主催）

【映像】
・日本映画の100年：国立映画アーカイブ
・KINOTAYO現代日本映画祭：日本貿易振興機構（ジェトロ）（協賛）

【生活文化ほか】
・「日本の食と文化を学ぶ／楽しむ／考える」シリーズ 日本茶の世界：農林水産省（協力）
・伝統工芸シリーズ① TEWAZA：伝統的工芸品産業振興協会（主催）
・伝統工芸シリーズ② 日本の木で繋ぐ「和」の空間：伝統的工芸品産業振興協会、日本木材輸出振興協会（いずれも主催）、林野庁（協力）
・伝統工芸シリーズ③ 伝統と先端と―日本の地方の底力：自治体国際化協会（CLAIR）（主催）
・「地方の魅力」― 祭りと文化：日本政府観光局（JNTO）、自治体国際化協会（CLAIR）（いずれも共催）
・高校生ニッポン文化大使：文化庁（主催）
・日仏ダイアローグ④ シンポジウム「日本人が見たフランス、フランス人が見た日本」：人間文化研究機構（主催）
・いけばな：農林水産省（協力）
・高校生プレゼンテーション発表会：日本政府観光局（JNTO）（協賛）

独自事業、その他連携等

・総務省：放送コンテンツの海外展開支援事業の対象として日本文化に関連する番組を制作し、フランスで放映（参加企画2件）
・国税庁：ボルドーのワイン専門博物館ラ･シテ･デュ･ヴァンにおいて、日本ワインを題材としたセミナー、パネルディスカッション及び試飲会を実施（参加企画）
・国税庁･農林水産省：日本食材、日本産酒類をフランスの飲食ビジネス関係者等に紹介するイベントを実施（参加企画）
・日本政府観光局（JNTO）：ジャポニスム2018の企画関係者へのインタビューや企画テーマに関連した訪日旅行地の紹介記事を掲載したフランス語パンフレットを新規作成。日本のアート･デザイン･建築の魅力を伝える観光パンフレットをフランス語翻訳･増刷し、ジャポニスム2018の企画会場等で配布･ウェブ掲載。日本観光をアートの切り口から紹介した広報ムービーをパリ日本文化会館･公式企画会場等で上映。

地方自治体との連携

ジャポニスム2018では、日本各地の文化や魅力の紹介にも力を入れました。公式企画としては、「『地方の魅力』―祭りと文化」でのお祭り／踊りや文化の紹介、「伝統と先端と―日本の地方の底力」での伝統工芸品の展示･販売や職人による実演、「日本のお酒試飲の夕べ」での日本各地のお酒の紹介、「日本へのクリエイティブな旅展」での食･工芸等の各地特産品の紹介等に多数の自治体が参加するとともに、参加決定時から事業実施の模様までが地元のメディアで大きく取り上げられました。
東京都とパリ市の姉妹都市事業である「パリ東京文化タンデム2018」の4企画は「ジャポニスム2018 特別企画」と位置づけられ、広報面や集客面での連携による相乗効果を上げたほか、九州地域戦略会議主催の「九州合同プロモーション in フランス」や静岡県主催の「“ふじのくに”魅力発信事業」等、地方自治体が「ジャポニスム2018 参加企画」を独自に実施し、各地の魅力をアピールする試みも行われました。
また、奈良県の吉野を舞台とした河瀬直美監督の新作『Vision』の特別上映には奈良県や吉野町の特別協力を得たり、「いけばな」事業には山形県から約250本もの啓翁桜の寄付を受けたりする等、ジャポニスム2018では、日本の多様な文化の紹介に、各地の自治体や団体が非常に大きな役割を果たしました。
ジャポニスム2018の企画に、知事8名、副知事7名、市町村長8名、副市長村長2名が来仏し参加したことは、各地の自治体がジャポニスム2018を地元のアピールの機会として高く評価していたことを示しています。
また、奈良県がギメ東洋美術館と主催した「古都奈良の祈り」展は、国宝･重要文化財の仏像3体が出品され話題になったほか、「深みへ ―日本の美意識を求めて―」展、「縄文―日本における美の誕生」展ではパリに出品された各地の縄文の出土品が地元メディア等により報道されました。各自治体において自らの文化や歴史を再認識するきっかけとなったことも、ジャポニスム2018の成果の1つといえます。

現代演劇シリーズ　シンポジウム

●フランスは日本をどう観たか？

「ジャポニスム2018：響きあう魂」現代演劇シリーズを検証する

日　　時：2019年1月30日（水）19:00～21:00
会　　場：アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ
主　　催：国際交流基金、東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
協　　力：アンスティチュ・フランセ日本
言　　語：日本語・フランス語（日仏同時通訳付き）
登 壇 者：モデレーター
・藤井慎太郎（早稲田大学文学学術院教授）
演劇研究者・ジャーナリスト
・クリストフ・トリオー（パリ第10ナンテール大学演劇学部教授、ドラマトゥルグ）
・伊達なつめ（演劇ジャーナリスト）
・徳永京子（演劇ジャーナリスト）
・山口宏子（朝日新聞記者）
参加アーティスト
・岩井秀人（劇作家、演出家、俳優、劇団ハイバイ主宰。『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』にて参加）
・岡田利規（演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。『三月の5日間』リクリエーション及び『プラータナー：憑依のポートレート』にて参加）
・松井周（劇作家、演出家、俳優、劇団サンプル主宰。『自慢の息子』にて参加）　＊各欄五十音順、敬称略
来場者：103人

戯曲家・演出家9名、舞台公演8作品、リーディング2作品を一挙上演

ジャポニスム2018では、「現代演劇シリーズ」と銘打ち、現在日本を拠点としながら、国内外で活躍し、社会を鋭く見つめる視線をもったアーティストの10作品を2018年9月から12月までの約4か月にわたり上演。2019年1月、アンスティチュ・フランセ東京にて「フランスは日本をどう観たか?『ジャポニスム2018：響きあう魂』現代演劇シリーズを検証する」と題し、シンポジウムを開催しました。現地で観劇したジャーナリスト及び有識者の意見とアーティストの体験を国内の関係者と共有するための報告の場となった本シンポジウムでは、舞台芸術を通じた日本の文化紹介の枠を超え、成熟したフランスの観客の反応や今回の体験を踏まえて次なるステップへ進もうとするアーティストの証言等さまざまな意見が飛び交い、白熱した議論が行われました。

日本とフランスの間を行き来し、今回ジャポニスム2018の作品を観劇した藤井教授は「音楽、伝統芸能から2.5次元ミュージカルに至るまで幅広いラインナップで、公演だけで6万人*もの観客を動員している。特に現代演劇シリーズは難易度が高い作品であり、客席が埋まるか、客席からどういう反応が返ってくるかわからないリスクを背負う作品だったが、全ての公演が満席ないしほぼ満席だったことに非常に驚いている」と感想を述べました。また、ジャポニスム2018期間中にパリ大学の大学院生に向けて「日本現代演劇」と題したセミナーを実施したトリオー教授は、「現代演劇シリーズは成功以上のものであったと思う。フランスでは日本の舞台芸術を観劇できる機会は少ない。今回はクオリティの高さだけではなく、各作品の美意識にも驚かされた。我々が知らなかった日本の現代演劇がもつエネルギッシュで独創的、そして多様な世界観を見せてくれた」とコメントしました。

＊2019年1月30日時点

観客を魅了するアーティストの世界観

フランスの劇場シーズンのオープニングは9月。国立演劇センター ジュヌビリエ劇場ではタニノクロウ氏作・演出の『ダークマスター』『地獄谷温泉 無明ノ宿』が上演されました。トリオー教授はタニノ氏の作品について「今回2作品が上演されることによって、観客は2016年に招へいされたタニノ氏*の芸術性に確かなものを感じた。日常から乖離し、伝説のような空間に導いていく世界観にフランスの観客は魅了された」と語りました。

11月はパリを中心に数々の劇場が名だたるアーティストの作品を上演するシーズン。その11月に上演された木ノ下裕一氏の木ノ下歌舞伎『勧進帳』と藤田貴大氏演出『書を捨てよ町へ出よう』（以下『書を捨てよ』）。「『勧進帳』と『書を捨てよ』は能や歌舞伎、寺山修司等下敷きとなった作品の本歌取りをした作品。フランスの観客にどのように受け止められるか不安だった」という藤井教授。『勧進帳』は万聖節の休暇により当初集客に苦労したものの、フェイスブック上のプロモーションビデオにより客席は満席。「行ってみるとノリノリの観客だった」という藤井教授のコメントに加え、トリオー教授も「特に若い層は、歌舞伎ということよりも現代演劇としてのテキストに引き込まれていたのかもしれないが、下敷きとなる<何か>を感じ取っていたと思う」と話しました。『書を捨てよ』について山口氏は「寺山作品を知っている年配の観客は、寺山作品に日本の若いアーティストがどう向き合うか、日本演劇の文脈や演劇史に幅のある関心を寄せていたように感じた。たくさんの作品をまとめて見せることは、単体ではすくいきれない関心や日本の文脈を見せるのにいいやり方だったという印象」と感想を述べました。

また今回の現代演劇シリーズではフランス人俳優による飴屋法水氏作『ブルーシート』、前川知大氏作『散歩する侵略者』のリーディングもパリ市立劇場の協力で実現。ウェブでも聴くことのできるラジオドラマとして放送される等、今後の展開も期待される充実したプログラムになったことが紹介されました。

＊タニノ氏の『地獄谷温泉 無明ノ宿』は2016年にフェスティバル・ドートンヌ・パリにより招へいされ、パリ日本文化会館にて上演されました。

「何をつくるかより誰とつくるか」—アーティストの証言からみえてくるもの

2018年10月に新演出と新たなキャストとともにジュヌビリエ劇場で『自慢の息子』を上演した松井周氏。初のヨーロッパ公演に不安だったとしつつも、「いろんな感覚のアンテナを張っているお客さんが多く、国の関係にも通じる領土の取り合いというテーマや俳優の身体等あらゆる方向から楽しんでいることが嬉しかった」と率直な意見を述べました。ほかの登壇者からは「フランスでは表面化していない<引きこもり>という日本特有のテーマに新鮮に反応し、戸惑いながらも集中して見ていた」「フランスではここまで徹底的に異常なものを見せる作品はない。そのラディカルなところがいい意味での困惑や驚きに繋がったのだと思う」と分析しました。

『三月の5日間』、『プラータナー：憑依のポートレート』（以下『プラータナー』）の2作品をポンピドゥ・センターで上演した岡田利規氏からは「日本の演劇が海外で受け入れられることは、我々にとって重要なことなのだろうか?」との問題提起がなされました。2018年8月にバンコクで初演を迎え、12月にパリ公演を行った日タイ共同制作である『プラータナー』を通じ、「タイでは国家を考えるときに身体を用いて思考を展開する。タイでは舞台の中で語られる政治的な状況を実際に体験している人が観客であったが、パリ公演ではそれを体験していない観客というのがバンコク初演と大きく異なる点。外国での初演となったパリ公演は、いろいろな事を考えるきっかけになった。国籍よりもアーティスト個人を単位とすることが大事だと思う」という考えを述べ、観客の反応や作品と観客の距離について疑問を投げかけました。

最後は日仏共同制作を行った『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』構成・演出の岩井秀人氏。極右、引きこもり、ロマの人々との出会い、キャスティングのプロセス、通常より6倍の時間をかけた稽古等さまざまなエピソードを、笑いを交えながら語りました。観劇したジャーナリストからは、日仏の国・文化を超え「凄い物、びっくりしてもらう物ではなく、ここまでの労力と気持ちをかけてつくったという国際共同制作の過程自体に素朴ではあるが価値のある作品」「優れた演出家が海外からやってくるというだけでは成立し得なかった。他者の人生を扱うことはデリケートであり、岩井秀人だから可能であった」と述べました。岩井氏は「人生の大事なことを預けてもらって演出させてもらった。いわゆるお芝居をつくるという作業ではなかった。年々何をつくるかより誰とつくるかという思いが強くなっている。それを見た人が自由に考えてもらえればいい」と語りました。

アーティストだけでなく、観客にとっても新たな視点をもたらしたジャポニスム2018の「現代演劇シリーズ」。フランスの観客が、日本文化に対するエキゾチックな関心や国を超え、現代社会が抱える課題について疑問を呈し、共有するための場としての劇場に足を運んでいたこともわかりました。シンポジウムに参加した聴衆からは、メディアによる報道を通じてではなく、アーティスト自身や現地を取材したジャーナリストの証言を直接聞くことができてよかったとの声が聞かれました。

ジャポニスム2018 現代演劇シリーズ上演作品一覧

・タニノクロウ作・演出『ダークマスター』、『地獄谷温泉 無明ノ宿』
・リーディング 飴屋法水作『ブルーシート』
・リーディング 前川知大作『散歩する侵略者』
・松井周作・演出『自慢の息子』
・岡田利規作・演出『三月の5日間』リクリエーション
・岡田利規演出、ウティット・ヘーマムーン作『プラータナー：憑依のポートレート』
・木ノ下裕一監修・補綴、杉原邦生演出・美術　木ノ下歌舞伎『勧進帳』
・藤田貴大演出、寺山修司作『書を捨てよ町へ出よう』
・岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』

関係者の声

フランス側

モーリス・グルド＝モンターニュ
（外務次官）

日仏友好160年の年に、日仏間の響き合う魂の長い歴史を記念する、人々の記憶に残るイベントを開催できた。ジャポニスム2018は、今後、誰もが覚えている画期的な行事となるであろう。*1

ディディエ・デシャン
（国立シャイヨー劇場館長）

ジャポニスム2018は日本の芸術家との関係を一層深める絶好の機会であり、「松竹大歌舞伎」の公演は、まさに、高い身体表現と芸術性の融合であった。公演は連日満席。今後も日本の芸術家との交流を深めたい。*1

ディディエ・フュジリエ
（ラ・ヴィレット総裁）

これまでさまざまな国と文化交流行事を開催したが、これほどまでのプロ意識をもったパートナーと仕事をしたことはない。チーム・ラボが実施した展覧会には30万人を超す観客が訪れ、大成功であった。*1

ローラン・ベイル
（フィルハーモニー・ド・パリ館長）

フランスは、ドビュッシーをはじめ、音楽分野で日本から着想を得ることが多く、今回のジャポニスム2018でもフランスの聴衆は魅了されている。「雅楽」における時間の流れは特徴的で、素晴らしかった。*1

クリストフ・ルリボー
（パリ市立プティ・パレ美術館館長）

伊藤若冲をパリジャンに広める大きな役割を果たせた。24日間という限られた期間だったが多くの来場者が集まり、大成功だった。長蛇の列の来場者全員が展示を見られるよう、職員が自主的に残業するほどだった。*1

マリー・コラン
（フェスティバル・ドートンヌ・パリ芸術監督）

ジャポニスム2018のおかげで、今年のプログラムは特別な厚みをもつことができ、感謝の思いでいっぱいです。今年は確かに特別な年ですが、これからもフェスティバル・ドートンヌはパリ日本文化会館や他の劇場との連携を続けていきたいと思っています。*2

マヌエラ・モスカティエッロ
（パリ市立チェルヌスキ美術館キュレーター）

国家間において、芸術はなくてはならない役割を演じています。私はそれが妙薬として、世界の苦しみを癒すものになると考えています。楽観的な見方ではありますが、私はそう思います。*2

*1 2018年10月17日 安倍総理大臣との夕食会席上での発言
*2 国際交流基金ウェブサイトのインタビューより引用
*敬称略

日本側

津川雅彦
（俳優・故人）

ジャポニスム2018の開催を通して、縄文時代から現代に受け継がれてきた日本の美意識をフランスをはじめ世界中に伝えることによって、日本の人々が自国の文化を再発見し、未来を拓くきっかけとなることを願う。*3

平井正修
（臨済宗国泰寺派全生庵住職）

「禅」の話に真剣に耳を傾け、慣れない姿勢で頑張って坐禅をし、初めて持った筆と格闘しながら禅語を書く、そんなフランスの方々の姿に「禅」への興味、というか文化そのものへの関心の深さを感じ、私たちもその姿に学ぶべきものを感じました。*3

森川嘉一郎
（明治大学国際日本学部准教授）

「日本のマンガについてはよく知らなかったが、その文化的な厚みに感銘を受けた」というコメントを老夫婦からいただいたと、現地の学生スタッフが喜んでいたことが、とりわけ印象的でした。加えて掲示板には、思い出のキャラクターのイラストが描かれたカードもたくさん並び、日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮が、いかにフランスで愛好されてきたかを、あらためて感じることができました。*3

宮本亜門
（演出家）

マクロン大統領から「これまでに見たことがないような素晴らしい舞台だ」というお言葉をいただきました。たくさんの人の思いがあって、実現した舞台。能楽師の方々からも「こんな能をやりたかった」と言ってもらい、自分にとっても本当に幸せな時間になりました。*3

松田誠
（2.5次元ミュージカル協会代表理事）

作品とキャラクター、そして演じる役者が好きだという感情で、人種も年齢も超えた文化交流が結ばれていることにとても感動しました。*3

野村忠宏
（柔道家）

同じ畳の上で柔道衣を着てフランスの子どもたちと接して、すごく幸せな時間を過ごせました。日本で生まれた柔道が、フランスの中で教育として根づいていることを誇りに感じます。日仏がお互い学んで高め合える機会が増えればいい。競技としての柔道、教育としての柔道、いろいろな側面で交流できるのが柔道の強みであり、柔道家にとっての喜びです。*3

*3 国際交流基金ウェブサイトのコラム・インタビュー・レポートより引用
*敬称略

高 校 生 の 声

ジャポニスム2018では、未来の国際文化交流を担う若い世代が主役となる公式企画を2つ用意しました。「高校生ニッポン文化大使」では、日本の高校生3名が文化大使としてパリを訪れ、フランスの高校生らに向けて「縄文」の魅力を発信しました。また「高校生プレゼンテーション発表会」では、「日仏交流、この人に注目！ ―ジャポニスム2018につながる人と歴史―」をテーマに、日本とフランスの高校生たちがパリ日本文化会館でプレゼンテーションを行いました。ここでは、これらの企画に参加した日本の高校生の声をご紹介します。

（写真左から）「高校生ニッポン文化大使」を務めた小出遥香さん、蟹江菜々美さん、村川智哉さん。

「高校生ニッポン文化大使」参加者の声

小出遥香さん
（お茶の水女子大学付属高等学校1年）

フランスでは全く知られていないであろう縄文時代について、現地の方々にどこまで理解していただけるのか、どんな反応を示していただけるのか、発表をするまで想像がつきませんでした。しかし、フランスの方々は私たちの発表に興味を示してくれました。特に質疑応答の時間は、西洋の同時期の文化と絡めた質問等、それまでの私にはなかった観点からの質問が多く、私自身も大変勉強になりました。
「高校生ニッポン文化大使」としての活動を通じて、縄文時代についてより深く、正確に知ることができました。人に伝えることでその魅力を最も実感できたのは、実は私の方なのかも知れません。またフランスを訪れて、その土地に行って触れ合うということ、それによる発見の大切さに気付かされました。日本の文化についてより客観的に考えられるよい機会になりました。

村川智哉さん
（開成高等学校2年）

上野での研修、パリへの派遣はどちらも日本文化、特に縄文文化についてしっかり学べる貴重な機会でした。特にパリでは現地の皆さんの前で、自分が伝えたかった縄文文化を自分の言葉で伝える機会に恵まれ、とても充実した経験ができました。またパリの高校生との交流はとても楽しく、多くの人と会話し、自分の日常生活について紹介することができ、またパリの高校生が考えていることや彼らの普段の生活にも触れることができました。
そのほかルーブル美術館やオルセー美術館での見学も非常に勉強になり、なかなか生で見ることのできない絵画や彫刻を間近で見られたのは感動的でした。東京とパリで昔の文化に触れる機会をいただいたことにより、僕自身の中で文化的なものへの興味が自然と沸き起こってくるようになりました。今回得た気持ちを大切にして、今後も日本・世界の文化への興味や関心を強くもっていこうと思います。
このプロジェクトに参加し、多くの文化的な学びを得られると同時に、高校生には贅沢すぎる経験を数多く得ました。本当にありがとうございます。

蟹江菜々美さん
（金城学院高等学校1年）

私がこのプロジェクトを知ったのは、夏休みが始まって間もない頃の新聞広告がきっかけでした。「フランス行きは無理でも、もしかしたら東京に行って東京国立博物館で学べるかも！」そう思い、チャレンジしました。応募の作文のテーマは「伝えたい縄文の魅力」。作文では、縄文文化をこれから知る人たちに、いかにわかりやすく、身近にアニミズムを感じてもらうか、ということを意識しました。その結果、幸運にもパリ派遣のメンバーに選んでいただきました。
憧れのパリでの高校訪問では予想以上の歓迎を受け、私たちへの質問が絶えないことに驚きました。彼らはみんなフレンドリーで積極的な子たちばかりで、すぐ友達になりました。翌日のパリ日本文化会館でのプレゼンでも、発表後の質疑応答の時間は質問が絶えませんでした。前日に訪問した高校の先生が、プレゼン後に声を掛けてくださり、アニミズムに関心をもったと話してくれたことが、何より嬉しかったです。
初めて海外に行ってみて、フランスの人々の日本に対する関心の高さを実感し、未知のことを知りたい！という彼らの気持ちが、私の心に強く残りました。そして、日本のことをもっと知ってほしい、そのためには、自分の語学力を磨くのと同時に、日本の歴史や文化についての知識が必要だと痛感しています。

「高校生プレゼンテーション発表会」参加者の声

パリ日本文化会館における「高校生プレゼンテーション発表会」©MIHO

●日本からの参加者

吉田波南さん
（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）

今回ジャポニスム2018でプレゼンテーションに参加してみて、まず素直にとても楽しかったです。発表のときももちろんですが、昼食や懇親会のとき等に、私たちはフランス語で、フランス人高校生は日本語で話しました。すると向こうの人はここまで日本語が話せるのだなとわかり、ますますフランス語を学ぼうという意欲がわきました。この企画のおかげで私は異文化交流ができましたし、新たな発見をすることができました。

加藤栞里さん
（同上）

このたびは、「高校生プレゼンテーション発表会」に招待いただきありがとうございました。フランス人による日本語プレゼンテーションを見ることができ、また実際に私たち自身がフランス語でプレゼンできたので、とても貴重な経験となりました。また参加者、日本語学習者と会話をする機会をもつことができました。今回体験したものは、どれも忘れ難いものであり、これからもフランス語を学び続け、そして日本を宣伝する役目を担っていきたいと思います。

冨田絢賀さん
（同上）

今回最も心に残っているのは、フランスの高校生、しかも私たちより年下の高校生たちが、日本に興味をもってくれていると実感できたことです。日本の多様な文化に関心をもち、調べ、そして発表してくれたことをとても嬉しく思います。また、私たちのエミール・ギメについての発表に対して、たくさんの方々からお褒めの言葉をいただきました。私たちが日仏の関係をどうしていきたいか皆さんに伝わったことがわかり、準備を重ねてきてよかったと本当に思いました。これを活かし、世界で活躍できるよう、謙虚に努力していきます。

●フランスからの参加者

イオナ・ギュートさん
（バルトルディ高校）

発表会に参加することができていろいろな成果がありました。とても素晴らしい人々に出会いましたし、自分の日本語能力を磨き、さまざまなことを学ぶことができました。また、外国語で発言することは簡単ではないけれど、できないことではないのだと気がつき、自信をつけることができました。

フィエベ・満里さん
（サン・ジェルマン・アン・レイ国際高校）

全てが勉強になり、皆さんにもお世話になりました。いろんな人と交流できたことも、最高の思い出です。このプレゼンは、フランス人かつ日本人である私にとって、あらためて自分のアイデンティティを見直すきっかけとなりました。

アブデラク・ニザールさん
（ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ高校）

このようなイベントに参加するのは本当に楽しいことで、日本語の別の一面を見つけることができました。これからも日本語を勉強し続けないといけないと思いました。特に、日本語がうまく話せるようにもっと努力したいと思っています。本当に素晴らしい、やりがいを感じる体験でした。

イネス・フェソルさん
（フランソワ・マジャンディ高校）

発表会への参加によりたくさん得るものがありました。日本語をもっと熱心に勉強したいという気持ちになりました。

来場者の声

来場者アンケート

ジャポニスム2018の各公式企画で実施した来場者アンケートでは、約18,000人の回答が得られました*。
アンケート結果及びアンケートの自由記述コメントの一部をご紹介いたします。

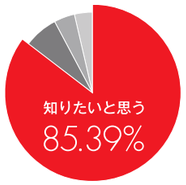
*公式企画の各種関連企画（講演会、ワークショップ等）で実施したアンケートの回答者数を含む。

アンケート結果

Q.1 今回参加されたイベントの満足度をお聞かせください。

満足	
とても満足	77.13%
満足	17.52%
どちらともいえない	2.13%
やや不満	2.01%
不満	1.21%

Q.2 あなたは今回のイベントに参加したことで、日本文化について、より一層知りたいと思いましたか？

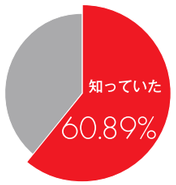


知りたいと思う	
とてもそう思う	61.67%
そう思う	23.72%
どちらともいえない	6.92%
あまり思わない	4.13%
全く思わない	3.56%

Q.3 あなたは今回のイベントに参加して、日本に親近感を抱くようになりましたか？

親近感を抱いた	
もともと親近感を抱いていたが、さらに親近感が増した。	69.67%
もともと親近感を抱いており、特に変化はなかった。	20.59%
もともと親近感を抱いていなかったが、親近感をもつようになった。	6.05%
もともと親近感を抱いておらず、特に変化はなかった。	2.99%
イベントに参加したことで、かえって親近感が低下した。	0.70%

Q.4 今回のイベントは、日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018」の一環として行われていますが、あなたは「ジャポニスム2018」について知っていましたか？



知らなかった	39.11%

Q.5 あなたは「ジャポニスム2018」のその他のイベントに関心がありますか？

関心はない	9.68%

回答者属性*

*属性について回答が得られたもののみ

性　別： 男性 5,292人（34.71%）、女性 9,762人（64.04%）、その他 191人（1.25%）

年齢層： 10代 1,629人（10.9%）、20代 2,818人（18.85%）、30代 2,323人（15.54%）、40代 2,217人（14.83%）、50代 2,164人（14.47%）、60代 2,324人（15.54%）、70代 1,288人（8.61%）、80代 167人（1.12%）、90代 21人（0.14%）

国　籍： フランス 9,681人（83.62%）、日本 510人（4.4%）、米国 129人（1.11%）、イタリア 119人（1.03%）、ドイツ 101人（0.87%）ほか多数

来場者の自由記述コメント（抜粋）

「深みへ—日本の美意識を求めて—」展	見事な演出で、全ての作品が会場の空間に完璧にマッチしていました。作品の選び方も素晴らしく、あらゆる傾向のものが共存していました。本当にありがとう、ブラボー！（30代男性、フランス）
「若冲—〈動植綵絵〉を中心に」展	ただただ素晴らしい。並外れた芸術家です。ディテールの水準と色遣いは目を楽しませてくれるものでした。不朽の作品に出会わせてくれた日本政府に感謝します。（年齢等不明）
HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE	このようなイベントが開催されること、そして西洋ではまだあまり知られていない日本のアーティストやアジアのアーティストがもっとフランスに来てくれることを心から願っています。（10代女性、フランス）
現代演劇シリーズ—岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビリエ編』	素晴らしい公演でした。とても感動的で、力強さと繊細さがありました。（60代女性、フランス）
能楽	とても新鮮でした。能楽を見て知る機会が得られて本当に嬉しいです。（20代女性、フランス）
「地方の魅力」—祭りと文化	日本のこの種のイベントに参加する機会はめったにありません。出演者と全ての参加者から喜びとサービス精神が伝わってきました。（40代、性別不明、フランス）
日本映画の100年	日本映画の全く知らなかった一面を発見することができました。（60代男性、国籍不明）

SNSの反響

ジャポニスム2018の各企画は、ツイッターやインスタグラムといったSNSにおいて、一般の方から好意的な反応を数多くいただきました。そのごく一部をご紹介します。

「teamLab：Au-delà des limites（境界のない世界）」展	@faty_0501（国:不明、Instagram）（URL:https://www.instagram.com/p/BmfwOlMh1dP/） 週末はジャポニスム2018。チームラボ展はまるでここでしかできない旅。 #チームラボ #ジャポニスム2018 #日本のアート #発見 #パリでの1日 #音と光 #五感の旅 #逃避 #旅 #夢 #テクノロジー #インタラクティブ #満喫
「深みへ—日本の美意識を求めて—」展	@melisseadit（フランス、Instagram）（URL:https://www.instagram.com/p/BmtyBsChJQK/） 「深みへ」は本当に素晴らしい展覧会。ジャポニスム2018の一環で、日本の美意識に浸れるイベント。驚きと詩的な美しさでいっぱいの展覧会は今年の夏のお気に入りの1つ♡
エッフェル塔特別ライトアップ<エッフェル塔日本の光を纏う>	@wilkonkeng（フランス、Instagram）（URL:https://www.instagram.com/p/BnshNWCIlFF/） 有名なジャポニスム2018を見れて超ラッキー。エッフェル塔が光と音で日本の色に。 #ジャポニスム #ジャポニスム2018 #エッフェル塔 #パリ #フランス #友情
松竹大歌舞伎	@nonono1204（フランス、Instagram）（URL:https://www.instagram.com/p/Bn9JsN-BTEx/） 中村獅童さん七之助さんの息遣いが伝わる素晴らしい物拝見できました♡素敵だった♡ #パリで歌舞伎 #日仏交友160周年 #シャイヨー宮 #中村獅童 #中村七之助 #ジャポニスム2018
「若冲—〈動植綵絵〉を中心に」展	@MrsCaroline_C（フランス、Twitter）（URL :http://twitter.com/MrsCaroline_C/statuses/1051078832634105856） 最終日前日に@プティ・パレで#若冲展を見れた！力強い色彩、目を見張るディテール、並外れた自然の描写。@ジャポニスム2018は今パリで起こっている最高の出来事の1つ
ジャポニスム2018 テクノ・イベント TOKYO HIT vol.3 クラブ・イベント feat.石野卓球	@HwPnCSim1seHwcU（国:不明、Twitter）（URL:http://twitter.com/HwPnCSim1seHwcU/statuses/1046796182024945666） #TokyoHitVol3で@石野卓球のパーティー2時間楽しんだ。サイコーの夜！よい音楽にビール
野田秀樹演出『贋作 桜の森の満開の下』	@maryouth（フランス、Instagram）（URL:https://www.instagram.com/p/BofS6WnB5-p/） 野田秀樹の『贋作 桜の森の満開の下』千秋楽。お見事。このエネルギーと常軌を逸した想像力にずっと染まってしまいたい
「縄文—日本における美の誕生」展	@shugounenq（フランス、Twitter）（URL:http://twitter.com/shugounenq/statuses/1053323436238557184） パリ日本文化会館での素晴らしい#縄文展（中略）あと2か月もしないうちに全て日本に帰ってしまうので、見逃せない #ジャポニスム2018
「地方の魅力」—祭りと文化	@afo2grafy（フランス、Instagram）（URL:https://www.instagram.com/p/BpNqDGdBTmg/） 立佞武多。こんな素晴らしいイベントをありがとう！@アクリマタシオン庭園　@ジャポニスム2018 #五所川原 #祭り
宮城聰演出『マハーバーラタ～ナラ王の冒険～』	@fxrparis（フランス、Twitter）（URL:http://twitter.com/fxrparis/statuses/1064631580327665664） 宮城聰は演出の天才！リズムに富んだ感動の、比類ない舞台。ありがとう、@ラ・ヴィレットと@ジャポニスム2018！
「MANGA⇔TOKYO」展	@FxMacCobra（フランス、Twitter）（URL:http://twitter.com/FxMacCobra/statuses/1069394543865458689） @ジャポニスム2018を巡る旅を再開して、@ラ・ヴィレットでの「MANGA⇔TOKYO」展を昨日訪問。本当に興味深い、驚くような展覧会。印象に残る東京の街の模型以外にも、版画や浮世絵…
HATSUNE MIKU EXPO 2018 EUROPE	@JessicaBayle_（フランス、Twitter）（URL:http://twitter.com/JessicaBayle_/statuses/1069303034746937345） 本当に素敵なコンサート。ただただ素晴らしい @mikuexpo @ジャポニスム2018 #ラ・セーヌ・ミュージカル
「古都奈良の祈り」展	@pierre_arts（フランス、Twitter）（URL:http://twitter.com/pierre_arts/statuses/1087795942433013760） 13世紀（ママ）の卓越した3体の像が初めて日本の外に出た！この偉業に、美術館の関係者達にブラボー #ジャポニスム2018

*本ページに引用したSNSの投稿の最終アクセス日：2019年3月6日

第5章

広報・PR

ジャポニスム2018の存在を広めるために実施された
PR活動や施策をご紹介します

広報活動総括……116
広報大使……117
報道実績……118
公式ウェブサイト・SNS……120
広告・広報協力……121
広報グッズ……122
ジャポニスム 2018 情報センター…123

広報活動総括・広報大使

ジャポニスム2018における広報活動 総括

ジャポニスム2018の広報において特筆すべき点として、事業が実施されるフランスにおいてのみならず、日本国内においてもジャポニスム2018の周知に力を入れたことが挙げられます。
これは、海外において日本の文化、日本人の美意識･価値観を紹介し、現地の方々に理解を深めてもらうのみならず、これらが海外においてどう評価されたか、どのような反響があったかを日本に伝えることにより、日本人や日本に住む方々にとっても、日本文化についてあらためて認識を深め、今後の文化の承継や発展について考える契機とすることが重要という、「日本の美」総合プロジェクト懇談会やジャポニスム2018総合推進会議での議論を踏まえたものです。

この方針に基づき、日本国内においては、日仏両国における2017年11月の開催記者発表会を皮切りに、新聞･雑誌･テレビ･インターネット等さまざまな媒体においてジャポニスム2018全体及び個別の企画の紹介の働きかけを行いました。また、事務局の公式ウェブサイトやSNSにおいて、事業内容や事業に対する反響についての情報発信を積極的に行いました。
また、現代アーティストとしても活動し、日本で幅広い層に人気のある香取慎吾氏を「ジャポニスム2018広報大使」に任命し、フランスでの個展開催やご自身のSNSでの発信等を通じて、ジャポニスム2018の国内での周知にご協力いただきました。

フランスにおいては、個別の企画の実施会場と連携した集客のための広報はもちろん、ジャポニスム2018全体を特集記事等で紹介してもらうためのメディアへの働きかけ、ウェブサイトやSNSでの情報発信、街頭や地下鉄駅でのポスター掲示、映画館でのCM放映、文化施設でのプログラム配布、各種広報グッズの作成等も行いました。
また、フランスの若者に日本への関心を高めてもらうために、日本からジャポニスム2018教育交流アドバイザー1名を1年間派遣し、学校訪問による日本文化やジャポニスム2018の紹介、公式企画出演者による学生向けのワークショップ開催アレンジ等を行い、将来に向けた日仏友好の土台づくりのための広報も行いました。
事務局による広報に加え、駐フランス大使によるSNSでの発信や、日本への観光誘致を目的としたジャポニスム2018に関連する観光地の紹介パンフレット配布等、日本政府、政府関係機関による広報活動も行われました。

これらの多様な広報活動を通じて、日仏両国においてジャポニスム2018や日本文化についての報道が数多くなされ、ジャポニスム2018が幅広く認知されるとともに、日本文化や日本人のものの考え方、文化交流等についての関心が高まったと考えています。

広報大使、香取慎吾さん

日本国内におけるジャポニスム2018の知名度の向上と参加者の機運醸成のため、幅広い層に発信力をもち、公式企画として個展「香取慎吾 NAKAMA des ARTS」を開催された香取慎吾さんに広報大使を委嘱し、開催期間中ジャポニスム2018の広報にご協力いただきました。
出陣祝賀会では安倍総理大臣から手渡された法被を羽織りながら「たくさん拡散していきます！」とダジャレを交えて意気込みを語り、その模様はテレビや新聞でも数多く取り上げられました。
9月に個展のオープニングのために渡仏した際には、中村獅童さんや東京ゲゲゲイの方々と対談を行い自身のインターネットテレビの番組で放送したほか、パリ日本文化会館で開催したレセプションでも、積極的にフランスの関係者に向けジャポニスム2018をPRしていただきました。
またジャポニスム2018の公式ツイッターでも、広報大使就任を伝える投稿は100万インプレッション、個展の開催は65万インプレッションを記録する等、香取さんに関する記事は多くの関心を集め、非常に高い広報効果がありました。

2018年7月に開催した出陣祝賀会での安倍総理大臣とのツーショット

2018年9月に実施したレセプションでの様子

香取さん（写真中央）の個展内覧会での様子。
稲垣吾郎さん（写真左）、草彅剛さん（写真右）も駆けつけました。
写真提供：株式会社モボ･モガ

報 道 実 績

日本・フランスでの報道件数

2017年9月から2019年2月までの1年半の間に、ジャポニスム2018に関する報道は1万件を超えました。

	新聞	ウェブ・雑誌等*1	テレビ*2	計
日本	1,543	7,232	106	8,881
フランス	175	1,536	37	1,748
合計	1,718	8,768	143	10,629

*1 ラジオ、通信社による配信を含む。
*2 地上波・BSでの放送を確認できたもの（再放送を除く）の件数。

日本での報道

【主要紙での報道】

日本の文化外交や日本文化の海外展開の新たな取組として、ジャポニスム2018を社説や特集記事で取り上げたり、閉幕後に総括記事を掲載したりする報道が数多く見られました。また、2018年の文化分野での年末回顧記事において、ジャポニスム2018に言及した記事も多数ありました。

主要6紙（朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・日本経済新聞・産経新聞・東京新聞）だけでも300件以上の報道がなされましたが、全体として、ジャポニスム2018の取組を評価する論調が多くを占めました。

【地方紙での報道】

ジャポニスム2018では、全国各地の美術品の展覧会出品、祭りや食文化、伝統工芸等、地方文化の紹介も数多く行われました。関係する地域の地方紙において、地元の作品や文化がジャポニスム2018で紹介されることを伝える報道が多数あり、地方紙による報道件数は約1,000件に達しました。

【ウェブ・雑誌等での報道】

ウェブ・雑誌等でジャポニスム2018に言及した記事は、確認できたものだけで7,000件を超えました。個別の企画が美術や舞台専門の媒体で数多く紹介されたほか、2018年のフランスの見どころとしてジャポニスム2018の企画を紹介する旅行雑誌の特集、舞台専門のサイトでジャポニスム2018に参加した演劇作品を紹介する特集、ジャポニスム2018に参加したアーティスト・関係者へのウェブマガジンでのインタビュー等、さまざまな媒体で多様な切り口の紹介が行われました。

【テレビでの報道】

個別の企画のオープニングや要人訪問のニュース報道に加え、ジャポニスム2018の文化外交上の意味合い等について論評する番組や、ジャポニスム2018の見どころについて紹介する番組も制作されました。また、パリでの公演や展示の様子を密着取材したドキュメンタリー番組や、パリ公演の録画放映を行った番組も複数制作され、総件数は100を超えました。

フランスでの報道

もともと日本文化への関心が高いフランスにあって、過去にない規模で、これまであまり知られていないジャンルや内容にまで幅を広げて日本の文化・芸術の紹介が行われたこと、また全ての分野において一級の作品や参加者を集める等企画の質が高いこと等から、ジャポニスム2018はフランスのメディアの高い関心を集め、総報道件数は確認できたものだけで1,700件を超えました。報道の多くはジャポニスム2018に注目し、会場にぜひ足を運ぶべき、という好意的なものでした。

フランスを代表するル・モンド紙等でもジャポニスム2018の特集が組まれたほか、ボザール誌等の美術専門誌やテレラマ誌等読者の多いメジャーな雑誌でも多数の報道がなされました。

皇太子殿下がご訪仏の際にジャポニスム2018の複数の行事に参加されたことも数多く報道され、日仏友好160年を機とした両国の友好親善を裏づけるものとなりました。

【フランス国内における主な報道（抜粋）】

「ガストロノミーから建築、映画から舞台、コンテンポラリーアートから古代の芸術まで、『ジャポニスム2018：響きあう魂』は日仏友好160年を記念し、フランス全土で爛漫に花開く。日本文化の過去と現在を理解するこの上ない機会である。」（ボザール誌、2018年7月号）

「パリ、日本文化のショーウインドーに」
「お家芸の歌舞伎からデジタルアートまで、東京からやってきたクリエーションのあらゆる面を発見できるイベント。」（ル・モンド紙、2018年7月5日）

「日仏の愛の物語」
「19世紀、印象派の画家たちは日本の浮世絵にインスピレーションを得た。今日、未知の魅惑へと誘うのはマンガ、ファッション、美食である。」（AFP通信、2018年7月12日）

「パリ、日本の首都に」
「これだけの日本文化の真骨頂が一堂に会する機会は、今後長らくないであろう。話によると、なんと多くの日本人が、日本でもほぼ見ることのできないこれらの作品を一目見ようとチケットを予約したそうである。」（テレラマ誌、2018年7月10日）

「エッフェル塔が日本色の光を纏う」
「13日、皇太子殿下ご臨席のもと、日仏友好160年を記念して、エッフェル塔のライトアップが日本の色になった。国立シャイヨー劇場で行われた歌舞伎の舞台公演の初日を観劇された皇太子殿下は、エッフェル塔を前に、2日間限りの特別なライトアップショーの点灯ボタンを押された。」（ル・フィガロ紙オンライン版（AFP通信に基づく）、2018年9月13日）
（URL：http://www.lefigaro.fr/flash-actu/2018/09/13/97001-20180913FILWWW00379-la-tour-eiffel-illuminee-aux-couleurs-du-japon.php）
*最終アクセス日：2019年3月13日

「日本がエースのフォーカード」
「どこもかしこも日本?明治・開国150周年に日仏外交樹立160周年を記念して『ジャポニスム』が最高潮に達しているから無理もない。」（ル・パリジャン紙、2018年12月2日）

日本・フランス以外での報道

ジャポニスム2018は日本・フランス以外の国のメディアでも多数報道されました。中国では、2018年7月に署名に至った日EU経済連携協定に係る報道の中でジャポニスム2018に言及するケースが多数見られたほか、「深みへ―日本の美意識を求めて―」展等、個別の企画に関する報道も見られました。また英国やロシアでは、日本政府が大々的に日本文化紹介事業をフランスで行うことが報じられたほか、ブラジルにおいてもジャポニスム2018が伝統芸能や現代アート、生活文化等の多彩な企画で構成された大規模な事業であることが報道されました。

公式ウェブサイト・SNS／広告・広報協力

公式ウェブサイト・SNS

ウェブサイト

日本語：https://japonismes.org/
フランス語：https://japonismes.org/fr/
英語：https://japonismes.org/en/

ジャポニスム2018の広報、情報発信のベースとして、2017年11月の開催記者発表会にあわせて公式ウェブサイトを開設しました。イベント参加者向けの情報（企画概要、カレンダー、地図）と、ジャポニスム2018への興味や理解を促す読みもの（インタビュー、コラム、レポート）を中心に、SNSと連動しながら各種情報を発信しました。
また日本とフランス以外の国・地域への情報提供も目的として、主なコンテンツは日仏英の3言語により更新を行いました。公式ウェブサイトの総ページビュー数は、3言語を合わせて1,821,499件*でした。

*期間：2017年11月22日～2019年2月28日

フェイスブック

日本語：https://www.facebook.com/japonismes2018.jpf
フランス語：https://www.facebook.com/japonismes2018

日本語アカウント

フォロワー数：	1,441
投稿数：	234
リーチ総数：	293,104
いいね総数：	18,213

フランス語アカウント

フォロワー数：	44,584
投稿数：	475
リーチ総数：	12,038,466
いいね総数：	384,750

ツイッター

日本語：https://twitter.com/japonismes2018_
フランス語：https://twitter.com/Japonismes2018

日本語アカウント

フォロワー数：	6,939
ツイート数：	798
インプレッション総数：	19,946,837
いいね総数：	283,803

フランス語アカウント

フォロワー数：	4,765
ツイート数：	2,484
インプレッション総数：	5,044,000
いいね総数：	48,000

インスタグラム

フランス語：https://www.instagram.com/japonismes2018/

フランス語アカウント

フォロワー数：	13,351
投稿数：	420
いいね総数：	161,893

（数字はいずれも2019年2月28日時点）

広告・広報協力

❶新聞広告

日本経済新聞での広告

ジャポニスム2018オープニング前日の2018年7月11日（水）に日本経済新聞に広告を掲載しました。

読売新聞オンラインでの広告

ジャポニスム2018の会期終了を前に2019年2月から3月にかけて、読売新聞オンラインのウェブサイト上に2種類の広告バナーを掲載し、ジャポニスム2018とその成果を広報しました。

フランス主要紙での広告

ジャポニスム2018とその成果をフランス国内であらためて広報するため、2019年2月末から3月初旬にかけて、フランスの主要紙であるル・モンド紙、ル・フィガロ紙及びル・パリジャン紙に広告を掲載しました。

❷パリ市内での街頭広告

2018年7月から9月にかけて、パリ市内のシャンゼリゼ通りをはじめとする中心地や地下鉄の駅構内において、ジャポニスム2018のポスターを掲出しました。また、街頭や駅構内、映画館のデジタルサイネージにおいてティーザー動画の放映を行い、パリにおけるジャポニスム2018の周知を図りました。

❸広報協力

ロゴマーク入りワイン

オフィシャルパートナーである日本航空株式会社の国際線プレミアムエコノミー・エコノミークラス（ロンドン、パリ線等）にて、2018年8月1日（水）から約3か月間にわたって、ジャポニスム2018のロゴマーク入りワインが提供されました。

航空機内CM

オフィシャルパートナーである全日本空輸株式会社の国内線・国際線の全便にて、2018年9月の1か月間、ジャポニスム2018のCM映像が機内で放映されました。

広報グッズ・情報センター

●広報グッズ

ステートメント（日本語）

2017年11月に東京で実施したジャポニスム2018開催記者発表会にて、事前広報の一環として報道機関に配布しました。

フライヤー（フランス語）

2018年7月のジャポニスム2018のオープニングを前に、事前広報の一環としてカードタイプのフライヤーをパリ市内の各所にて配布しました。

プログラム冊子（日本語版・フランス語版）

公式企画と特別企画を紹介するプログラム冊子を日仏2言語で作成し、ジャポニスム2018のイベントやパリ日本文化会館内の情報センターにて配布しました。

ロゴ入り法被

2018年7月の出陣祝賀会で広報大使の香取慎吾さんや安倍総理大臣が着用したほか、関係者がジャポニスム2018のイベントにて着用しました。

ロゴ入りTシャツ（大人用・子ども用）

日仏の事業関係者や協力団体に配布しました。また、ジャポニスム2018のイベント会場にて参加者や運営スタッフが着用しました。

ピンバッジ

日仏の事業関係者や協力団体に配布しました。目を引く鮮やかなロゴマークが好評で、ジャポニスム2018の開催期間中、多くの方に着用いただきました。

トートバッグ（力士・招き猫・扇子）

日本文化をモチーフにした3種類のトートバッグを制作し、パリにて関係者や来場者に配布しました。

缶バッジ（力士・扇子・折り紙・招き猫・ラーメン）

日本文化をモチーフにした5種類の缶バッジを制作し、ジャポニスム2018のイベントやパリ日本文化会館内の情報センターにて、広く一般の方に配布しました。

●ジャポニスム2018情報センター

パリ日本文化会館地上階の一部を「ジャポニスム2018情報センター」に改装（デザイン：Atelier Tsuyoshi Tane Architects）し、常設の情報提供スペースとして情報発信を行いました。
専属の案内係が常駐し、ジャポニスム2018事業に関する開催日時や会場・チケット情報等の照会対応を行いました。場内では、イベントのチラシやカタログ、グッズ等の広報資料を陳列・配布したほか、大型モニターでの関連映像の放映や、各公式企画の吊り下げポスターの作成といった広報活動を実施。
また情報センターへの集客を目的として、初音ミクやゴジラのフィギュア展示、公式企画出演者のセーラー戦士によるミニイベントを開催しました。
隣接するイベントスペースにおいても、NHKによる8K映像の紹介、伝統工芸やいけばなの作品展示等さまざまな企画が実施され、文化会館で開催されている展覧会や舞台公演の来場者も訪れる等、多様な日本文化に触れられる場として、期間を通じて多くの来場者が集まりました。

パリ日本文化会館外観

ジャポニスム2018情報センターでのセーラー戦士イベント
©武内直子・PNP／"Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live製作委員会

ジャポニスム2018情報センター

オフィシャルパートナー・オフィシャルサポーター等

オフィシャルパートナー

ANA Inspiration of JAPAN

JAL JAPAN AIRLINES

木下グループ

TOYOTA

パリ日本文化会館・日本友の会

オフィシャルサポーター

三菱重工

RENAULT NISSAN MITSUBISHI

SHISEIDO

損保ジャパン日本興亜

とらや

特別協力

îledeFrance

協力

COMITÉ D'ÉCHANGES FRANCO JAPONAIS

AARJF

CCITF

CCI PARIS ILE-DE-FRANCE

日仏合同委員会

外務省 Ministry of Foreign Affairs of Japan

Ambassade du Japon en France 在フランス日本国大使館

Liberté • Égalité • Fraternité RÉPUBLIQUE FRANÇAISE MINISTÈRE DE L'EUROPE ET DES AFFAIRES ÉTRANGÈRES MINISTÈRE DE LA CULTURE

MAIRIE DE PARIS

INSTITUT FRANÇAIS

JAPANFOUNDATION 国際交流基金

Maison de la culture du Japon à Paris

関係省庁

beyond 2020

Japan. Cool Japan.

総務省 Ministry of Internal Affairs and Communications

税

文部科学省 MEXT

農林水産省

経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry

観光庁 Japan Tourism Agency

パリ日本文化会館・日本友の会とは

日仏の官民協同により、1997年に設立されたパリ日本文化会館は、フランスにおける日本文化の発信拠点です。伝統文化に始まり今日の日本を語る現代文化まで、あらゆる角度から日本を紹介してきました。これまでに、展示、公演、映画、講演会の実施や図書館運営を行ってきたほか、日本語教育の普及や和食文化の紹介、さらには茶道・書道・いけばな・折り紙・マンガ等多彩な内容の教室を実施しています。日本友の会は、日仏・官民協同の理念を継続的に具現化していく日本側の民間組織として、フランス側の支援協会とともに1998年に発足し、パリ日本文化会館がフランス及び欧州において幅広い活動を展開していく事業支援を行っています。

株式会社 アイアンドエス・ビービーディオー
曙ブレーキ工業株式会社
アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社 朝日新聞社
味の素株式会社
株式会社 ADKホールディングス
株式会社 NHKエンタープライズ
オリックス株式会社
株式会社 オンワードホールディングス
鹿島建設株式会社
キッコーマン株式会社
キヤノン株式会社
株式会社 講談社
茶道裏千家 今日庵
株式会社 産業経済新聞社
サントリーホールディングス株式会社
株式会社 JTB
株式会社 塩崎ビル
四国電力株式会社
株式会社 資生堂
清水建設株式会社
株式会社 集英社
株式会社 小学館
昭和電工株式会社
株式会社 新潮社
新日鐵住金株式会社
住友化学株式会社
住友生命保険相互会社
全日本空輸株式会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
ダイキン工業株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
高砂香料工業株式会社
株式会社 竹中工務店
株式会社 テレビ朝日
株式会社 テレビ東京
株式会社 電通
東京電力ホールディングス株式会社
株式会社 東京放送ホールディングス
株式会社 東芝
東レ株式会社
凸版印刷株式会社
トヨタ自動車株式会社
豊田通商株式会社
株式会社 虎屋
日油株式会社
日産自動車株式会社
株式会社 日本経済新聞社
日本航空株式会社
株式会社 日本廣告社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本ミシュランタイヤ株式会社
株式会社 博報堂
株式会社 パソナグループ
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社 日立製作所
株式会社 フジテレビジョン
株式会社 文藝春秋
株式会社 毎日新聞社
丸紅株式会社
株式会社 三城ホールディングス
三井物産株式会社
三菱重工業株式会社
三菱商事株式会社
株式会社 読売新聞東京本社
株式会社 ワコール
ほか1社

（計69社、五十音順）

（2019年3月31日時点）

ジャポニスム2018 事業報告書

2019年5月31日発行

発行：独立行政法人国際交流基金

編集･デザイン：凸版印刷株式会社

編集協力：株式会社キュリオス

印刷･製本：凸版印刷株式会社

写真提供：本文中に記載のないものは
国際交流基金の提供による